



平成29年度
宮城県検証改善委員会報告書

「やるぞ!」を引き出し、
「できた!」を実感させる
授業を目指して



宮 城 県 教 育 委 員 会

は じ め に

平成29年度全国学力・学習状況調査が、国語と算数・数学の2教科を対象に、昨年(平成28年)の4月18日に実施されました。

この調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する持続的な検証改善サイクルを確立すること、また学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることにあります。

今年度より、政令指定都市の学力・学習状況調査結果が公表されることになり、本報告書では、仙台市を除いた結果を用いています。本県では、全ての教科で全国平均正答率を下回る結果となりました。

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた本県児童生徒の学力向上に向けての詳細な分析と対応策等を取りまとめるため、今年度も宮城県検証改善委員会を設置し、協議・検討を重ねてきました。

今年度の報告書は、タイトルを『やるぞ!』を引き出し、『できた!』を実感させる授業を目指して」とし、児童生徒の学習意欲の喚起と学習内容の確かな定着を目指す授業改善、効果的な家庭学習、小・中連携について、より具体的・実践的な提言をまとめました。また、指導例については、課題が見られた問題について児童生徒の誤答傾向の分析を行い、指導改善のポイントを示しました。児童生徒の実態に応じた授業改善を実践していくことこそが、児童生徒一人一人の確かな学力を育むことにつながるものだと考えています。

さらに、「学力向上に向けた5つの提言」の提言1で示したように児童生徒に声を掛け、児童生徒の声に耳を傾けること、また、学年ごとの学習内容をしっかり習得させるとともに学年間・校種間の系統性を意識することなど、教育の不易の部分こそが、授業改善をより効果的にしていくものであると考えます。

各学校における授業改善に本報告書を積極的に活用し、本県の児童生徒の学力向上に役立てていただければ幸いです。

平成30年1月

宮城県教育委員会

教育長 高 橋 仁

第1章 児童生徒の学力向上に向けて

1 宮城県検証改善委員会からの提言

- 提言1 「やるぞ!」を引き出し
「できた!」を実感させる授業を!! — 1
- 提言2 学習意欲の向上につながる家庭学習に! — 3
- 提言3 深めましょう!小・中連携の絆! — 5

2 みやぎ授業づくりスタンダード

教師も子供も「本気で取り組む」みやぎ授業づくりスタンダード
(平成25年度作成) — 7

本 本時で何を学ばせるのかを考えましょう!
気 気付きを生かして自分の考えを書かせましょう!
で 出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう!
と 説くことでなく、振り返らせることで自ら学びを実感させましょう!
り 理想の授業、指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう!
く 繰り返し、継続して授業を参観し合い、授業改善に取り組みましょう!
む 夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう!

3 「指導改善のポイント」を踏まえた指導例 — 17

【小学校 国語】

- ・ A [4] 二 「好きな俳句を紹介する」 — 18
- ・ B [1] 三 「スピーチの練習をする」 — 20
- ・ B [2] 三 「協力を依頼する文章を書く」 — 23
- ・ B [3] 三 「物語を読んで、感想を伝え合う」 — 26

【小学校 算数】

- ・ A [2] (3) 「加法と乗法の混在した整数と小数の計算」 — 29
- ・ A [8] 「□を使った式」 — 31
- ・ A [9] (2) 「資料の分類整理」 — 33

【中学校 国語】

- ・ B [1] 三 「文学的な文章を読む」 — 35
- ・ B [2] 三 「スピーチをする」 — 38

【中学校 数学】		
・ A 2 (1)	「文字式の計算とその利用」	41
・ A 7 (2)	「証明の根拠」	43
・ A 10 (2)	「比例の式とグラフ・反比例の表」	45

第2章 全国学力・学習状況調査結果

I	全国学力・学習状況調査結果の概要	47
II	各教科の調査の結果	50
III	類似問題の経年比較	66
IV	過去の調査との同一問題の正答率の比較	74
V	児童生徒質問紙調査結果の概要（抜粋）	75
VI	学校質問紙調査結果の概要（抜粋）	81
VII	「学力向上に向けた5つの提言」に関わる	
	児童生徒質問紙調査結果と正答率のクロス集計の結果	86
VIII	児童生徒質問紙調査，学校質問紙調査 集計結果	90
資料	『学力向上に関する緊急会議』からの提言	96
資料	『学力向上に向けた5つの提言－理解 継続 自校化－』	97
資料	『算数・数学ステップ・アップ5 事例集』	105
	教員の授業力向上，児童生徒の学力向上に結び付く	
	参考文献等へのアクセス方法	106
	宮城県検証改善委員会について	107

第1章

児童生徒の学力向上に向けて

1 宮城県検証改善委員会からの提言



- 提言1 「やるぞ！」を引き出し「できた！」を実感させる授業を！！
- 提言2 学習意欲の向上につながる家庭学習に！
- 提言3 深めましょう！小・中連携の絆！

「分かる・できる」授業づくりを目指して、平成25年度に「みやぎ授業づくりスタンダード」を提案しました。平成26年度は「見通し・振り返り」の学習活動に視点を当てた「確かな学力への入口～みやぎ授業づくりスタンダードの活用～」，平成27年度は，仲間と関わり合いながら，自分の考えや集団の考えを広げたり深めたりする「確かな学力を育む学び合い」，昨年度は，「といてみたい」「考えてみたい」と，児童生徒が自らの課題として明確に捉え，授業に取り組んでいけるような「意欲を高める学習課題」を提案しました。

本年度は「授業改善」「家庭学習」「小・中連携」の取組について提言します。さらに，宮城県の児童生徒の学力向上を目指す取組について，具体的に提案しています。

本報告書を活用し，日々の教育実践に取り組むことで，先生方の授業力が向上し，児童生徒の「確かな学力」が育まれることを期待します。

提言 1

やるぞ!

を引き出し

できた!

を実感させる授業を!!

なかなか時間どおりに授業が終われないわ。
子供たちは、十分にめあてが達成できたのかしら…?



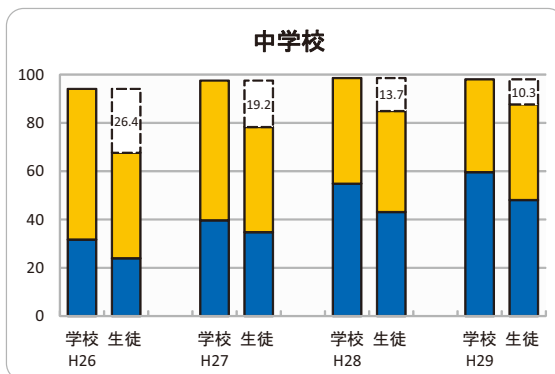
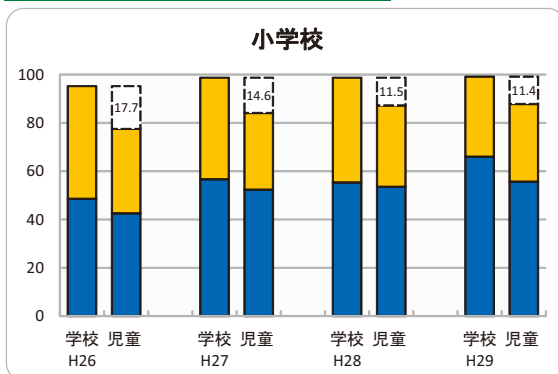
ぼくは、この授業で
何が分かったのかな？
何ができるようになったのかな？



教師と児童生徒の「意識の差」を確認しましょう。

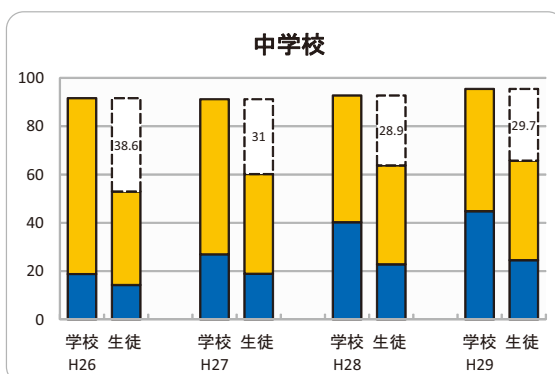
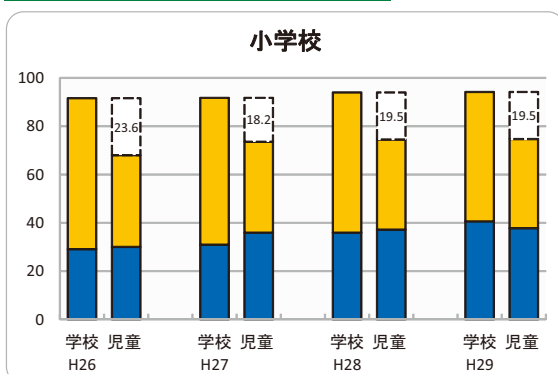
授業冒頭のめあての提示

■ 当てはまる ■ どちらかと言えば当てはまる □ 意識の差



授業終盤の振り返り

■ 当てはまる ■ どちらかと言えば当てはまる □ 意識の差



※ 平成26～29年度「全国学力・学習状況調査 学校質問紙・児童生徒質問紙」より作成（29年度は仙台市を除いたデータ）

平成26年度からの「めあての提示」と「振り返り」の調査結果を見ると、先生方や児童生徒の意識が、年々向上していることが分かります。宮城の先生方の着実な取組の成果です。



しかし、先生方の取組は児童生徒に伝わっているのでしょうか？
依然として、意識に差がみられます。

この「意識の差」があることをしっかり踏まえた上で、日々の取組をより実効性のあるものにするために、もう一度「めあての提示」と「振り返り」について見直してみましょう。

「めあての提示」と「振り返り」の質を高め 授業改善サイクルの活性化を！！

授業改善 サイクル

教師の見通し ～ 授業設計

▶ポイント

- 「導入」は短く、印象的に！
- 「振り返り」は、児童生徒が学びを実感している具体的な姿を思い描いて！



やるぞ！



めあての提示 ～「やるぞ！」を引き出す

▶ポイント

- 「めあて」が児童生徒自身のものになるように！
- 「自力解決」「集団解決」の時間配分の吟味を！
(自力解決が途中で、集団解決への期待感を高める！)

【めあての達成に向けた学習活動の展開】

- ◇「先生が認めてくれる」と感じることで児童生徒の学習意欲の向上につながります。学習に苦手意識を持っている児童生徒のつぶやきを大切にしましょう！

できた！



振り返り ～「できた！」を実感させる

▶ポイント

- 「振り返りの時間」をしっかり確保！
- 振り返りのさせ方は、教科の特性を踏まえて！
(適用問題での確認・学習のまとめを自分のことばで書く・まとめたことが使えるかの確認・学習過程の自分の姿を振り返る 等)

教師の振り返り ～ 指導と評価の一体化

▶ポイント

- 手立ての有効性の振り返り（学習課題の達成度）
- 「授業評価シート」の活用
(学力向上に向けた5つの提言)



授業改善
サイクル



大切なのは、児童生徒自身に「学習のめあて」をしっかりと持たせ、「振り返り」の段階で「できるようになったことを確かに実感させる」ことなのです。

【参考となる資料】

- ◇ みやぎ授業づくりスタンダード →P 7 へ
- ◇ 学力向上に向けた5つの提言
ー理解 継続 自校化ー →P 9 7 へ
- ◇ 算数・数学ステップアップ5 事例集 →P 1 0 5 へ

学習意欲の向上につながる**家庭学習**に！

家庭学習が、授業と連動していますか？



子供たちは取り組んでいるのに成果が表れないのはなぜかしら？

データを見ると、取組状況は児童生徒ともに全国値を上回っていますね。さらに、授業に家庭学習を連動させるよう工夫すると、学習意欲が高まり、学力の向上につながるはずです。



【家庭学習に関する宮城県の結果】

平成29年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査	肯定的な回答率 ※（ ）内は全国値との差
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	小 67.0 (+ 2.5) 中 53.7 (- 0.8)
家で、学校の授業の予習をしていますか。	小 45.3 (+ 4.3) 中 43.4 (+11.7)
家で、学校の授業の復習をしていますか。	小 65.8 (+12.0) 中 63.2 (+12.7)

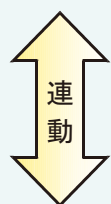
確かに、小学校算数の九九の学習では、子供たちは家で一生懸命に練習して授業で意欲的に暗唱する姿が見られます。下の例のように、授業を支える家庭学習、明日の授業につながる家庭学習の仕組みを生かせば効果的なですね。



＜授業と連動する家庭学習 「九九をおぼえよう」の例＞

九九の学習を例に、授業と連動する家庭学習の仕組みを確認してみましょう。子供たちの「やるぞ！」という学習意欲を支え、「できた！」という学びの実感につながっています。

授 業



家庭学習

- 1 授業の「めあて」が明確で、達成度を自己評価できる。
めあてが「九九をおぼえよう」と明確なので、振り返りでは「できるようになった九九」「つまずきやすい九九」を自己評価でき、「家で練習しよう」という意欲が高まります。
- 2 どのように取り組めばよいか、見通しを持つことができる。
九九の練習方法や家庭学習が明日の学習につながることを理解できているので、主体的に練習に取り組むことができます。
- 3 家庭学習に取り組むよさを実感する。
家庭学習の成果を発揮し、実感・検証する場が授業で設定されているので、子供たちは学びの実感を持ち、次の学習への意欲が向上します。

家庭学習を振り返りましょう！～「質」と「量」の充実～

宮城の子供たちは、家庭学習の「量」（時間）が少ない状況です。学力の向上につなげるためには、家庭学習の「質」も大事ですが「量」も大事ですね…。



【家庭学習に関する宮城県の結果】

平成29年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査		肯定的回答率 ※（ ）内は全国値との差
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）。	30分以上	小 91.6 (+ 2.9) 中 87.0 (+ 0.2)
	1時間以上	小 66.2 (+ 1.8) 中 66.4 (- 3.2)
	2時間以上	小 19.7 (- 7.4) 中 27.8 (- 7.6)
	3時間以上	小 5.8 (- 6.1) 中 5.8 (- 4.3)

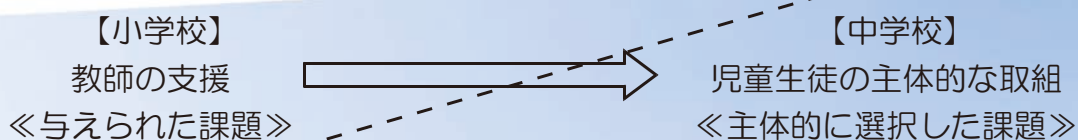


家庭学習は、「宿題」と「自主学習」があります。これまでの指導について、改めて振り返ってみましょう。次のようなことについて、校内で共通理解を図り取り組んでいくことが大切です。

- 「目的」を明確に示していますか？
 - ☐ 学習習慣・学習内容をしっかり身に付けよう。
 - ☐ 明日の学習の準備をしよう。
 - ☐ 自分が苦手な教科を克服しよう。
 - ☐ 得意な教科をもっと伸ばそう。等
- 「方法」を具体的に指導していますか？
 - ☐ ノートの使い方
 - ☐ 復習の仕方・予習の仕方
 - ☐ 調べ学習の具体的な方法 等
- 「量」は、発達段階や実態に応じていますか？
 - ☐ 小学校は、担任が把握し適切な量に。
 - ☐ 中学校は、教科担任間で連絡・調整を。
 - ☐ 学年に応じた「量」となるように学校全体で確認を。
- 「連携」ある家庭学習となっていますか？
 - ☐ 教員間の連携（担任と担任、担任と教科担任、教科担任と教科担任）
 - ☐ 小・中の連携（家庭学習の手引きの共有、情報交換）
 - ☐ 家庭との連携（勉強できる環境づくり・手引き活用の啓発、情報交換や相談）
- 「褒める・認める・励ます」家庭学習となっていますか？
 - ☐ 適切な評価と指導（やらせっぱなしにしない。）
 - ☐ よい取組の紹介
 - ☐ 学校からも家庭からも意欲を引き出す声掛け 等

☆指導改善のポイント☆

「やらされている」から「自ら取り組む家庭学習」へ



深めましょう！ 小・中連携の絆！

小・中連携を見直してみませんか！



これまでに「あいさつ運動」「奉仕活動」「部活動見学」「運動会・体育祭」「学習発表会・文化祭」で交流し、小・中連携を図ってきました。これではだめなのでしょうか？



なるほど。児童生徒の体験を重視した連携ですね。ただ、宮城県のこんなデータがあります。

【前年度までに行った小・中連携に関する宮城県の結果】

平成29年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査	肯定的な回答率 ※（ ）内は全国値との差
近隣の小学校（中学校）と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。	小 42.4(-23.2) 中 60.0(-14.8)
近隣の小学校（中学校）と教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。	小 26.2(-25.1) 中 35.0(-23.2)
平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小学校（中学校）と成果や課題を共有しましたか。	小 38.9(-14.1) 中 39.3(-17.5)

学力向上に向けた小・中連携を図ってはどのようにしょう！



学力向上に向けた小・中連携って、具体的に何をすればいいのかしら？

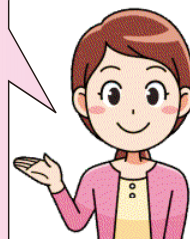
まず、学年ごとの学習内容をしっかりと習得させること、その上で、小・中学校が連携して系統性を意識した指導をすることが大切だと思います。具体的な取組については、こちらのデータがヒントになるのではないのでしょうか。何か気付くことはありませんか？



【教職員研修に関する宮城県の結果】

平成29年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査	肯定的な回答率 ※（ ）内は全国値との差
学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。	小 76.1(-17.5) 中 65.0(-23.4)
教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか。	小 75.3(-10.2) 中 74.3(- 7.2)
児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか。	小 61.7(-14.3) 中 60.0(- 8.6)

中学校区の先生方と授業を見合う機会がありますが、定期的に授業研究をする研修は行っていません。校種が違っていると研修テーマの設定が難しいのではないのでしょうか。学習活動の工夫について学ぶ研修会や講師の招聘は、うちの学校だけだと実施が難しくて。あっ！それを中学校区で行うこともできますね。



そうですね。そこで、例えば、次のような取組をしてみてもいいのではないでしょうか。

できるところから始めよう！

＜学力向上に向けた小・中連携の例＞

例1 学習の約束などの情報交換と共通実践

→小・中学校で共通の学習の約束やルールを作り、児童生徒が安心して学べる環境を作ります。

例2 学習指導要領に基づく学習内容や系統性の確認

→学びの連続性を意識した指導を行うことで、学習内容の確実な定着を図ります。他校種の学習指導要領を読むことも授業改善の手立てです。

例3 合同研修会の実施

→授業研究、全国学力・学習状況調査の分析結果の共有、共通テーマでのワークショップや講演会の実施などを通し、共通の課題意識を持って授業づくりができるようにします。

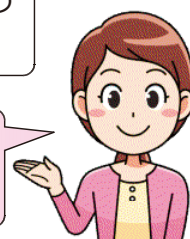
例4 中学校の専門性を生かした小学校の授業実践

→外国語活動の指導や合唱の指導など、必要に応じて小学校の授業に中学校の先生の専門性を生かした指導を取り入れることで、指導の効果を高めます。

学力向上に向けた小・中連携によって、教員の児童生徒理解の深化や小・中学校教員相互の信頼関係の向上も期待できます。それが「中1ギャップの解消」「不登校児童生徒の減少」にも役立つはずです。



小・中連携の成果が、児童生徒の学力向上以外の分野でも、生かされるということですね。



2 みやぎ授業づくりスタンダード

教師も子供も「本気で取り組む」
みやぎ授業づくりスタンダード



本時で何を学ばせるのかを考えましょう！

気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！

出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！

説くことでなく、振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！

理想の授業、指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！

繰り返し、継続して授業を参観し合い、授業改善に取り組みましょう！

夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう！

「分かる・できる」授業づくりのための基本的なポイントを「みやぎ授業づくりスタンダード」としてまとめました。

どの学校でも、どの教室でも、どの教員も共通の視点を持ちながら、日々の授業改善に向かっていただきたいと思います。

2 みやぎ授業づくりスタンダード

教師も子供も「本気で取り組む」みやぎ授業づくりスタンダード



本：本時で何を学ばせるのかを考えましょう！

段階	学習課題の把握 見通す		1 本時の目標（ねらい）を明確にする
導入	自力解決 展開 集団解決（比較・検討）	まとめ・振り返り 終末	チェック・学習指導要領を踏まえていますか。 ・本時の学習活動を通して身に付けさせたい力は何ですか。 ・目の前の児童生徒の実態を踏まえたものになっていますか。 ・単元全体を見通して、本時の位置付けを捉えていますか。 ○ 本時の目標（ねらい）を達成させるために何を指導するのか（教えること、考えさせること）、どのような力を身に付けさせたいのかなどを明確にすることで、指導の方向性が決まってきます。 ○ 教材研究の段階で、単元の系統性を踏まえ、児童生徒にとって何が既習か、どこが未習かなどを的確に捉えることが重要です。 ○ 本時の目標（ねらい）を達成した児童生徒の具体的な姿を明確にしておきましょう。
展開			2 本時の目標達成のために適切な学習課題（めあて）を設定する チェック・児童生徒が主体的に追究したくなる学習課題になっていますか。 ・本時の目標（ねらい）が達成できる学習課題になっていますか。 ・既習事項とのずれを生じる学習問題（教材）を提示し、児童生徒から問いを引き出していますか。（算数・数学など） ○ 児童生徒一人一人が、やってみたい考えてみたいという興味・関心を高めるものを提示し、自分のこととして捉えられるよう問題意識を喚起することが大切です。 ○ 学習問題の提示により、児童生徒の問いを引き出し、つぶやきを拾い上げ、それらを生かした学習課題（めあて）の設定につなげるよう十分な計画を立てましょう。 ○ 「なぜだろう？」「あれっどうして？」という疑問や知的好奇心を引き出すことが、主体的に「考えたい」「解決したい」「友達の考えを聞いてみたい」という意欲につながります。 ○ 本時でどのような力を付けさせたいのかを教材研究によって明らかにしておくことが大切です。問題場面を解決するだけが学習の目標（ねらい）になるではありません。
終末			3 学習課題と学習のまとめが対応することを意識して設定する ○ どのようなまとめとなるかを教師が明確にしておくとともに、児童生徒には「学習課題（めあて）に立ち返らせる」ことで、学習活動の目的を意識させましょう。





気：気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！

段階	1 自分なりの解決方法で学習課題（めあて）に取り組ませる											
	学習課題の把握 導入	見通す	 ・児童生徒が自分の考えを持ったり、自分の立場を明確にしたりする時間だと意識させていますか。 ・どこまでできて、どこが分からないかを自分で言えるように意識させていますか。 ・ノートをどのように使って何を書くかなど、多様な表現方法で考えを書けるようノート指導を継続して行っていますか。 ・自分の考えが相手に伝わるように理由や根拠を示し、筋道立てて考えるように指導を積み重ねていますか。 ・児童生徒の考えや学習への取組を見取り、意欲を高めるよう積極的に褒めたり、声掛けをしたりしていますか。 ・学習効率だけを考えて、安易にワークシートを活用していませんか。									
自力解決				集団解決（比較・検討）	 ○ 学習課題（めあて）を既習事項と関連付け、これまで解決した方法が使えないかと考えさせることが大切です。 ○ サイドラインの引かせ方、グラフや資料の読み方、活用の仕方など、教師が教え、学習活動の中で繰り返し指導して身に付けさせましょう。 ○ 教科書や資料、データ等を基に、自分の考えの理由や根拠を明確に示し、相手に分かりやすく説明できるようにノート指導を充実させる必要があります。書くことで、考えが促されたり、整理されたりします。 ○ 児童生徒に「何をどこまで求めるのか」を教師が明確にしておくことで、自力解決で考えさせる内容、必要な時間、集団解決の持ち方（何をさせるのか）などが、おのずと決まってきます。 ○ 一人一人の考えを見取り、賞賛の声掛けや適切な助言をしましょう。							
	まとめ・振り返り	○『学びが見えるノートにしよう！』 学年の発達段階や教科の特性に応じてノートの書き方も異なりますが、学校、教科で共通理解をして指導することが大切です。 ① 板書を視写する（構造的な板書が求められる）。 ② 自分の考えを書く。 ③ 友達の考えや授業のポイントなどを書く。 ④ 学び合い（考えの交流）の後、考えを見直したり、書き加えたりする。 ⑤ 本時の学習を振り返る。 ①②で終わらずに、③④⑤を意識して自分の考えの変容など学びを振り返られるノートに！ <table border="1"><tr><td>日付</td><td></td></tr><tr><td>学習問題</td><td>友達の考え</td></tr><tr><td>学習課題</td><td>※気付き・新たに考えたことなど</td></tr><tr><td>自分の考え</td><td>○まとめ</td></tr><tr><td></td><td>○振り返り</td></tr></table> 《ノート例》 ・ノートはできれば授業ごとに回収して、評価することで児童生徒の意欲、思考力、表現力等を高めます。 ・児童生徒の発達段階等を考慮して、場面絵やイラストで描くことなど、多様な表現方法を認め、あせらず徐々に段階を踏んで考えさせていくことが重要です。				日付		学習問題	友達の考え	学習課題	※気付き・新たに考えたことなど	自分の考え
日付												
学習問題	友達の考え											
学習課題	※気付き・新たに考えたことなど											
自分の考え	○まとめ											
	○振り返り											



で：出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！

段階	1 ねらいに応じた話し合いの方法、形態を工夫する						
導入	学習課題の把握	見通す	チェック	- 必要感のある話し合いになっていますか。 - 考えの発表で終わっていませんか。 - 児童生徒に話し合う目的や方法を示していますか (児童生徒は話し合いの目的や方法を理解していますか)。			
							
展開	自力解決	集団解決 比較・検討	チェック	○ 形だけのペア学習、グループ学習、全体での話し合いを行うことではありません。本時のねらいを達成したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けさせたりするために言語活動の充実が必要なのです。 ○ ペア学習やグループ学習を行う目的や方法を児童生徒に示し、継続して指導を行うことで、目的意識や話し合いの方法が身に付きます。 ○ 話し合う目的は何か、そのためにどのような話し合いの形態がふさわしいのかをよく考えてペア学習やグループ学習を取り入れましょう。			
				まとめ・振り返り	2 児童生徒間の関わりを意図的に設定する		
					終末	チェック	・ いつも決まった児童生徒だけの発表になっていませんか。 ・ 能動的に「聞くこと」「聴き合うこと」を意識させていますか。 ・ 児童生徒の思いや考えを見取り、褒めたり認めたりするとともに意図的に類型化して取り上げていますか。 ・ 共通点や相違点を整理して、それぞれの考えを関連付けていますか。 ・ 教師が全て説明していませんか。 ・ 児童生徒に説明や関連付けをさせていますか。
							
				○ 児童生徒の考えを見取り、どの考えをどの順番で取り上げ、関連付けるかを考えておくことが大切です。 ○ 関わる目的を明確にし、話し合う必然性を理解させることが大切です。「多様な考えを引き出したい」「友達の考えを理解させたい」「どの考えがよりよい考えか検討させたい」などを明確にするとともに、対立や矛盾などを示すことで、児童生徒の思考を揺さぶり、話し合いをする必然性をつくっていきます。 ○ ペア学習、グループ学習では、何を発表させ（説明させ）、何を書かせるか（相違点や相手の考えの「なるほど」と思ったところなど）など目的や意味を理解させていくことが大切です。 ○ それぞれの考えを関連付け、共通点や相違点に気付かせたり、考えを比較・検討させたりすることが教師の大切な役割です。考えや気づき、学ぶ姿などを認め、励ます言葉を添え、自己肯定感を高めさせましょう。 ○ 「なるほど」と思った友達の考え方や新たに気付いたことなどをノートに書き加えることで、学び合うことの意義、考えの深まりを実感させたいものです。			



と：説くことでなく，振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！

段階			1 本時の学習をまとめる		
導 入	学習課題の把握		・学習課題（めあて）に対応したまとめになっていますか。 ・形式的に板書を視写するだけになっていませんか。 ・学習したことが共有できていますか。 ・1時間の学習が一目で分かる板書になっていますか。 		
	見通す		○ 答えを出した方法を吟味し，よりよい方法を学び，いつでも使える一般的な方法に高めたり，問題を解くポイントをまとめたりすることが大切です。 ○ 本時の学習を通して「何が分かったのか」「どのような力が身に付いたのか」が分かるように，本時の目標（ねらい）や学習課題（めあて）と整合性があるかを意識してまとめましょう。 ○ 板書が構造的で見やすく，分かりやすいものであるか，板書計画を吟味しておきましょう。本時の目標（ねらい）と学習課題（めあて）に整合性があるかを可視化して判断することができます。		
展 開	自力解決		2 本時の学習を振り返る		
	集団解決（比較・検討）		・今日はどのような学習課題（めあて）に向き合い，何をどのように考え，そこからどんなことを理解し，学んだかなどの視点を与えて振り返らせていますか（書く観点や分量を示した学習感想など）。 ・「～できた」「うまくいかなかった」という結果だけで終わらせていませんか。 ・学んだこと，共有化したことを使って適用問題に取り組ませていますか。 ・友達と学び合うことで新たな発見や気づきが生まれ，考えや理解が深まったことを実感させていますか（適用問題・小テスト・学習感想など）。 		
終 末	まとめ・振り返り		○ 「何をどのようにしたから分かったのか」あるいは「何が足りなかったのか」「それはなぜか」「学んだことを今後どう生かしていくか」などの視点を示し，できるようになった過程を振り返り，今後の学習への見通しなどを持たせることも大切です。振り返りのさせ方を工夫し，児童生徒の主体的な学びへつなげていきましょう。 ○ 実際に類似の問題を解いて，よりよく解けるようになったことを実感したり，自分なりに大切だと思ったこと，考えて理解できたこと，新たに気付いたことなどを書いたりすることが大切です。「個」で考えたことを基に「集団」で考えを共有化し，それらを踏まえ「個」にもどって考えさせることが，考えの深まりや学びの自覚につながります。 ○ 児童生徒が本時のねらいを達成できたか，考えを深めることができたかどうかを「適用問題」「学習感想」などで見取るとともに，教師の「授業評価」の方法を工夫し，授業改善に生かしていきましょう。		家庭学習につなげる工夫も考えましょう。



り：理想の授業，指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！

◎ 教師の授業力を伸ばす・・・「授業づくり～模擬授業のすすめ～」

模擬授業とは ➡ 教師が指導者役と児童生徒役に分かれ，授業場面を実際にやってみること



実際に模擬授業を行ってみると，自分の書いた指導案の展開では授業がうまく流れないことに気付いたり，発問が分かりにくかったり，児童生徒役の先生の反応にうろたえたりと，いろいろな改善点が見えてくるものです。

この模擬授業は，授業のある場面だけを想定して行うことも可能ですので，単位時間（45分間や50分間）をかけなくても実践できます。教師役だけではなく，児童生徒役になることも，児童生徒理解の一助にもなりますし，何よりも，学校や学年の研究への取組に一体感が生まれます。

模擬授業のよさについて ➡ 本時の目標（ねらい）や提案事項を事前に共有化すること



模擬授業は，実際の授業場面を想定して行うので，授業の流れ，発問のよしあし，指示，板書の仕方やタイミング，教師の動き，児童生徒の反応などを具体的に検討できます。普段の授業で迷っていることや疑問に感じていることを提示しながら，その状況を共有し，改善点を見付け出すことができます。

また，授業者の細かい指導技術を学び，より効果的な指導技術を見付け出すこともできます。さらに，教師が児童生徒役になってみることによって，児童生徒の反応を多方面から予測することを学べ，授業を考える上でのヒントをいくつも得られます。

1時間の授業を全て行う必要はありません。研修内容によって，10分間でも20分間でもかまいません。導入の部分だけを取り上げて見ることもできますし，展開の一場面を取り上げてみることも可能です。

模擬授業の方法 ➡ 趣旨説明は端的に，途中解説を入れずに，本番のように行うこと

全体で

研究授業の事前検討会に模擬授業を取り入れている学校もあります。参加者全員で指導過程のポイントとなる部分や，授業者が悩んでいる部分を模擬授業を通して検討することで，より授業改善につながります。

また，打合せの前や職員会議のはじめに，輪番制で10分間の模擬授業を行う方法もあります。気付いたことを付箋紙やメモなどに書き，視点別のシート等に貼って授業者に渡したり，回覧したりする方法です。このように短時間で継続的に行う方法も可能です。



教科ごとで

中学校の教科部会で，研修の一環として，模擬授業を取り入れていく方法です。同一教科担当者が，共通の課題を意識しながら模擬授業を行うことで，教科ならではの研修ポイントを絞って行うことができます。

学年部ごとで

学年部会を活用して模擬授業を行う方法です。同学年担当の教員であることから，児童生徒の実態を理解し合うことが容易で，授業の指導技術だけでなく，広く児童生徒の指導を考えることが可能です。



く：繰り返し，継続して授業を参観し合い，授業改善に取り組みましょう！



自分の授業を公開して多くの先生方に参観してもらったり，他の先生の授業を参観したりすることで，授業を互いに見合う機会が増えてきます。模擬授業や研究授業等では，ねらいに応じて，適切な観点を設定したいものです。校内研究の視点や手立てを活用している学校も多いかと思われます。

模擬授業実施の観点例

模擬授業を効果的に行うためには，模擬授業での指導の観点を明確にすることが大切です。観点例を以下に挙げてみます。

（１）授業の進め方について

- ・導入部には，児童生徒を引き付ける工夫が見られるか。
- ・本時の目標（ねらい）が明確であり，本時の目標に沿った学習課題（めあて）が提示されているか。
- ・展開部には，教える場面や考えさせる場面，児童生徒の活動場面が適切に設定されているか。
- ・児童生徒の思考や活動に無理がないように，授業が易から難へと展開するように工夫されているか。
- ・教師は何を学ばせたか，児童生徒は何を学んだかが明確になっているか。

（２）教師の発問や指示について

- ・学習課題（めあて）を達成できるような発問になっているか。
- ・教師の意図に沿って児童生徒が活動できるような指示になっているか。
- ・発問や指示は，ねらいが明確で分かりやすいものか。また，児童生徒の意欲を引き出し，活発に活動させることができるように工夫されているか。
- ・児童生徒の発達段階に即した言葉遣いであるか。

（３）板書について

- ・１時間の授業の流れ，学習の足跡が見える板書になっているか。
- ・文字の大きさや分量，チョークの色使い，提示物は適切であるか。
- ・１時間の授業の「学習課題（めあて）」や「まとめ」は分かりやすくまとまっているか。

（４）児童生徒への配慮や支援について

- ・児童生徒一人一人の発達段階や理解の程度に配慮しながら，意図的な指名ができているか。
- ・児童生徒の実態に応じた手立てや支援は適切であるか。
- ・児童生徒を認め，褒めたり励ましたりすることで，自己肯定感を持たせているか。
- ・机間指導のねらいやタイミングは適切であるか。
- ・児童生徒が学びを実感できる振り返りがなされているか。

（５）資料や教材について

- ・資料や教具は，本時の目標（ねらい）を達成する上で適切であるか。

「教師にも大切な振り返り」 日々の授業を振り返り、次の実践につなげましょう。

○ 授業評価の意義

授業評価は、学習指導要領や教育目標を踏まえ、授業のねらいや児童生徒の実態に照らし合わせながら、多面的・多角的に振り返る営みです。授業評価を基に授業改善を図っていくことは、教師一人一人の力量を確かなものにし、授業の質を高めることにつながります。それは、児童生徒一人一人の学力向上にもつながるものです。

○ 今日的な授業評価

授業評価は、「校内研究の目標や仮説に沿っての評価」「単元や学期を通しての総括的な評価」になりがちです。日々の授業については、教師自身の判断で意図的に評価する以外は、学校全体で日常的にあまり行われてこなかったのではないのでしょうか。形成的評価が授業の過程で実施され、授業計画の修正や児童生徒の回復指導などに生かされますが、授業のポイントが明確でなかったり、児童生徒へ適切にフィードバックされていなかったりしている面があります。また、評価方法や観点なども学校として共通に認識されていなかったかもしれません。

学校全体で日々の授業を改善するためには、個々の教師が日々の自分自身の授業を継続的に振り返ることはもちろん、学年部や教科部、全校で互いの授業を気軽に見せ合い、意見を交換し合いながら授業の課題を共有していくことが大切です。

さらに、これからは児童生徒や保護者、地域の方々など様々な評価にも耐えうる授業づくりが一層求められています。時代のニーズに対応できるような授業評価を求め、授業力の向上に努めていく必要があります。

○ 授業評価シートの作成と活用に向けて

学校全体で授業の質を高めていくための授業評価の方法には、教科や児童生徒の発達段階に応じた様々な方法があると思います。まずは評価者が評価項目を共有し、同一の視点から授業を検討する必要があると感じます。課題の共有化や授業改善の糸口の発見が可能になると考えられるからです。

そのためにも、校内で統一した授業評価シートを作成し、**授業者自身が授業を振り返ったり、全校で授業の成果と課題を明らかにしたりして授業改善につなげる**ことがより大切になってきます。評価結果を集約し、これを基に授業検討会を行うことでより活発な話し合いができるかもしれません。

評価シートの観点や項目については、各学校の教育目標や校内研究の目標、授業評価の実態などを踏まえて作成することが大切であると考えます。

〈授業評価シート（例）〉

◎ できる 続ける つながる 3分間の振り返り

※ 評価後、「授業づくりスタンダード」を活用し、授業改善につなげましょう。

No. _____		月 _____ 日 () _____ 時 _____
		授業教科 () _____
A : おおいにあてはまる B : あてはまる C : ややあてはまらない D : あてはまらない		
観点の項目 (参考ページ)	設 問	評 価
授 業 展 開 や 指 導 技 術	本時の目標(ねらい)の明確化 (P 7)	・ 本時の目標 (ねらい) を明確にし、学習課題 (めあて) を板書し、子供に把握させている。
	思考場面 (P 8)	・ 子供が考える場面、書く時間を十分確保している。
	発表や学び合いの工夫 (P 9)	・ 子供が発表できる機会を作っている。 ・ 話し合うねらいを明確にして、適切な形態 (ペアやグループ、全体等) で話し合う場を設定している。
	発問・指示 (P 1 2)	・ 子供にとって明確で分かりやすい発問や指示をしている (繰り返し返さない)。 ・ 教師が説明し過ぎず、子供から考えを引き出している。
	対応・支援 (P 7) (P 8) (P 1 2)	・ 意欲の低い子供、発言が少ない子供にも意図的・計画的な指名をし、適切に声掛けしている。 ・ 子供の声に耳を傾け、考えや学ぶ姿を見取り、褒めたり、励ましたりしながら、子供の学習意欲や自己肯定感を高めている。
	板書 (P 1 2)	・ 授業の内容が構造化され、重要箇所は色チョークを使い、1時間の学びが分かるよう工夫されている。
子 供 の 様 子	評価 (振り返り) (P 1 0)	・ 授業の最後に、本時の授業を振り返り、学びの実感を持たせている。(適用問題、小テスト、学習感想、自己評価や相互評価等)
	子供の様子で気付いたこと	

※ 授業内容に応じて、項目を増やしたり、絞ったりすることも必要と考えられます。授業評価シートを活用して日々の授業を振り返り、授業改善につなげましょう。



む：夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう！



教師が本気になって「分かる授業・できる授業」づくりに取り組むことは、着実な授業改善，授業力向上につながっていきます。また，「分かる授業・できる授業」が児童生徒の学習意欲を高め，学ぶ楽しさ，できる喜びを実感させることで，学力の向上が図られていくものと考えます。

児童生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にして，授業アイデア例を有効に活用したり，授業に工夫を加えたりするなど，できることから始めましょう。

※ 授業アイデア例・・・① 国立教育政策研究所教育課程研究センター
② 本報告書 等

～ 当たり前に行っていることも意図的に！ 基礎的な力， 「書く力」「考える力」等を伸ばす授業のワンポイント工夫例 ～

習熟の工夫，既習事項や新聞等の活用，学習課題（めあて）提示の工夫で子供を鍛える

- （１）「効率的な漢字練習法で定着率の向上」
- （２）「習熟を通した定着率の向上」
- （３）「社説を使った，読む力と書く力の向上」
- （４）「学習課題（めあて）提示の工夫で学習意欲・思考力の向上」



（１）「効率的な漢字練習法で定着率の向上」

- ① ノートに折り目をつけて四列にする。
- ② 練習したい漢字の読み方をノートの一列目に書く。
- ③ 少し時間をおいてから，その漢字が書けるかどうか
答えを二列目に書いてみる。【１回目】
- ④ 自分で赤鉛筆を使って丸付けをする。
- ⑤ 丸が付いたものは覚えた漢字なので１回目で合格。
間違えたり書けなかったりした漢字だけ，読み方を，三列目にもう一度書く。
- ⑥ 間違えたり書けなかったりした漢字だけを，四列目に書いてみる。【２回目】
- ⑦ 自分で赤鉛筆を使って丸付けをする。【後は全部書けるまで繰り返し】
 - ・ この「自己テスト法」は，書ける（覚えた）漢字は１回だけ，書けない（覚えていない）漢字は，書けるまで（覚えるまで）何回も練習することになります。
 - ・ 例えば，同じ漢字を１０回ずつ書いて覚える作業だと，書けるようになっている漢字も１０回ずつ書くことになりますので，その分だけ時間が余計にかかります。大切なのは，その漢字を書けるようになったか（覚えたか）どうかですので，このやり方だと，時間を節約しながら，効率的に練習ができます。
 - ・ 読み方と漢字と一緒に覚えることになるので，特別な「読み練習」をしなくても，「読む力」も付きます。
 - ・ さらに，記憶の「IN PUT」と「OUT PUT」を交互に繰り返すので，漢字だけに限らず，他教科（社会や理科）への波及効果も十分に期待できます。
特に，英単語を覚えるときにも有効な方法です。
 - ・ ノートは高学年や中学生であれば，六列に分けてもよいと思われます。

一列目
二列目
三列目
四列目

(2)「習熟を通じた定着率の向上」

- ① 授業の終末や習熟の時間に適用問題、習熟問題に取り組ませ、定着を図ります。
 - ・ 特に、T T指導や少人数指導の場合、終末や習熟の場面で児童生徒一人一人の取組を見取り、丸付け、助言を意図的に行うとより効果的です。
 - ・ 例えば算数で、補充問題、発展問題を事前に何題も準備し（数枚のプリント）、その児童生徒の学習段階に応じて、取り組ませます。みやぎ単元問題ライブラリー等を活用し、予め学年分、単元分を印刷するなどして、いつでも使えるようにしておきます。ファイリングして、できるようになったところ、間違った問題などを自覚させることもできます。
- ② 学習場面で、前時までの既習事項を活用する場面を設定したり、日常場面で意図的に活用させたりしていくこともできます。
 - ・ 例えば、グラフや表などの資料の読み方（データの取り出し）を学んだら、説明する内容の根拠として最も適切な資料を選ぶ学習をします。
 - ・ 複数の資料から必要な情報を取り出すこと、情報が根拠として適切かどうかを判断することを通して、資料の読み方の定着を図ることができます。

(3)「社説を使った、読む力と書く力の向上」

- ① この学習は、10分間で新聞の社説（だいたい1600～2000字程度）を読んで、要旨を100字ちょうどにまとめる、というものです。
- ② 400字詰原稿用紙を使うと、4日分になります。高学年や中学生の夏休みの課題として10日分や20日分をまとめて出して、毎日行くと効果的です。
 - ・ 期待できる学習の効果としては、論説文を読む力が付くと同時に書く力を付けることができます。また語彙を増やすことができます。
 - ・ 10分間で社説を読んで100字ぴったりに書くためには慣れるまでが大変ですから、児童生徒の実態に合わせて制限時間を変えることもできます。

(4)「学習課題（めあて）提示の工夫で学習意欲・思考力の向上」

学習問題や学習課題（めあて）の提示の仕方を工夫することで、児童生徒の思考が促されます。

- ・ 例えば、連続する2つの整数の2乗の差を提示します。

A「連続する2つの整数の2乗の差は、その2つの整数の和になります。このことが成り立つことを証明しなさい。」
B「この計算からどんなことが考えられるでしょうか。」

	$4^2 - 3^2 = 7$
	$9^2 - 8^2 = 17$
	$10^2 - 9^2 = 19$
	$25^2 - 24^2 = 49$
※	$(-7)^2 - (-8)^2 = -15$
※	$(-14)^2 - (-15)^2 = -29$

- ・ AでもBでも証明を行うことには変わりありませんが、Aは「成り立つ」ことが与えられているのであまり必要感を意識せずに証明に取り組めます。一方、Bは、共通点に気付き、予想（仮説）を立てる際に思考が促されます。そこから（自分の予想が成り立つことを証明するという）目的意識を持って主体的に取り組むと考えられます。
- ・ 同じ問題場面でも、学習課題（めあて）の提示の仕方や発問の工夫によって、学習意欲や思考力を高めることにつながります。少しずつ工夫をしていきましょう。

3 「指導改善のポイント」を 踏まえた指導例



【小学校国語】

- ・ A 4 二 「好きな俳句を紹介する」
- ・ B 1 三 「スピーチの練習をする」
- ・ B 2 三 「協力を依頼する文章を書く」
- ・ B 3 三 「物語を読んで、感想を伝え合う」

【小学校算数】

- ・ A 2 (3) 「加法と乗法の混在した整数と小数の計算」
- ・ A 8 「□を使った式」
- ・ A 9 (2) 「資料の分類整理」

【中学校国語】

- ・ B 1 三 「文学的な文章を読む」
- ・ B 2 三 「スピーチをする」

【中学校数学】

- ・ A 2 (1) 「文字式の計算とその利用」
- ・ A 7 (2) 「証明の根拠」
- ・ A 10 (2) 「比例の式とグラフ・反比例の表」

「指導改善のポイント」を踏まえた指導例

☆調査問題の中で、課題が見られた問題（正答率が低く、全国平均とのかい離が大きい問題）について、誤答分析を行い、「指導改善のポイント」と指導例を示しました。

○主な誤答【宮城県反応率9.7%】

「1 (□×5=10) と解答しているもの」

○考察

問題文に示されている数量の順番に着目しながら、乗法の場合であると捉えていると
考えられます。

☆指導改善のポイント

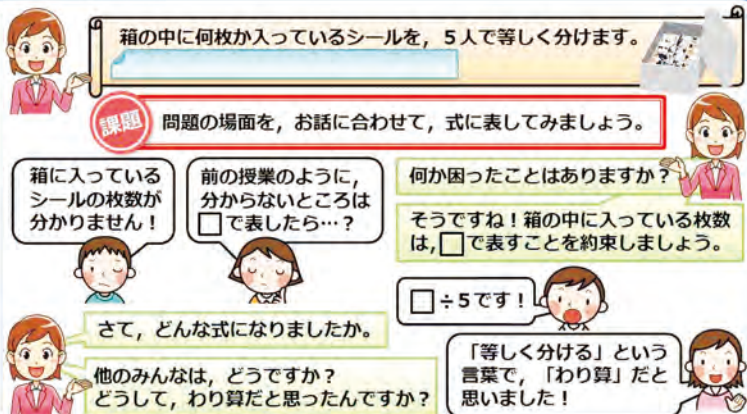
未知の数量を□などの記号を用いて表現することにより、文脈通りに数量の関係を立式することができるようにすることが大切です。

指導に当たっては、場面を的確に捉えることができるように、図を用いたり、□に具体的な数値を当てはめたりして考察する活動を設定しましょう。

立式の根拠について考える段階

①問題の文末を隠すことで、「箱の中に何枚が入っているシールを、5人で等しく分ける」という場面に限定し、立式の根拠について考える活動を展開します。

②未知の数量を、□などの記号を用いて立式することを、児童の発言を通して確認します。



☆課題が見られた問題の誤答分析を行い、学校独自の「指導改善のポイント」について話し合うことが、授業改善につながります。この指導例を、各学校で話し合う際の参考資料として活用してください。

小学校 国語 A 4 二「好きな俳句を紹介する」

【宮城県平均正答率 53.0% / 全国平均正答率 57.0%】

4

中西さんのグループでは、月の様子をよんだ俳句を調べ、その中から選んだ好きな俳句について、手紙で紹介しようとしています。次は、選んだ俳句についてまとめた【俳句カード】と好きな俳句を紹介するための【話し合いの様子】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【俳句カード】

ア 雪どけてくりくりしたる月夜かな
小林 茶

（調べた内容）

季節：雪どけて 季節：春
この俳句は、「寒い冬が終わり、雪がとけ、春が来た。月もきれいで明るくかがやく夜だなあ。」とよんでいるそうです。

イ ひやひやと月も白しや秋の風
上島 鬼貫

（調べた内容）

季節：秋の風 季節：秋
この俳句は、「秋のこころよい風がふく中では、月の色もひんやりと白っぽいなあ。」とよんでいるそうです。

【話し合いの様子】

北田 アの句は「くりくりしたる」の「くりくり」がおもしろいね。声に出して読んでみるよ。（音読）

中西 リズムよく読めて、読むのが楽しくなるね。「くりくり」というのは、月の（ア）を表しているのかな。春になったのがうれしいのかもしれない。

本間 イの句の「ひやひや」も「くりくり」と似ているね。どちらも声に出して読んで紹介すると、俳句のよさがもっと伝わりそうだよ。（音読）

「ひやひやと」を声に出して読むと、ひんやりした感じがますます伝わってくるような気がした。「白」という月の色も、なんだかひんやりとした感じがするね。

青木 そうか。ふいてくる風からも、見ている月からも、ひんやりした秋を感じているんだね。

中西 作者の伝えたかったことって、今、青木さんが言ったことなのかもしれないね。このこともみんなに紹介しよう。

二 中西さんのグループでは、話し合いを通して、自分たちが見つけた俳句のよさについても紹介しようとしています。紹介しようとしている内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 言葉のひびきや作者の季節を感じる心

2 それぞれの作者の生き方や考え

3 月の形が変化する様子や構成のくふう

4 季語の使い方や季語から想像したこと

○主な誤答【宮城県反応率 31.2%】

「4（季語の使い方や季語から想像したこと）と解答しているもの。」

○考察

【話し合いの様子】で、言葉のひびきや季節を感じる心について話し合っていたことを捉えられなかったと考えられます。

☆指導改善のポイント

言葉のひびきや俳句の持つリズムに着目して、俳句に表れている情景や作者の思いなどについて感じたことを交流させることが大切です。

学習課題を設定する段階

「俳句」の授業では定型のリズムや季語を入れることなどの形式と、どのような内容なのかという句意を確かめます。

そのあとに、児童の意欲を高める学習課題を設定していきましょう。

俳句の授業では、季語と句の意味を全体で確認し、数回音読をして終わっていました。

言葉のひびきやリズム、四季のよさを感じられるような交流を位置付けてみてはどうでしょうか。

「好きな俳句を一句選んで紹介し合おう」という学習課題を設定して、学習過程を考えてみます。

俳句は「内容」と「表現」、どちらも大切です。観点を明確にした交流を位置付けましょう。

目的を明確にして交流する段階

「好きな俳句のよさ」を紹介するために、表現に基づいて、どうしていいと思ったのか、理由や考えをノートに書かせます。交流の際には、同じ言葉を選んでも理由が違うことや、それぞれよさがある俳句だということを実感できるように指導しましょう。

アの「くりくり」は、月のまん丸い様子を表現したのかな。

印象に残った「表現」について、感じたことを交流しましょう。

「くりくりした目」ともいうから、きっときれいな満月なのよ。

イの「ひやひや・白」という表現からは冷たさが伝わってくるね。

俳句の創作を行う段階

「五・七・五」のリズムや季語を用いること、さらに、表現の工夫を意識してグループで話し合いながら俳句を創作します。

句会を開き、それぞれの俳句のよさを味わうのも楽しいです。

単元の言語活動は「運動会の思い出を俳句にしよう」です。グループで俳句を創作していきましょう。

入場行進の緊張感を、擬態語を使って表してみよう。

季語は「秋の空」がいいかな。

「うれしい」という言葉を使わずに、喜びを表現してみます。

句会を開いて交流しましょう。

小学校 国語B 1三「スピーチの練習をする（『折り紙』の紹介）」

【宮城県平均正答率 45.4% / 全国平均正答率 48.4%】

1

石田さんは、日本語を学んでいる外国の人たちに、「折り紙」について紹介するスピーチをするため、友達に助言してもらいながら練習しています。次は、「スピーチメモ」「スピーチの練習の様子」「グループの話し合いの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【スピーチメモ】

1 折り紙とは「紙を折って、いろいろな形を作る遊び」
 2 自分の経験（実際に「つ」を見せろ）
 3 折り紙の例（「風船」「紙飛行機」「手裏剣」など）
 4 折り紙のやり方（色紙を折って、いろいろな形を作る）
 5 まとめ（体験コーナーのようかい）

【スピーチの練習の様子】（動画で記録したもの）

私は、折り紙について紹介します。折り紙は、紙を折って、いろいろな形を作る遊びです。子供から大人まで楽しむことができます。

私は、小さいころにおばあちゃんに教わった「つ」と呼ばれる形得意です。これは、私が折った「つ」です。

他にも、「風船」「紙飛行機」などを作ることもできます。友達と一緒に作るのも楽しいです。

折り紙のやり方は、色紙を折って、いろいろな形を作ることで、折ることができることだ、私は思います。

このあとの体験コーナーで作り方を教えますので、みなさんと一緒に作って楽しんでください。

これで、折り紙の紹介を終わります。



3

石田さんは、友達の助言を受け「スピーチの練習の様子」の中から、もう一度考えています。石田さんは、どのように話すつもりですか。その内容を、次の表に記入してください。

（条件）

- 折り紙のやり方について、「スピーチメモ」と「グループの話し合いの様子」で出された意見が、それぞれ取り上げて書くこと。
- スピーチとしてふさわしい言葉遣いにする。
- 書き出しの言葉に続けて、八十字以上、百字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は手紙にふくむ。

※ 作文の紙は縦書きで書くこと。横書きで書く場合は、横書きの紙に書くこと。

※ 書き出しの言葉は、必ず「私は、〜です。」で始めること。

【グループの話し合いの様子】

北川：石田さんのスピーチ、よかったね。

上野：表情がとっても明るくて、折り紙のことを伝えている感じが伝わってきたよ。

北川：友達の「つ」を見せているのも、分かりやすかったね。それに、今回スピーチメモを使ってみてどうだったかな。

上野：スピーチメモを使って話のまとまりと順序を整理して話すことはできたかな。

石田：うん、できていたと思うよ。それに、友達に話を聞かせることができたかな。

北川：確かにできていたね。他に気づいたポイントはありますか。

石田：全体的に早口になって、聞き取りにくいところがあったかな。

上野：そうだ、たしかね。動画を見てみよう。

1（動画を見る）

上野：そうだね。日本語を勉強している外国の人にとっては早口かもしれないね。

北川：それなら、石田さんが一番伝えたいことが伝わるかどうか大事だね。

石田：私は、折り紙のやり方を一番伝えたいな。

上野：それなら、折り紙のやり方をもう少し詳しく伝えようかな。

北川：折り紙のやり方は、色紙を折って、いろいろな形を作ることで、折ることができることだ、私は思います。

北川：折り紙のやり方は、色紙を折って、いろいろな形を作ることで、折ることができることだ、私は思います。

北川：折り紙のやり方は、色紙を折って、いろいろな形を作ることで、折ることができることだ、私は思います。

北川：折り紙のやり方は、色紙を折って、いろいろな形を作ることで、折ることができることだ、私は思います。

○主な誤答【宮城県反応率 22.7%】

「条件に示された『【グループの話し合いの様子】で出された意見を取り上げること』と『スピーチとしてふさわしい言葉遣いで書くこと』は満たしているが、『【スピーチメモ】から取り上げること』を満たさないで解答しているもの。」

○考察

【スピーチメモ】と【グループの話し合いの様子】の2つの資料から、それぞれ意見を取り上げてまとめることができなかつたと考えられます。

- 20 -

【正答例】

- ・（折り紙のみりょくは、）色やもようがきれいな紙を折って、いろいろな形を作ることができることや、紙一まいから立体的な形ができること、組み合わせて形をつなげられることだと、わたしは思います。（92字）

【正答例】

- ・（折り紙のみりょくは、）色やもようがきれいな紙を折って、いろいろな形を作ることができることや、どこでも手軽にできることです。他にも、自分で作り方をくふうできることなども、みりょくだと思います。（95字）

【主な誤答例：条件「【グループの話し合いの様子】で出された意見を取り上げること」と「スピーチとしてふさわしい言葉遣いで書くこと」を満たしているが、「【スピーチメモ】から取り上げること」を満たしていないもの】

- ・（折り紙のみりょくは、）どこでも手軽にできることや、「つる」や「風船」のように紙一枚から立体的な形を作れること、「手裏剣」のように形を組み合わせでつなげられることがみりょくだと思います。（91字）

【主な誤答例：条件「【スピーチメモ】から取り上げること」と「【グループの話し合いの様子】で出された意見を取り上げること」を満たしているが、「スピーチとしてふさわしい言葉遣いで書くこと」を満たしていないもの】

- ・（折り紙のみりょくは、）色やもようがきれいな紙を折っていろいろな形を作れて、紙一枚から立体的な形ができたり、手裏剣のように組み合わせて形をつなげられることが折り紙のみりょくだよね。（89字）

【主な誤答例：条件「【スピーチメモ】から取り上げること」を満たしているが、「【グループの話し合いの様子】で出された意見を取り上げること」と「スピーチとしてふさわしい言葉遣いで書くこと」を満たしていないもの】

- ・（折り紙のみりょくは、）色やもようがきれいな紙でいろいろな形を作って遊ぶことで、子どもから大人まで楽しむことができるのがみりょくだよ。（67字）



☆指導改善のポイント

指導過程の中に児童同士の学び合いを位置付け、友達の助言から自分のスピーチの内容や表現の工夫について振り返り、相手を意識したスピーチに改善できるように指導することが大切です。

単元構想を行う段階

スピーチの授業では、話の構成を意識して、相手の反応を見ながら話す活動に取り組みさせてみましょう。

スピーチメモを活用して話すことができるように指導することが大切です。

聞き手を意識したスピーチができるように指導したいのですが、どうしたらよいでしょうか。



スピーチメモを使って話し、グループで助言し合う言語活動を位置付けてみましょう。友達からの助言を基に、児童が自分のスピーチを見直して修正していくことが大切です。

互いのスピーチの様子を見合えるように動画を撮影し、交流させてみます。具体的な助言ができるように指導します。



スピーチ練習の段階

「話の構成は分かりやすいか」「相手の反応を見ながら話しているか」など、具体的な観点を示して練習させましょう。

児童が自分自身の話や話す様子を振り返り、次に生かすことができるように指導しましょう。

動画を見るとかなり早口になっているな。

事例を1つだけ紹介したけど、分かりやすかったかな。

一番伝えたいところをゆっくり話すといいと思うよ。

具体例を付け足したり実演したりするともっと伝わると思うよ。



みんなからの助言は自分では気付かないことだったよ。もう一度、スピーチメモを見直して、練習をしてみるよ。

学習を振り返る段階

友達からの助言を基に、スピーチの見直しをさせます。本番のスピーチの動画を見て、改善点が生かされより伝わるスピーチになったか自己評価・相互評価をさせます。

また、スピーチメモのよさを実感させ、国語科以外の場面でも活用できるようにしましょう。



自分のスピーチがどのように変わったのか、振り返りをさせましょう。「伝えたいことが分かる内容」「聞きやすい話し方」など向上したことを実感できるようにしましょう。

メモを見て話すことに自信がなかったけれど、具体例を増やして話したら、前より分かりやすくなったと言われました。



委員会のお知らせでは、原稿を読んでいたけれど、スピーチメモを使って、話すようにしたら、友達に分かりやすかったと言われました。



【正答例】

- ・（なぜなら、）毎朝水をやらないといけないし、大きな緑のカーテンを作るために、たくさんの植木ばちに水をやる必要があるからです。（60字）

【正答例】

- ・（なぜなら、）毎朝たくさんの植木ばちに水をやる必要があるからです。（31字）

【誤答例：条件「たくさんの植木ばちに水をやることを取り上げて書くこと」を満たしていないもの】

- ・（なぜなら、）毎朝水をあげないとすぐにかれてしまうからです。朝水やりをわすれるとしおれかけることもあるからです。（54字）

【誤答例：条件「たくさんの植木ばちに水をやることを取り上げて書くこと」と、「緑のカーテン作りへの協力のお願いにふさわしい表現で書くこと」を満たしていないもの】

- ・（なぜなら、）毎朝水やりをしないとすぐにかれてしまうし、昼に見に行ったらしおれてしまっていたから。（47字）

【誤答例：水やりの大変さについて書いているが、条件「毎朝水をやることを取り上げて書くこと」と「たくさんの植木ばちに水をやることを取り上げて書くこと」を満たしていないもの】

- ・（なぜなら、）植物を大切に育てるために、大きなはちにたくさんの水をあげるからです。（39字）
- ・（なぜなら、）1階から3階まで作るし、夏は温度が高いので、水をきゅうしゅうするからです。（42字）



☆指導改善のポイント

目的や意図に応じて、取材した事柄の中から、事実と感想、意見を区別しながら必要な内容を整理して書くことができるように指導することが大切です。

単元を構想する段階

「友達に自分たちの係活動を説明し、協力してもらう依頼文を書こう」という言語活動を設定して単元を構想しました。

依頼文の目的、意図、相手、方法を具体的に確認することにより、学習の見通しを持たせます。

「自分たちの係活動を友達に説明して、協力してもらう依頼文を書く」学習をします。「目的」「意図」「相手」「方法」を確認しましょう。



目的は緑のカーテン作りへの協力依頼ね。



水やりは大変だから人手がたくさんほしいよ。

相手は、同学年の友達に向けて依頼しよう。



依頼文を書く方法ってどうすればいいのかしら。



取材内容を整理する段階

- ①「話題」「理由・事例」「まとめ」などの見出しを付けて事柄を整理します。
- ②最も伝えたい事柄を決めます。
- ③整理した内容をノートに書いて、相手や目的に合っているか確かめます。



構成メモで内容を整理し、伝えたいことや順序を決めていきましょう。



「理由」だけでなく「事例」があると読み手にもよく伝わります。



始めと終わりに「思い」を伝えてはどうかしら。

構成メモの例

① 話題	水やりが大変なこと	思い
② 大変だった理由①と事例①	水やりをやるのが大変なから、水やりをしてくれる人を探した。水やりをしてくれる人を探した。	理由①
③ 大変だった理由②と事例②	水やりをしてくれる人を探した。水やりをしてくれる人を探した。	理由②
④ まとめ	水やりは大変なことだから、水やりをしてくれる人を探した。	思い

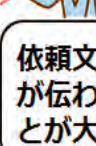
目的を明確にして交流する段階

書き上げた依頼文を友達と読み合う交流を設定します。

相手に向けて分かりやすく説明されているか、依頼文にふさわしい表現で書き表しているか、という観点で交流させます。



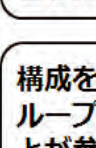
文章を書くときには、書く目的や意図、相手に応じ、文章の種類を選択し、構成を考えることが大切です。



依頼文では、依頼内容が伝わるように書くことが大切だと思います。



読み手の立場で内容を考えるのは大事なことだね。



構成を考えた時に、グループで話し合ったことが参考になりました。



相手が大人か小学生かで、書き方が違いました。

小学校 国語B 3 「物語を読んで、感想を伝え合う」

(あまんきみこ『きつねの写真』)

【宮城県平均正答率 42.0% / 全国平均正答率 43.8%】

3

大岩さんの学級では、あまんきみこさんが書いた「きつねの写真」という題名の物語を読み、それが考えたことについて、文章での表現を示しながら話し合っています。次は、【物語の一部】と【話し合いの様子の一部】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

■物語のこれまでのあらすじ
「ごんざ山に、松ぞうじいさんという木こりが孫のとび吉と二人で住んでいました。そこに、山野さんという新聞記者がきつねの写真をとりに来ました。」

【物語の一部】 ①・②・③・④の内容は、あとの【話し合いの様子の一部】で取り上げられます。
(あまんきみこ「きつねの写真」による。)

【話し合いの様子の一部】
横山 あまんきみこさんの「きつねの写真」を読んだ。心に残ったところはどこかな。
原 (③を示しながら)「あたりの木がいつせいにささってゆれてよびました」というところだ。
大岩 A 感じがすると思ったんだけど。
田中 A ことといえば、松ぞうじいさんととび吉はきつねだったのかな。
原 二人を写したはずの写真にきつねが写っていたんだから、きつねだよね。
田中 A ④からそう思うの。
横山 (④を示しながら)「山野さんは、むかいあったふたりをばりりとうしました」とあるでしょ。
原 そうだね。それに、(⑤)を示しながら「きつねの写真だ」と書いてあるしね。
田中 二人を写したはずの写真にきつねが写っているってことは、やっぱりきつねなのかな。
大岩 きつねだよね。他にもきつねって考えられるところはあるかな。
田中 (②を示しながら)「ここで、松ぞうじいさんが「ついでにせえ」と言っているところがあるでしょ。私は、(②)からもきつねってわかる気がするんだけど、どうかな。
原 私もそう思う。松ぞうじいさんは、きつねだからきつねのすんでいた穴の場所を知っている。案内でさしたんだよね。田中さんの言いたいことはそういうことではないかな。
田中 そうそう。
横山 (①を示しながら)「ここにもあるよ。」「人間にうちどられたり」と書いてあるけれど、もし、松ぞうじいさんが本音に人間なら、「人間に」とか「うちどられた」とは言わないと思うから、松ぞうじいさんはきつねだと考えることもできるね。
田中 そこからも、松ぞうじいさんがきつねだと考えられるね。他にも見つけたよ。
田中 B (話し合いが続く)

3

【話し合いの様子の一部】の中のBのところで、田中さんは、【物語の一部】の言葉や文を取り上げながら、松ぞうじいさんやとび吉がきつねであると考えたわけを話しています。あなたが田中さんならどのようなわけを話しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)
○ の横山さんのように、【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 取り上げた言葉や文をもとに、どうして松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えるのかを書くこと。
○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

○主な誤答【宮城県反応率 20.8%】
「条件に示された『【物語の一部】から言葉や文を取り上げて書くこと』は満たしているが、『取り上げた言葉や文をもとに、どうして松ぞうじいさんやとび吉がきつねだと考えるのかを書くこと』を満たさないで解答しているもの。」
○考察
松ぞうじいさんやとび吉がきつねであることが分かる叙述を基に、きつねだと考える理由を自分の言葉でまとめることができなかったと考えられます。

【正答例】

- ・「松ぞうじいさんの目に、なみだがりりとひかりました」というところは、人間にうちとられてしまった仲間のきつねを思う気持ちが表れていると思うから、松ぞうじいさんはきつねだと考えたよ。(90字)

【正答例】

- ・「大きなきつねは、ひたいに手をかざしています」という写真の様子は「ふしくれたった手をちょっとかざすようにして」の松ぞうじいさんの動きと同じで、そこからもきつねだということが考えられるよ。(93字)

【主な誤答例：条件「松ぞうじいさんやとび吉がきつねであると考えたわけについて書くこと」を満たしていないもの】

- ・山野さんがきつねの写真をとりたいと言ったあとに、「そこまできくと、松ぞうじいさんの目に、なみだがりりとひかりました」と書いてあるから、松ぞうじいさんはきつねだと考えることができるよ。(92字)

【主な誤答例：叙述を基に想像しながら読むことができていないもの】

- ・しっぽが少し出ている、このしっぽはきつねだと思ったからです。そして、しゃべり方もきつねみたいで、目も動物みたいな目だったからです。(65字)

【主な誤答例：物語を読んだ感想を書いているもの】

- ・なんだかとっても不思議な話で、松ぞうじいさんがきつねだということが最後にちょっと分かって、とてもいいお話だと思いました。(60字)



☆指導改善のポイント

自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしながら交流することで、自分の考えが明確になるということを児童が実感できるように指導することが大切です。

単元構想をする段階

文学的な文章の授業では、心に残った「叙述」を基に、どうしてその叙述が心に残ったのかを交流する学習が考えられます。

「叙述」にサイドラインを引いただけで終わらせず、どうしてそこが心に残ったのかという「理由」を考えさせていきましょう。

授業では、人物の気持ちや行動にサイドラインを引いて確認しています。



どうしてその叙述にサイドラインを引いたのか、理由を考えさせていますか？

一人一人に理由を考えさせてから交流することで、児童の読みが広がったり、深まったりするんですね。



各自考えたことが、どのように共通していたり、相違したりしているのかなどを明らかにしながら、交流させましょう。

目的を明確にして交流する段階

選んだ叙述とその理由をノートに書かせたあとで、感じたことを伝え合う交流を設定しましょう。

「どうしてそう思うの？」と質問したり、「私の考えをどう思う？」と意見を求めたりなど、目的を明確にして交流させましょう。



「なみだがりりと光りました」という表現から、きつねだと分かるよ。

どうしてそう思うの？



うちとられた仲間のきつねの悔しさを思い出したのよ。

自分も人間にうちとられると思ったのかもしれないよ。



質問したり、考えを補い合ったりすることも大切にします。一人一人に交流の目的を持たせていきます。

言語活動を行う段階

「読むこと」の領域の高学年の言語活動例には「本を読んで推薦の文章を書くこと」があります。

教科書で学んだことを生かすことができる言語活動を単元に位置付けて、言語活動を通して、指導事項を指導していきましょう。



さらに、自分が選んだ物語を紹介する学習につなげていきましょう。

僕は同じ作者の別の本を選んだよ。「心に残った表現」とその「理由」を感想ノートで紹介するよ。



僕は「登場人物の描かれ方」について感じたことを紹介しよう。



私は「文章の構成」について考えたことをまとめるわ。

小学校 算数 A **2** (3) 「加法と乗法の混在した整数と小数の計算」

【宮城県平均正答率 59.6% / 全国平均正答率 66.6%】

2

次の計算をしましょう。

(1) 123×52

(2) $10.3 + 4$

(3) $6 + 0.5 \times 2$

(4) $5 \div 9$ (商を分数で表しましょう。)

○主な誤答【宮城県反応率 22.6%】

「13」と解答しているもの。」

○考察

加法と乗法の混合した計算であるにもかかわらず、乗法を先に計算せず、 $6 + 0.5$ から計算していると考えられます。



☆指導改善のポイント

計算の順序についてのきまりは、単に暗記するだけでなく、具体的な場面と関連付けながら理解できるようにすることが大切です。

学習課題を捉える段階

四則混合の計算では「かけ算やわり算は、ひとまとまりとみて行う」というきまりを理解することが大切です。2つの違った考えを提示して正誤を比較させる展開は有効です。さらに児童が「なぜ、かけ算が先なのか」について理解できるように、学校生活と近い問題場面を設定してみましょう。

6+0.5×2の計算をしよう。

2人の式と答えを見てみましょう。

Aさんの考え

$$0.5 \times 2 = 1.0$$

$$6 + 1.0 = 7.0 \quad \text{答え } 7$$

Bさんの考え

$$6 + 0.5 = 6.5$$

$$6.5 \times 2 = 13.0 \quad \text{答え } 13$$

同じ計算をしているのに答えが違うよ。この原因は…

たし算やひき算と、かけ算やわり算が混じった計算には、順番のきまりがあったよ。

では、みなさんの学校生活で見られる場面に置き換えて、「計算のきまり」について確認しましょう。

具体的な場面で深める段階

- ① 体育科の授業場面を想定し、自分の50m走のタイムを利用し、結果を見通させます。
- ② 自力解決として、言葉の式に自分の記録を当てはめ、2つの方法で計算させます。
- ③ ペアで結果を見合います。計算結果が現実的でない数になることを実感させます。

50mハードル走の目標タイムを求めよう！

- ・ インターバルの距離は、5m, 6m, 6.5mから、自分に合った距離を選ぶ。
- ・ ハードルの数は5つ。

50m走のタイム+0.4×ハードルの数=目標タイム

来週の体育で練習する50mハードル走の目標タイムを決めます。さっきの計算問題と同じように、たし算とかけ算が混じった計算です。

ぼくの50m走のタイムは10.6秒だったよ。
Aさんの計算の順番で計算すると
 $0.4 \times 5 = 2.0$
 $10.6 + 2.0 = 12.6$
目標タイムは12.6秒か。

私の50m走のタイムは10.2秒だったよ。
Bさんの計算の順番で計算すると
 $10.2 + 0.4 = 10.6$
 $10.6 \times 5 = 53.0$
ずいぶん違うんだね。

計算のきまりをまとめる段階

- ④ なぜタイムが大きく違うのかをペアやグループで検討します。
- ⑤ 自分の記録に加える時間は一定であることを見いだした児童の言葉を生かして全体で共有します。
- ⑥ 最後に自分の言葉でまとめさせます。4年時の教科書にあるまとめを利用した児童の言葉を紹介しします。

50m走のタイム+0.4×ハードルの数=目標タイム

$10.2 + 0.4 \times 5 =$

たし算の $10.2 + 0.4$ を先に計算してその後に $\times 5$ をしているから、実際とは全然違う目標タイムになってしまっているんだよ。

かけ算を先にすることが必要なんだね。そうすれば、自分のタイムに加える 0.4×5 は2だと分かるよ。自分のタイムに2秒たせばいいね。

たし算とかけ算が混じった計算をするには、どんなことに気をつけて計算することが大切でしたか？自分の言葉でまとめましょう。

計算の順番に気をつけたことを思い出しました。かけ算やわり算は、ひとまとまりとみて、たし算・ひき算より先に計算します。

小学校 算数A 8 「□を使った式」

【宮城県平均正答率 80.4 % / 全国平均正答率 83.6 %】

はじめにシールを何枚か持っていて、5人で等しく分けたら、1人10枚ずつになりました。

このことを、はじめに持っていたシールの枚数を□枚として式に表します。
下の 1 から 4 までの中から、正しい式を1つ選んで、その番号を書きましょう。

1 $\square \times 5 = 10$

2 $10 \times \square = 5$

3 $\square \div 5 = 10$

4 $10 \div \square = 5$

○主な誤答【宮城県反応率 9.7 %】

「1 ($\square \times 5 = 10$) と解答しているもの。」

○考察

問題文に示されている数量の順番に着目しながら、乗法の場面であると捉えていると考えられます。

☆指導改善のポイント

未知の数量を□などの記号を用いて表現することにより、文脈どおりに数量の関係を立式することができるようにすることが大切です。

指導に当たっては、場面を的確に捉えることができるように、図を用いたり、□に具体的な数値を当てはめたりして考察する活動を設定しましょう。

立式の根拠について考える段階

- ①問題の文末を隠すことで、「箱の中に何枚か入っているシールを、5人で等しく分ける」という場面限定し、立式の根拠について考える活動を展開します。
- ②未知の数量を、□などの記号を用いて立式することを、児童の発言を通して確認します。

箱の中に何枚か入っているシールを、5人で等しく分けます。

課題 問題の場面を、お話に合わせて、式に表してみましょう。

箱に入っているシールの枚数が分かりません！

前の授業のように、分からないところは□で表したら…？

何か困ったことはありませんか？

そうですね！箱の中に入っている枚数は、□で表すことを約束しましょう。

□÷5です！

さて、どんな式になりましたか。

他のみんなは、どうですか？
どうして、わり算だと思ったんですか？

「等しく分ける」という言葉で、「わり算」だと思いました！

場面、図、式を関連付ける段階

- ③「□÷5」の計算によって何が求められるのかを、テープ図に場面を表すことで、的確に捉えられるようになることを実感させます。
- ④□に数を代入して1人当たりの枚数を求めた後は、再度、具体的な場面に戻って振り返る活動を大切にします。

□÷5の計算をすると、何が求められるのかな？

「1人分のシールの枚数」が求められることを、テープ図を使って確認してみましょう！

「1人分のシールの枚数」が求められます！

【箱にシールが□枚入っています】
□枚

【5人で等しく分けます】
□枚

1人分 1人分 1人分 1人分 1人分

□に数を当てはめて、1人分のシールの枚数を求めてみましょう！

10÷5=2 20÷5=4 30÷5=6

この式は、どのような場面を表す式なのか、お話ししてみよう！

箱に入っている10枚のシールを、5人で分けたら、1人2枚ずつになります！

文脈通りに立式することのよさを実感する段階

- ⑤問題の文末を提示して立式させた後は、「式を見て、どのような場面かを考えながら話す」活動を行い、文脈に従って立式することのよさを実感させます。
- ⑥□を使った式から□を求める方法として、テープ図や逆算の考え方のよさを確認します。

箱の中に何枚か入っているシールを、5人で等しく分けます。
結果は、1人10枚ずつになりました。

隠れていた問題の続きを見てみましょう。「1人10枚ずつ」のようですね！
それでは、問題のお話に合うように、式を完成させてください。

□÷5=10
になります！

お見事！これから問題を隠してみますので、「□÷5=10」の式を見て、どのような場面なのか、声に出して話してみましょう！

式に表すことで、問題の内容が、そのまま「算数の言葉」に変わりましたね！

□に当てはまる数を求めてみよう！

テープ図で考えてみました！
50枚
10枚 10枚 10枚 10枚 10枚

□に40、50と数を当てはめていったら、50でぴったりにまりました。

□を5でわっているのを、逆に5をかければ元に戻ります。
□=10×5で、
□=50になります！

小学校 算数 A 9 (2) 「資料の分類整理」

【宮城県平均正答率 58.8% / 全国平均正答率 62.8%】

9

家でイヌやネコを飼っているかどうかを、13人に聞いて、下のように記録しました。

飼っている動物調べ

出席番号	イヌ	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○
11	○	×
12	×	×
13	○	×

○…飼っている
×…飼っていない

左の記録を下の表にまとめます。

飼っている動物調べ (人)

		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	ア	イ	
	×	ウ	エ	
合計				オ

○…飼っている
×…飼っていない

(1) 左の出席番号 1 番の人は上の表の ア から エ までの中のどこに入りますか。1 つ選んで、その記号を書きましょう。

(2) 上の表の オ にあてはまる数を書きましょう。

○主な誤答【宮城県反応率 14.1%】

「26 と解答しているもの。」

○考察

資料を二次元表に整理分類することはできているが二次元表の合計欄の意味が理解できていないと考えられます。

☆指導改善のポイント

二次元表の合計欄の意味を理解するためにも、二次元表に示された数値が適切かどうか、確かめる場面を設定することが大切です。

問題場面をつかむ段階

教科書でも設定されている，委員会活動などを見据えた，学校生活の実際を生かした問題場面です。

1 単位時間だけでなく，単元を通した学習と，その結果を実際の生活場面に適用することで，児童の興味関心を高め，算数科の学習のよさを実感できるように設定しています。

学年	けがの種類	場所	時間
2	すりきず	校庭	放課後
3	切りきず	校庭	昼休み
1	すりきず	校庭	放課後
6	ねんざ	体育館	授業中
1	打ぼく	体育館	昼休み
4	打ぼく	ろう下	休み時間
5	ねんざ	校庭	休み時間
3	すりきず	ろう下	放課後
2	すりきず	校庭	授業中
6	打ぼく	体育館	授業中
1	切りきず	教室	授業中
4	切りきず	教室	授業中
5	すりきず	校庭	昼休み
3	ねんざ	体育館	授業中
1	ねんざ	校庭	昼休み

けがを少なくするためにポスターで呼びかけます。表に整理してポスターにのせましょう。

何年生のけが多いのかな？

どんなけが多いのかな？

けが多いのはいつかな？

どこでけをするのが多いのかな？

けの種類に目をつけて，表に整理してみたよ。予想通り，すりきずが多いね。でも，この表だけでは，場所や時間は分からないね。

種類	人数(人)
すりきず	正 5
切りきず	下 3
ねんざ	正 4
打ぼく	下 3
合計	15

学習課題を捉える段階

「ポスターの訴求力を高める」という具体的な目標に向かって学習を進めます。

- ① 資料を2つの観点から整理分類すると，これまでの表より特徴を見いだしやすくなることを引き出します。
- ② 自分で選んだ要素を二次元表に整理させ，合計欄に入る数を考えさせます。

学年	けの種類	場所	時間
2	すりきず	校庭	放課後
3	切りきず	校庭	昼休み
1	すりきず	校庭	放課後
6	ねんざ	体育館	授業中
1	打ぼく	体育館	昼休み
4	打ぼく	ろう下	休み時間
5	ねんざ	校庭	休み時間
3	すりきず	ろう下	放課後
2	すりきず	校庭	授業中
6	打ぼく	体育館	授業中
1	切りきず	教室	授業中
4	切りきず	教室	授業中
5	すりきず	校庭	昼休み
3	ねんざ	体育館	授業中
1	ねんざ	校庭	昼休み

けがを少なくするためにポスターで呼びかけます。表に整理してポスターにのせましょう。

ポスターの呼びかける力をもっと高めるためには，どんな工夫ができるかな？

「どこで」「どんな」けが多いか，目で分かる表を作ってみよう！

場所	校庭	体育館	ろう下	教室	合計
すりきず	4	0	1	0	5
切りきず	1	0	0	0	1
ねんざ	2	2	0	0	4
打ぼく	0	2	1	0	3
合計	7	4	2	2	30

あれ？ここに入る数はいくつになるんだろう？30でいいのかな？

読み取り結果を実感する段階

- ③ 最初に作った表と，自分が整理した二次元表，別な要素で整理した二次元表を並べ，合計欄に入る数の根拠や，数を入れることのよさを読み取らせます。
- ④ 児童が作成した二次元表を掲示し，表の一部を模造紙で隠しながら，合計欄の意味を確認することも考えられます。

場所	校庭	体育館	ろう下	教室	合計
放課後	2	0	1	0	3
昼休み	3	0	0	0	4
休み時間	1	1	1	0	2
授業中	1	3	0	2	6
合計	7	4	2	2	★

わたしは「いつ」と「どこで」を表にしてみました。

3つの表から★印の部分にはどんな数が入ると言えますか？

種類	人数(人)
すりきず	正 5
切りきず	下 3
ねんざ	正 4
打ぼく	下 3
合計	15

Aから，けをした人の合計が15人だと分かります。

場所	校庭	体育館	ろう下	教室	合計
すりきず	4	0	1	0	5
切りきず	1	0	0	0	1
ねんざ	2	2	0	0	4
打ぼく	0	2	1	0	3
合計	7	4	2	2	★

BとCは，横はどちらも「場所」を表しています。

★には同じ数の15が入ります。

場所	校庭	体育館	ろう下	教室	合計
すりきず	4	0	1	0	5
切りきず	1	0	0	0	1
ねんざ	2	2	0	0	4
打ぼく	0	2	1	0	3
合計	7	4	2	2	★

なるほど。みんなの説明を聞いて★に入るのは15だと分かったよ。合計を2度書かないし，確かめやすいね。

中学校 国語 B 1 三 「文学的な文章を読む (『スコーレNo. 4』)」

【宮城県平均正答率 37.4%／全国平均正答率 41.4%】

【本の紹介カード】
青山さんは、学校図書館で図書館員の生徒が作った「本の紹介カード」を見て、感動にその本を読んだ。「あ、これは、そのと
きに青山さんが見た『本の紹介カード』と、青山さんが読んでいた『本の一部』です。これらを読んで、あとの欄に答えなさい。

自分らしさって 何だろう……

古道具屋を営む家に生まれた仲のよい
三姉妹。でも、麻子(私)は、自由奔放な
妹の七葉との違いをいつも感じています。
そのような中で少しずつ自分らしさを
見付けていく麻子の
成長の物語です。

スコレ
No.4
宮下 奈都

比喩を
用いた表現も
素敵です！

【読書の記録】

書名 スコレNo.4
著者名 宮下奈都

〈心に残った一文〉

〈感想〉

【本の一部】
(宮下奈都「スコレNo.4」による)

三 青山さんは、「本の紹介カード」にある「比喩を用いた表現」に着目して【本の一部】を読み、感じたことや考えたことなどをあとの【読書の記録】に書いています。あなたなら【読書の記録】の〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きま
すか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 〈心に残った一文〉は、【本の一部】から、比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。

条件2 〈感想〉は、条件1で取り上げた表現について、「誰(何)」の、「どのような」様子なのかを明確にした上で、あなたが
感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

○主な誤答【宮城県反応率10.2%】

「条件2『誰（何）の、どのような様子なのかを明確にすること』、『感じたことや考えたことを具体的に書くこと』を満たしているが、条件1『比喻を用いた一文を抜き出すこと』を満たさないで解答しているもの。」

○考察

「**比喩**」について理解できていなかったと考えられます。

【正答例】

〈心に残った一文（比喻を用いた表現が含まれる一文）〉

中から、柳の葉の流れるような文様が息をのむほど美しい五寸皿が出てきた。

〈感想〉

「柳の葉の流れるような文様」という表現は、五寸皿の文様が柔らかな曲線で描かれていることを表している。柳の葉のしなやかさをイメージすることができる。

【正答例】

〈心に残った一文（比喻を用いた表現が含まれる一文）〉

興奮のあまり黒い目が濡れたように光って怖いくらいだった。

〈感想〉

七葉が自分の思い付きに興奮して目を輝かせている様子を表していて、七葉がお皿を水に濡らすことに夢中になっている様子が想像できます。

【主な誤答例：条件2「『誰（何）』の『どのような』様子なのかを明確にして書くこと」を満たしていないもの】

〈心に残った一文（比喻を用いた表現が含まれる一文）〉

閉じ込められていたはずのものが、蓋を開け、ゆるりと正体を現し、目の前で立ち上がる、そんな瞬間をたしかに感じるのだ。

〈感想〉※「誰（何）」の「どのような」様子なのかが明確でない。

「目の前で立ち上がる」という比喻を用いた表現が面白いと感じました。他の表現よりも印象に残りました。

【主な誤答例：条件1「比喻を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと」を満たしていないもの】

〈心に残った一文〉※比喻を用いた表現が含まれていない。

どうして、いつから、七葉は来なくなったんだろう。

〈感想〉

七葉が店に来なくなったことを残念に思っている麻子の思いを表していて、麻子の悩んでいる様子がよく分かった。

【主な誤答例：条件を2つとも満たしていないもの】

〈心に残った一文〉※比喻を用いた表現が含まれていない。

黙ったまま飽きずに眺めた。

〈感想〉※「誰（何）」の「どのような」様子なのかが明確でない。

どのくらいの間、眺めていたのだろう。私だったら飽きてしまう。



☆指導改善のポイント

印象に残った場面や叙述を取り上げ理由を具体的に説明したり、比喻や反復などの表現の技法についての知識を生かしたりする学習が大切です。

学習課題を捉える段階

文学的な文章は、「心に残った場面や叙述」を取り上げ、理由を具体的に説明し合うような学習活動が有効です。比喻や反復などの表現技法について、学んだ知識を生かせるような学習課題を設定してみましょう。



自分が選んだ「比喻を用いた表現が含まれる一文」は、「誰（何）のどのような様子」を表していると考えたか、グループで具体的に説明し合いました。

「雨に濡れていく皿が、まるで生き物のようになめかしく見えた」という一文が気に入ったよ。



その比喻は、何のどのような様子を表しているの？



「なめかしい」とはどんな様子？

皿が雨にしっとりと濡れて、命を吹き込まれたように生き生きした様子に見えたんだと思うよ。



目的を明確にして交流する段階

学習課題に沿った叙述を根拠としているか、「何の」「どのような様子」なのかを具体的に説明できているか、などの観点を踏まえて話し合うことが大切です。目的を明確にした交流をさせましょう。



私は「どうして、いつから、七葉は来なくなったんだろう。」という一文が心に残りました。

印象的な一文だけど、比喻は含まれていないわ。



あっ。そうだ。もう一度「比喻を用いた表現」を探してみます。

私は「柳の葉の流れるような文様」という表現がすごいと思いました。



「すごい」だけでは伝わらないな。もっと具体的に何がどのように良かったのかを伝えてほしいです。

学習課題に沿って振り返る段階

めあてに沿った振り返りをさせましょう。「振り返り」で、どのようなことを書くことができていれば「付けたい力が付いた」といえるのかを授業者がしっかりと押さえておきましょう。

学習過程の終末には「振り返り」を行いましょう。学んだことを、自分の言葉で振り返らせましょう。



文様の曲線を、風に揺れる柳の葉に例えて、柔らかさを表現したのだと思います。

「皿が笑っている」は擬人法です。器として用いられた喜びが伝わります。



質問や助言を受けて、「具体的に説明する」ということの大切さを学びました。



中学校 国語 B 2 三 「スピーチをする (けん玉)」

【宮城県平均正答率 53.7% / 全国平均正答率 57.6%】

② 有井さんは、けさ正午についてエヒチキをします。次は、リウサンがうそエヒキをするために用意した「本の部」のリウサンが、頭に話した「ヒューズ」リウサンと後に逢からもらった「意見書」です。これを完成させて、あの間に苦みまきい「スピーチ」の□□は、その國語で「実演」を行なうことを表します。（実演は二回と三回戦を行ないます）

【本の1部】

「大旦那」とうはつていて説明します。まず、けんを下の四圍をうに持ります。次に、ひを曲げながらけんを手にて手を少し下げます。深いひびきを伸ばしては、つら、下げたままに、必ず勢で手をすくにて引上げます。引き上げたのが落ち始めのうちは、王が一瞬静止した状態にこので、王を捉えやすくなります。このころ王の真下にはあまりくねを持ってさ、ひを全曲げながら受けます。たのひびきを曲げればよいというところではありません。もの動きに合せてひびきを曲げるのです。ひびきの動きは「大旦那」に照ります。けんのもろく技を打つ際、重要な動きます。特に、曲でまるを受け止めるには、頭と足がぶつかるとき、の衝撃をやわらける動きがあるのです。



【意見1】

三回目的実演のときは、とくに愛を有けて見せ
ばよいのか分かりやすかったので、二回目の実
演のときも同じようにすると思ひます。

【意見2】

「今私がやったようにひさを動かすといひです」といふところは、どのようにひさを動かすのかが分かりづらかったです。それに、なぜひさを動かすといひのかについても説明してほしいです。

【スローチ】

今日は、けんまの「大胆」という技を取り上げて、技を上手に決めるコツについて説明します。「大胆」というのは、けんまの一番大きな曲に手を添わせる技です。「大胆」はこのように持っていると、まっすいのような技姿が見えてきます。

（実演）一回目

「大皿」のコツは二つあります。



一つは、引上げた足が落ち始める寸前に、玉の真下に素早く皿を持つてくることです。勢きが一旦静止した状態になるこのタイミングだと玉を捉えやすいので、成功する確率が高くなります。では、やってみます。(実演)二回目 少し遅いかもしれませんが、何度も繰り返してやっていると、徐々にタイミングがつかめるようになります。

もう一つのツビはひびきをうまく動かすことです。では、ひびきの動きに注意して見て下さい。

（実演）三回目　開始にひびきを曲げます。そしてひびきの曲げはしながらをまっすぐに引る上げます。直を止めることのひびきの動きも重要ですよ。直を止めることには、今私がやったようにひびきを動かすことによります。

コツが分かったでしょう。皆さんも、ぜひ、この二つのことに気を付けながら、「大題」という技をやってみてください。



※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい

玉を受け止めるときは、

三石井さんは「意見2」を受けて、「スピーチ」の——報道「玉を受け止めるときは、今私がやったようにひざを動かす」といって——を両手に分かりやすいように直すことにしました。あんなならどのように直しますか。次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません

条件1 【本の一部】を参考にし、【意見2】にある「ピのようにひざを動かすのか」と「なぜひざを動かすといのか」が分

かるように書くこと。

条件2 「玉を受け止めるときは、」に続けて、四十字以上、八十字以内で書くこと（解答用紙に書かれている書き出しの字数を含みます）。

○主な誤答【宮城県反応率16.4%】

「条件1【本の一部】を参考にして、『どのようにひざを動かすのか』が分かるように書くこと」を満たしているが、『「なぜひざを動かすとよいのか」が分かるように書くこと』を満たさないで解答しているもの。」

○考察

「なぜひざを動かすとよいのか」という問いに対する理由をどのように説明すれば良いかが分からなかったと考えられます。

【正答例】

- ・（玉を受け止めるときは、）今私がやったように、玉の動きに合わせてひざを曲げるとよいです。なぜなら、皿と玉がぶつかるときの衝撃をやわらげる効果があるからです。（77字）

【正答例】

- ・（玉を受け止めるときは、）皿との衝撃をやわらげるために、ひざを曲げながら行くとよい。（41字）

【主な誤答例：条件1【本の一部】を参考にして、「なぜひざを動かすとよいのか分かるように書くこと」を満たしていないもの】

- ・（玉を受け止めるときは、）玉の動きに合わせてひざを曲げるとよいです。なぜなら、技を上手に決めることができるからです。（57字）
- ・（玉を受け止めるときは、）玉が大皿に乗ると同時にひざを少し曲げます。なぜなら、玉の動きと同じようにひざを曲げることが大切だからです。（66字）
- ・（玉を受け止めるときは、）ただひざを曲げればよいというわけではなく、玉の動きに合わせてひざを曲げるのです。（52字）
- ・（玉を受け止めるときは、）玉が落ちてくる直前でひざをやわらかく使って、たまごを受け止める感覚でひざを曲げるとよいです。（58字）



☆指導改善のポイント

伝えたい内容が正確に伝わっているか、聞き手に分かりやすい言葉になっているかなどについて振り返り、話し手と聞き手の両方の立場から検討する学習活動が大切です。

単元構想を行う段階

「話すこと・聞くこと」を指導する際の言語活動例として、第1学年では「日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること」が示されています。

「スピーチ」とは、原稿を書いて暗記して、原稿なしで再生することではないのですよね。



「スピーチメモ」を基に話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すことが大切です。

質問や助言し合う言語活動を通して、「相手の反応を踏まえながら話す」力を身に付けさせたいです。



実演をしたり、実物を見せたりしながら「スピーチ」をするのもいいですね。

リハーサルを行う段階

「互いのスピーチをよりよくするために、質問や助言をする」という意識を持たせましょう。

話の論理的な構成や展開、相手や場を意識して話しているかなど、観点に沿って検討させましょう。



リハーサルを聞いて「聞き手に分かりやすいように直した方がよい点」について助言し合いましょう。



どのようにひざを動かすのかが分かりにくかったわ。

ひざを動かすと良い理由も知りたいわ。



方法や理由を具体的に説明すると分かりやすくなるんだね。実演と説明のタイミングを考えてみるよ。

スピーチを振り返る段階

実際にスピーチをする様子を、録画・録音し、伝えたい内容が正確に伝わっているか、聞き手に分かりやすい言葉になっているかなどについて、話し手と聞き手の立場から振り返らせましょう。

記録した動画を見ながら、よかった点や修正が必要な点について意見を交流しましょう。



けん玉が成功したあと、少し間を取ってから話を続ければ良かったかな。

けん玉の動作に合わせて説明していたのは、分かりやすかったよ。



問い掛けられたので、自分だったらと考えながら聞くことができたわ。



中学校 数学A 2 (1)「文字式の計算とその利用」

【宮城県平均正答率 48.2% / 全国平均正答率 56.3%】

2 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

(1) 5 mの重さが a g の針金があります。この針金の 1 m あたりの重さは何 g ですか。 a を用いた式で表しなさい。

(2) a と b の関係が $100 - 20a = b$ の式で表される場面を、下のアからオまでの中から 1 つ選びなさい。

ア 1 個 100 円のガムを 1 個と、1 個 20 円のあめを a 個買ったときの代金は b 円でした。

イ 1 個 100 円のガムを 20 円引きで a 個買ったときの代金は b 円でした。

ウ 1 個 100 円のガムと 1 個 20 円のあめを、それぞれ a 個ずつ買ったときの代金は b 円でした。

エ 100 円で 1 個 20 円のあめを a 個買ったときのおつりは b 円でした。

オ 100 円で 1 個 20 円のあめを 1 個と 1 個 a 円のガムを 1 個買ったときのおつりは b 円でした。

(3) $(2x + 5y) - (6x - 3y)$ を計算しなさい。

(4) 等式 $x + 4y = 1$ を y について解きなさい。

○主な誤答【宮城県反応率 9.6%】

「 $\frac{5}{a}$ 」と解答しているもの。」

○考察

$\frac{5}{a}$
針金の重さが長さに比例するという関係を捉えることができず、問題文に登場する数量の順に 5 m を a g でわればよいと捉えた生徒がいると考えられます。

☆指導改善のポイント

具体的な数や言葉を使った式を利用して数量の関係を捉え、その関係を文字式で表すことができるように指導することが大切です。

学習問題を捉える段階

生徒は、2つの数量の関係をしっかり捉えているでしょうか。また、「 a を用いた式」という意味が分かっているでしょうか。

割り算を使うことが分かっても、式をつくることのできない生徒には、どのように指導したらよいのでしょうか？

【問題】

5mの重さが a gの針金があります。この針金の1mあたりの重さは何gですか。

a を用いた式で表しなさい。

問題文は読みましたか？
それでは、分かっていることに直線を、求めるものに波線を引きましょう！

「5mの重さが a gの針金」がイメージできないなあ？



「 a を用いた式」って、どうやって式をつくらばいいの？
割り算を使うのは分かるけど・・・



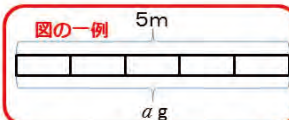
問題場面を捉えさせるために、問題文に下線を引かせることがよくあります。生徒は必要感をもって行っているでしょうか？

下線を引かせる指導も大切なのですが・・・

学習問題を見通す段階

- ①問題文から図をノートに自由にかかせます。
- ②針金の重さ「 a g」を具体的な数に置き換えて1mあたりの長さを求めさせる活動を設定します。
- ③言葉を使った式「(針金の重さ) ÷ (針金の長さ) = (1mあたりの重さ)」を確認させます。

問題文から分かることを図にかいてみましょう。小学校では、テープ図や線分図、数直線などをかきましたね。図には、長さや重さをかき入れましょう。



この1つ分の重さを求めればいいんだ！



針金の重さを具体的な数にして、式を立ててみましょう。例えば、5mの針金の重さが100gだとしたら、1mの針金の重さは何gになりますか。具体的な数は自分で決めよう。



計算方法を「針金の長さ」と「針金の重さ」という言葉を使って、言葉の式で表しましょう。

$100 \div 5 = 20$ なので20gです。



ぼくは300gで計算すると60gになります。



針金の重さを針金の長さで割ればいいんだ！



学習を振り返る段階

- ④言葉を使った式を基に、文字を使った式（文字式）を作らせます。
- ⑤適用問題として針金1gあたりの長さについて文字式で表す活動を取り入れます。
- ⑥「 a を用いた式」を与え、問題文を自由につくらせることも考えられます。



100gのところを a gに戻して式をつくるとどうなるでしょうか？

「 $a \div 5 = \frac{a}{5}$ 」なので、
1mあたりの重さは $\frac{a}{5}$ gです。



問題文からすぐに式をつくらせるのではなく、自由に図などをかいて問題を把握させたり、具体的な数で計算方法を確認させたりしてから、式をつくらせましょう。



「わり算の商は、分数で表すことができる。」これは小学校5年生で学習しましたね。

$\frac{a}{5}$ だけでも「式(文字式)」と言うんだね。



この針金の1gあたりの長さは何mですか。 a を用いた式で表しなさい。

この問題も図や具体的な数を使って式で表してみましょう。



中学校 数学A **7** (2)「証明の根拠」

【宮城県平均正答率 41.0% / 全国平均正答率 49.1%】

次の図のように、点A、B、Cがあり、点Aと点B、点Bと点Cを結びます。
下の①、②、③の手順で点Dをとり、平行四辺形ABCDをかきます。



前ページの①、②、③の手順では、どのようなことがらを根拠にして平行四辺形ABCDをかいていますか。下のアからオまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ平行な四角形は、平行四辺形である。
- イ 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。
- ウ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。
- エ 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しい四角形は、平行四辺形である。
- オ 対角線がそれぞれの中点で交わる四角形は、平行四辺形である。

○主な誤答【宮城県反応率 17.2%】

「ア (2組の向かい合う辺がそれぞれ平行な四角形は、平行四辺形である。) と解答しているもの。」

○考察

作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件と、作図された平行四辺形ABCDの定義を混同しているものと考えられます。

☆指導改善のポイント

作図された平行四辺形の性質や作図の根拠として用いられている条件について、作図の手順を振り返りながら話し合い、指摘し合うような活動を取り入れることが大切です。

学習課題を捉える段階

- ①どのような図形の一部なのかを考えさせ、関心・意欲の喚起を促します。
- ②生徒との会話を生かしながら、「平行四辺形を作図する」という学習課題の設定と、「点Dの位置」を見通す活動へとつなげます。

誰かが途中で作図をやめてしまったようです。
どんな図形をかこうとしていたのかな？

三角形！ 四角形！ 平行四辺形！

みなさんには作図の力を付けてほしいので、今日は、この図を平行四辺形ABCDに仕上げてみましょう。

課題 平行四辺形を完成させ、作図の方法を説明しよう！

点Dの位置を予想します。ここだと思っところ印を付けてみましょう。

それでは、続きの作図によって、点Dの正しい位置を決定してください！

このあたりです！

作図の方法を共有し合う段階

- ③定規やコンパスを用いた作図によって、どのような関係や性質が成立しているのかを、手順に従って説明する活動を位置付けます。
- ④目の前で定規やコンパスを動かしたり、同じ印をかき入れたりするなど、分かりやすい説明を工夫させます。

4人グループで、作図の方法を手順どりに説明し合ひましょう。

② 2枚の三角定規をスライドさせて、BCとAD、ABとDCが、それぞれ平行になるように作図します。

BCとAD、ABとDCが、それぞれ等しくなるように、コンパスで同じ長さを測り取って作図します。

平行な辺、同じ長さの辺に、共通の印を書き込みながら伝えと、聞き手も分かりやすいですね！

いくつかの方法が共有できたようですが、他に作図のアイディアはないか、相談してみましょう。

②と①の方法を組み合わせたらどうでしょう！

作図の方法を振り返る段階

- ⑤条件のどれに合致している作図方法なのかを指摘・確認し、分類し合う活動を行います。
- ⑥事後の学習を通して、条件のいずれかを指定して平行四辺形を作図させる活動を意図的に設け、具体的な場面で用いることができるよう指導を継続します。

みなさんが発見した作図方法は、「平行四辺形になるための条件」のどれを用いて作図したものでしょうか？
そのように考える理由を説明し合ひてみましょう。

(1) 2組の対辺がそれぞれ平行である。
(2) 2組の対辺がそれぞれ等しい。
(3) 2組の対角がそれぞれ等しい。
(4) 対角線がそれぞれの中点で交わる。
(5) 1組の対辺が平行で長さが等しい。

②の作図では、辺の長さも角度も調べていません。三角定規で平行な直線をかいているから、条件(1)を使っています！

①の作図では、コンパスで同じ長さを測り取っています。向かい合う辺の長さが等しくなるようにかいているから、条件(2)を使っています！

グループの仲間と協力しながら、条件(4)を用いた作図に挑戦してみましょう！

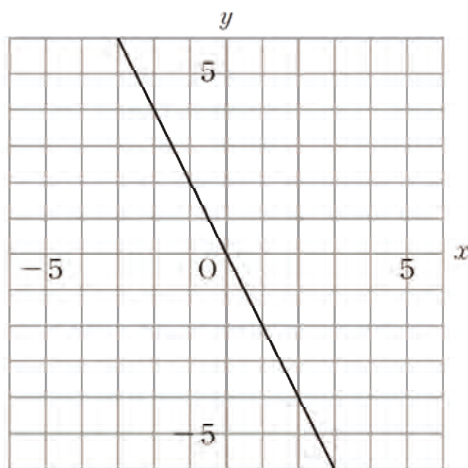
中学校 数学A **10** (2)「比例の式とグラフ・反比例の表」

【宮城県平均正答率 48.0 % / 全国平均正答率 57.1 %】

10 次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 比例 $y = 4x$ について、 x の値が3のときの y の値を求めなさい。

(2) 下の図の直線は、比例のグラフを表しています。このグラフについて、 y を x の式で表しなさい。



(3) 下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。この反比例の比例定数を求めなさい。

x	...	2	3	4	...
y	...	18	12	9	...

○主な誤答【宮城県反応率 9.3 %】

「 $2x$ と解答しているもの。」

○考察

与えられた比例のグラフから、 x と y の関係を $y = ax$ の式で表すことに課題があります。

☆指導改善のポイント

比例のグラフから x と y の関係を式で表すことができるように指導することが大切です。その際、グラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定することが考えられます。

学習問題を見通す段階

- ① グラフから分かることを見付けさせる活動を通して、グラフの形や数量の関係に目を向けさせます。気付いたことを全体で共有します。
- ② 生徒とのやり取りから、比例のグラフは $y=ax$ の式で表すことができることを引き出し、見通しを持たせます。

【問題】

このグラフについて、 y を x の式で表しなさい。

このグラフから分かることは何ですか？
たくさん見付けてみましょう。



点 $(1, -2)$ を通っている。

2つずつ変化しているかな？



原点を通る直線のグラフは、比例のグラフでしたね。比例の式はどのような式になるのでしょうか？

原点を通っている。

右下がりの直線のグラフです。

比例のグラフかな？

$y=ax$ の式に表せばいいんだ！



表、式、グラフで捉える段階

- ③ グラフから表を作らせ、伴って変わる数に目を向けさせます。表の枠をかかせるところから取り組ませましょう。
- ④ 表とグラフを基に、 y を x の式で表させます。
- ⑤ 複数の求め方を取り上げ、確認させます。
- ⑥ 自分とは違う方法を試させ、多様な見方を体験させましょう。

ここまでの学習で、数量の関係を表、式、グラフで調べてきましたね。式で表す前に、グラフから表をつくってみましょう。



グラフと表を基にして、 y を x の式で表しましょう。

$y=ax$ の式に $(1, -2)$ を代入して a を求めました。



$y=ax$ の式に $(3, -6)$ を代入して a を求めました。



表の枠から自分でノートにかきましょう！

表とグラフから、 x が1増加すると、 y が2ずつ減少するから、 $a = -2$

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	6	4	2	0	-2	-4	-6	...

学習を振り返る段階

- ⑦ 比例定数と表、式、グラフの関係に目を向けさせます。表、式、グラフをセットで考えさせることが大切です。
- ⑧ 次時には、反比例の表を基にして、式やグラフをかかせる活動も考えられます。同様に比例定数と関連付けることが大切です。



比例定数は、表、式、グラフのそれぞれどこに隠れているのでしょうか？

x の値に -2 をかけると y の値

y の値が2ずつ減っている

式 $y=ax$ の a の部分

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	6	4	2	0	-2	-4	-6	...

$x(-2)$ y 2ずつ減る

グラフで x の値が1増加すると y の値は2減少

さらに次時で

下の表は、 y が x に反比例する関係を表したものです。この表を基に、式とグラフで表しましょう。

x	...	2	3	4	...
y	...	18	12	9	...

単元を通して、数量の関係を、表、式、グラフを相互に関連付けて捉えさせることが大切です。他の関数も同様に解決できるようになります。

反比例の式の形はどうになりましたか？見通しを持って取り組みましょう！

グラフの座標軸から自分でかきましょう！



第2章

全国学力・学習状況調査結果



I 全国学力・学習状況調査結果の概要

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日 平成29年4月18日（火）

3 調査対象（仙台市を除く）

対象	調査事項		参加状況	
	教科に関する調査	質問紙調査	公立実施校	参加児童生徒数
小学校6年生	国語，算数	学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等	259校	10,250名
中学校3年生	国語，数学		140校	10,999名
学 校		指導方法，教育条件の整備状況等	上記の全ての学校	

4 調査結果の概況

（1）平成25年度から平成29年度までの教科に関する調査結果一覧

校 種	教 科	年 度	「知識」に関するA問題						「活用」に関するB問題					
			問題数	宮城県 (仙台市除く) 平均正答率	全国 平均 正答率	宮城県 平均 正答率	平均の比較		問題数	宮城県 (仙台市除く) 平均正答率	全国 平均 正答率	宮城県 平均 正答率	平均の比較	
							仙台市を除く	宮城県					仙台市を除く	宮城県
小 学 校	国 語	H29	15	73	75	74	-2	-1	9	54	58	56	-4	-2
		H28	15		73	72		-1	10		58	56		-2
		H27	14		70	70		0	9		65	64		-1
		H26	15		73	74		+1	10		56	54		-2
		H25	18		63	61		-2	10		49	48		-1
	算 数	H29	15	76	79	77	-3	-2	11	42	46	44	-4	-2
		H28	16		78	77		-1	13		47	46		-1
		H27	16		75	74		-1	13		45	43		-2
		H26	17		78	77		-1	13		58	57		-1
		H25	19		77	76		-1	13		58	57		-1
中 学 校	国 語	H29	32	74	77	77	-3	0	9	70	72	73	-2	+1
		H28	33		76	77		+1	9		67	68		+1
		H27	33		76	76		0	9		66	66		0
		H26	32		79	80		+1	9		51	52		+1
		H25	32		76	78		+2	9		67	69		+2
	数 学	H29	36	59	65	63	-6	-2	15	44	48	47	-4	-1
		H28	36		62	60		-2	15		44	44		0
		H27	36		64	63		-1	15		42	41		-1
		H26	36		67	66		-1	15		60	59		-1
		H25	36		64	62		-2	16		42	40		-2

(2) 教科に関する調査の結果

- 国語については、小・中学校ともに「知識」に関するA問題、「活用」に関するB問題が全国平均を下回った。
- 算数・数学については、A問題、B問題とも全国平均を下回った。

(3) 児童生徒質問紙調査の結果

- 朝食や就寝、起床など基本的な生活習慣については、肯定的な回答の割合は、小・中学生ともに全国値とほぼ同じである。長時間(3時間以上)テレビ等を視聴する割合は、小学生では全国値を上回ったが、中学生ではやや下回った。長時間(3時間以上)テレビゲームをする割合や、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする割合は、小学校は全国値とほぼ同じであるが、中学生はやや下回った。
- 平日の家庭学習の時間において、小学生で1時間以上は全国値を上回ったものの、2時間以上では下回った。中学生は、1時間以上で全国値を下回った。
- 家庭で授業の予習をしている小学生の割合は、全国値を上回り、中学生は大きく上回った。復習をしている小・中学生の割合は、全国値を大きく上回った。
- 主体的・対話的で深い学びの視点に関連する質問については、友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意と回答した割合は、小・中学生ともに全国値を下回った。
- 授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う小学生の割合は、全国値をやや下回り、授業の最後に学習内容を振り返る活動を行ったと思う小学生の割合は、全国値を下回った。
- 自分にはよいところがあると回答した割合は、小学生は全国値をわずかに下回り、中学生は下回った。
- 地域の行事に参加している小学生の割合は、全国値を上回った。外国のことに対する関心等については、小・中学生ともに全国値を下回った。
- 今回の問題について、最後まで解答を書こうと努力したと回答した割合は、小学校国語・算数、中学校国語・数学において、全国値を下回った。

(4) 学校質問紙調査の結果

- 児童生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした割合は、小学校・中学校ともに全国値を上回った。
- 学力向上に向けた補充的な学習サポートの取組では、放課後に実施した割合は、小学校は全国値を大きく上回り、中学校も上回った。長期休業日を利用して実施した割合は、小学校では全国値を大きく上回り、中学校ではやや下回った。
- 地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えさせる指導や地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会の設定を行った割合は、小学校・中学校ともに全国値を上回った。
- 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している割合は、小学校・中学校ともに全国値を上回った。
- 小学校教育と中学校教育の連携に関する項目は、小学校・中学校ともに、全国値を大きく下回った。
- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手に伝えることができた割合は、小学校・中学校ともに全国値を下回った。また、自分の考えを深めたり広げたりすることができた割合

は、小学校では全国値を下回った。

- 道徳の時間において、児童生徒自らが考え、話し合う指導をした割合は、中学校で全国値を上回った。
- 教員研修に関して、講師を招聘するなどの校内研修や校外の教員同士の授業研究の場への定期的・継続的な参加及び児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行った割合は、小学校・中学校ともに全国値を大きく下回った。

5 今後の対応

- 小学校における基礎学力の定着が重要であることから、各教育事務所ごとに小学校の校長を対象とした会議を開催し、成果を上げている小学校の具体的な取組事例を紹介し、活用を促していく。
- リーフレット「学力向上に向けた5つの提言－理解 継続 自校化－」を活用し、5つの提言の意味を再確認し、実践の一層の充実と自校化を促していく。
- 指導主事訪問等を通して、校内研修を通じた授業づくりや近隣の小・中学校の合同研修会の実施等を促す。
- 校長会等において、本報告書の活用を促し、各学校の具体的な取組を支援する。
- 市町村教育委員会の要請に応じて大学教授を派遣し、学力向上の取組に対する具体的な支援を強化する。
- 各教育事務所ごとに管内の各学校が取り組んでいる学力向上対策について取りまとめ、共有を図りながら、各学校に対して具体的な取組事例として紹介し活用を促していく。

Ⅱ 各教科の調査の結果

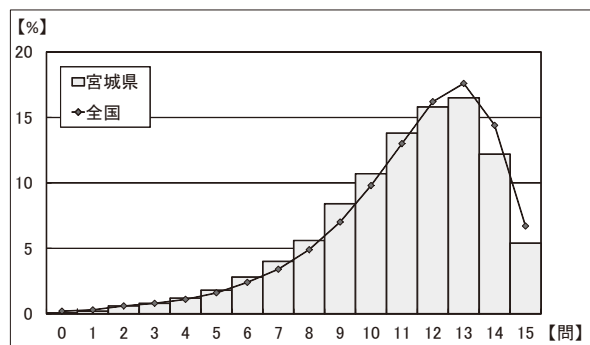
1 小学校国語A問題（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

（１）結果の概要

- 県平均正答率は73％である。
- 県平均正答率が全国平均正答率を上回った問題は15問中4問ですべて漢字の読み書きに関する問題だった。

（２）正答数分布状況

【平成29年度正答数分布グラフ】



- 全国と比較して、正答数が12問（80％程度）以上の児童の割合が低く、6問～11問（40％～75％程度）の児童の割合が高くなっている。

- 最頻値は13問で、全国と同じである。
中央値は11問で、全国より－1である。

- ※ 最頻値：集団のデータにおいて、最も多く表れる値
- ※ 中央値：集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値

（３）領域別の平均正答率

- 全ての領域において、県平均正答率は、全国平均正答率を下回っている。
- 全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは、「読むこと」領域だった。
- 全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」だった。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較
H29	66.6	69.2	-2.6	58.0	60.6	-2.6	66.4	70.2	-3.8	76.8	78.0	-1.2	73	75	-2

* 単位は％

（４）問題別調査結果

- 正答率のかい離が全国より大きい（±3ポイント以上）問題等
（◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス，[]内の記号は問題番号）

【話すこと・聞くこと】

なし

【書くこと】

- ◆ お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する [2一]

【読むこと】

- ◆ 学級新聞を書くために「時の記念日」についての「資料」から、中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する [3]
- ◆ 俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する [4一]（【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】と関連）
- ◆ グループの話し合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択する [4二]（【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】と関連）

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆ 【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する [6]

- 無解答率のかい離が全国より大きい（3ポイント以上）問題等
・なし

問題別集計結果

	問題の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	語彙・表現の理解と活用と表現の技能に関する事項	選択式	短答式	記述式	① 全問題(10問)	② 全問題(10問)	③ 全問題(10問)	④ 全問題(10問)		
問題番号														
1	学校文庫のタイトルを決める話し合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを選択する	3・4 ナ				○			66.6	69.2	0.4	0.4	-2.6	0.0
2-1	おれのお気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する		3・4 ア			○			75.8	79.7	0.0	0.1	-3.9	-0.1
2-2	手紙の付けに必要で、口付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する		3・4 イ			○			40.1	41.5	0.2	0.3	-1.4	-0.1
3	学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する			3・4 イ		○			71.0	74.4	0.4	0.5	-3.4	-0.1
4-1	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する			3・4 エ	3・4 (1)ア (7)	○			75.2	79.4	0.3	0.5	-4.2	-0.2
4-2	グループの話し合いを通して見つけた俳句のよさとして適切なものを選択する			3・4 エ	3・4 (1)ア (7)	○			53.0	57.0	0.7	0.7	-4.0	0.0
5-7	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する (三度目の正直)				3・4 (1)ア (7)	○			89.6	90.0	0.6	0.8	-0.4	-0.2
5-8	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する (もちほもも屋)				3・4 (1)ア (7)	○			82.8	83.6	0.9	1.0	-0.8	-0.1
6	【「外前赤」の一部】を省略して気が付いたことの説明として適切なものを選択する				3・4 (1)ア (7)	○			66.0	71.1	1.4	1.6	-5.1	-0.2
7 (1)	漢字を書く (参加したいよう)				3・4 (1)ア (7)		○		43.3	42.0	11.8	10.6	1.3	1.2
7 (2)	漢字を書く (4年生のきぼう者)				3・4 (1)ア (7)		○		77.5	80.0	4.9	4.6	-2.5	0.3
7 (3)	漢字を読む (ゆいこみ運動)				3・4 (1)ア (7)		○		94.3	94.5	2.8	3.0	-0.2	0.2
7 (4)	漢字を読む (喜劇空想)				3・4 (1)ア (7)		○		89.7	88.8	2.9	3.0	0.9	-0.1
7 (5)	漢字を書く (箱が置いてあります)				3・4 (1)ア (7)		○		77.9	76.8	12.4	11.8	1.1	0.3
7 (6)	漢字を読む (指示)				3・4 (1)ア (7)		○		95.2	94.5	2.4	2.9	0.7	-0.5

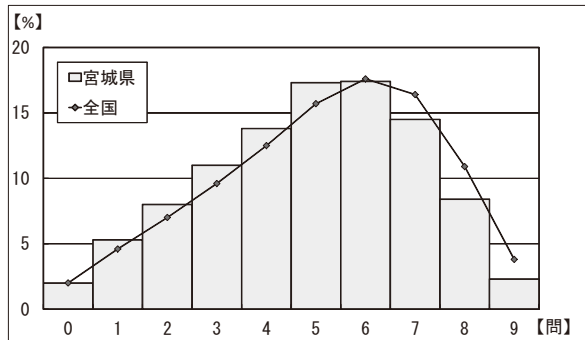
2 小学校国語B問題（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

（1）結果の概要

- 県平均正答率は54％である。
- 県平均正答率が全国平均正答率を上回った問題は9問中1問で、「読むこと」領域だった。

（2）正答数分布状況

【平成29年度正答数度数分布グラフ】



- 全国と比較して、正答数が7問（80％程度）以上の児童の割合が低く、3問～5問（35％～60％程度）の児童の割合が高くなっている。
- 最頻値は5問で、全国と比較して1問下回っている。
- 中央値は5問で、全国と同じである。

（3）領域別の平均正答率

- 全ての領域において、県平均正答率は、全国平均正答率を下回っている。
- 全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは、「話すこと・聞くこと」領域だった。
- 全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは、「書くこと」領域だった。

年 度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合 計		
	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較
H29	61.6	64.9	-3.3	50.8	53.4	-2.6	46.3	49.2	-2.9				54	58	-4

* 単位は％

（4）問題別調査結果

- 正答率のかい離が全国より大きい（±3ポイント以上）問題等
（◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス，[]内の記号は問題番号）

【話すこと・聞くこと】

- ◆ グループの話し合いの中で、石田さんたちは、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く [1 二]
- ◆ 折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く [1 三]（【話すこと・聞くこと】と関連）

【書くこと】

- ◆ 「緑のカーテン作りへの協力をお願い」における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する [2 一]

【読むこと】

- ◆ 「きつねの写真」を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図ととして、適切なものを選択する [3 二]

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

なし

- 無解答率のかい離が全国より大きい（3ポイント以上）問題等
・なし

問題別集計結果

		学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語的・言語的・文と意思の相互に関する事項	選択式	短答式	記述式	①宮城県(公立)	②全国(公立)	③宮城県(私立)	④全国(私立)	(①-②)	(③-④)
問題番号	問題の概要													
1-1	スピーチの練習の様子を記録した動画を見る目的として、適切なものを選択する	5×6 イ				○			75.6	77.2	0.3	0.5	-1.6	-0.2
1-2	グループの話し合いの中で「石田さんは、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているか」という質問	5×6 イ					○		63.7	69.2	4.6	3.8	-5.5	0.8
1-3	折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く	5×6 イ	5×6 ウ					○	45.4	48.4	2.7	2.6	-3.0	0.1
2-1	【緑のカーテン作りへの協力のお願い】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する		5×6 イ			○			67.8	70.8	0.6	0.7	-3.0	-0.1
2-2	【友達の考え】と同じ考えの人を招待するために引用する文章を【緑のカーテンを始めよう】の一部から選択する		5×6 エ			○			68.4	70.9	3.3	3.2	-2.5	0.1
2-3	「水やりに協力してくれる人を募集します」の「イ」に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く		5×6 ウ					○	30.2	33.0	2.4	2.8	-2.8	-0.4
3-1	『きつねの写真』を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、「A」に当てはまる言葉として適切なものを選択する			5×6 エ		○			76.0	75.9	2.3	2.6	0.1	-0.3
3-2	『きつねの写真』を読んだあとの話し合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する			5×6 オ		○			20.9	28.0	2.9	3.2	-7.1	-0.3
3-3	『きつねの写真』から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんとひろがきつねだと考えたわけを基に書く		5×6 ウ	5×6 エ				○	42.0	43.7	21.6	19.4	-1.7	2.1

児童質問紙

質 問 事 項		宮城県	全国	かい離
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	74.6	77.2	-2.6
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった	22.8	20.1	2.7
	3 書く問題は解答しなかった	2.0	1.9	0.1
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)	1 時間が余った	48.7	53.2	-4.5
	2 ちょうどよかった	37.7	33.4	4.3
	3 やや足りなかった	11.5	10.7	0.8
	4 全く足りなかった	2.0	2.2	-0.2
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)	1 時間が余った	27.0	32.0	-5.0
	2 ちょうどよかった	35.8	33.5	2.3
	3 やや足りなかった	30.8	27.4	3.4
	4 全く足りなかった	6.1	6.1	0.0

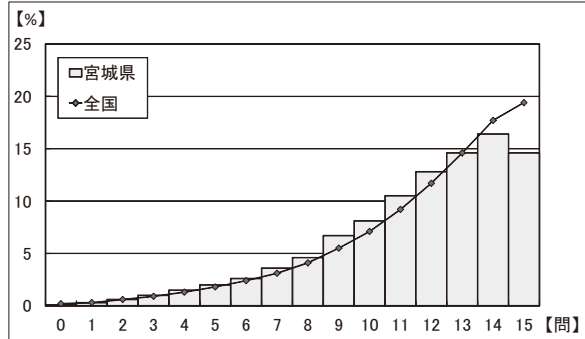
3 小学校算数A問題（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

（１）結果の概要

- 県平均正答率は76％である。
- 県平均正答率が全国平均正答率を上回った問題は15問中1問で、領域は「数と計算」だった。

（２）正答数分布状況

【平成29年度正答数度数分布グラフ】



- 全国と比較して、14問（90％程度）以上の児童の割合が低く、正答数が9問～12問（60％～80％程度）の児童の割合が高くなっている。特に、15問（100％）正解した児童の割合は、全国とのかい離が大きくなっている。
- 最頻値は14問で、全国と比較して1問下回っている。
- 中央値は12問で、全国と比較して1問下回っている。

（３）領域別の平均正答率

- 全ての領域において、県平均正答率は、全国平均正答率を下回っている。
- 全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは、「数量関係」領域だった。
- 全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは、「図形」領域だった。

年 度	数と計算			量と測定			図 形			数量関係			合 計		
	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較
H29	78.6	80.6	-2.0	66.4	68.8	-2.4	79.6	81.1	-1.5	76.5	79.6	-3.1	76	79	-3

* 単位は％

（４）問題別調査結果

- 正答率のかい離が全国より大きい（±3ポイント以上）問題等
（◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス，[]内の記号は問題番号）

【数と計算】

- ◆ $6 + 0.5 \times 2$ を計算する[2 (3)]（【数量関係領域】と関連）
- ◆ $5 \div 9$ の商を分数で表す[2 (4)]

【量と測定】

- ◆ 重さ，長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ[4]

【図 形】

なし

【数量関係】

- ◆ はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたときの，問題場面を表す式を選ぶ[8]
- ◆ 二次元表の合計欄に入る数を書く[9 (2)]

- 無解答率のかい離が全国より大きい（3ポイント以上）問題等
・なし

問題別集計結果

※一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離 (①-②)	無解答率の かい離 (③-④)
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	①宮城県(公立)	②全国(公立)	③宮城県(公立)	④全国(公立)		
1(1)	リボンを2m買ったときの代金と3m買ったときの代金を書く	3A (3)イ				○			96.5	96.9	0.5	0.4	-0.4	0.1
1(2)	買ったリボンの長さ、1m当たりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	5A (4)ア				○			72.7	69.9	1.7	1.8	2.8	-0.1
1(3)	60×0.4を、60×4を基にして考えるとときの、正しい積の求め方を選ぶ	3A (3)イ				○			88.1	91.0	0.6	0.7	-2.9	-0.1
2(1)	123×52を計算する	3A (3)イ				○			85.1	85.2	0.4	0.5	-0.1	-0.1
2(2)	10-3+4を計算する	4A (3)イ				○			79.2	79.7	0.3	0.4	-0.5	-0.1
2(3)	6+0.5×2を計算する	4A (3)イ				○			59.6	66.6	0.5	0.6	-7.0	-0.1
2(4)	5÷9の商を分数で表す	5A (4)イ				○			62.4	69.2	4.4	3.9	-6.8	0.5
3	8と12の最小公倍数を求める	5A (1)イ				○			84.9	86.2	1.3	1.2	-1.3	0.1
4	重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ		1B (1)ア 3B (1)イ			○			66.2	70.7	0.5	0.6	-4.5	-0.1
5	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ		5B (1)ア			○			66.5	67.0	1.3	1.3	-0.5	0.0
6	円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く			5C (1)ア,ロ		○			74.3	75.5	2.4	2.3	-1.3	0.1
7	立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ			4B (2)ア,イ		○			84.9	86.7	0.7	1.0	-1.8	-0.3
8	はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ				3D (2)イ	○			80.4	83.6	1.2	1.4	-3.2	-0.2
9(1)	出席番号1番の人は二次元表のどこに入るかを選ぶ				4D (3)ア	○			87.4	88.0	2.4	2.6	-0.6	-0.2
9(2)	二次元表の合計欄に入る数を書く				4D (4)ア	○			58.8	62.8	5.3	5.1	-4.0	0.2

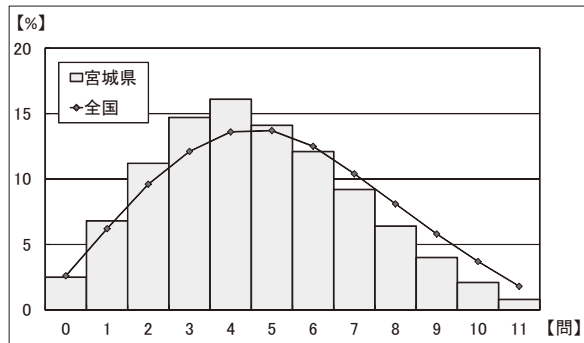
4 小学校算数B問題（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

（１）結果の概要

- 県平均正答率は42％である。
- 県平均正答率が全国平均正答率を上回った問題は11問中 1 問で、「数量関係」領域だった。

（２）正答数分布状況

【平成 2 9 年度正答数度数分布グラフ】



- 全国と比較して、正答数が 7 問（63％程度）以上の児童の割合が低く， 2 問～ 4 問（18％～36％程度）の児童の割合が高くなっている。特に， 3 問～ 4 問（27％～36％）正解した児童の割合は，全国とのかい離が大きくなっている。
- 最頻値は 4 問で，全国と同じである。
- 中央値は 4 問で，全国と比較して 1 問下回っている。

（３）領域別の平均正答率

- 全ての領域において，県平均正答率は，全国平均正答率を下回っている。
- 全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは，「量と測定」領域だった。
- 全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは，「数と計算」領域だった。

年 度	数と計算			量と測定			図 形			数量関係			合 計		
	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較
H29	49.3	52.8	-3.5	40.8	47.0	-6.2	9.1	13.2	-4.1	35.6	40.0	-4.4	42	46	-4

* 単位は％

（４）問題別調査結果

- 正答率のかい離が全国より大きい（± 3 ポイント以上）問題等
（◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス，[]内の記号は問題番号）

【数と計算】

- ◆ 示された考えを基に， $54 - 45$ の場合で残る部分を図に表す [1 (2)]（【数量関係領域】と関連）
- ◆ 2 けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く [1 (3)]（【数量関係領域】と関連）
- ◆ 小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の，料金の差の求め方と答えを書く [2 (1)]（【数量関係領域】と関連）
- ◆ 1 3 本の直線を使う場合，手紙の用紙の長い辺を 3 等分するのは，何本目の直線と交わった点かを書く [2 (2)]

【量と測定】

- ◆ 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ [3 (1)]（【数量関係領域】と関連）
- ◆ 仮の平均の考えを活用して，測定値の平均を求める [3 (2)]（【数量関係領域】と関連）

【図 形】

- ◆ 与えられた情報から，基準量，比較量，割合の関係を捉え，「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び，選んだわけを書く [5 (2)]

【数量関係】

- ◆ 示された式の中の数が表す意味を書き，その数が表のどこに入るかを選ぶ [4 (1)]
- ◆ 学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ [4 (2)]（【数量関係領域】と関連）

- 無解答率のかい離が全国より大きい（3 ポイント以上）問題等
・ 2 けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く [1 (3)]

問題別集計結果

*一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離 (①-③)	無解答率の かい離 (④-⑤)
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	①宮城県(公立)	②全国(公立)	③宮城県(公立)	④全国(公立)		
1 (1)	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書け	2A (2)ア					○		75.8	76.0	1.9	2.0	-0.2	-0.4
1 (2)	示された考えを基に、 $54-45$ の場合で残る部分を図に表す	2A (2)ア 2B (1)イ					○		78.7	81.8	4.5	3.9	-3.1	0.6
1 (3)	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書け	2A (1)ア			4B (3)ア 5B (2)		○		32.3	38.6	18.1	14.9	-6.3	3.2
2 (1)	小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書け	2A (2)ア 2A (3)イ 3A (3)イ			4B (3)		○		36.1	40.4	7.3	6.4	-4.3	1.2
2 (2)	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書け	2A (4)ア 2A (1)イ					○		23.7	27.4	6.5	6.0	-3.7	0.5
3 (1)	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ		3B (3)ア		4B (2)ア	○			64.0	67.9	0.7	1.1	-3.9	-0.4
3 (2)	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める		3B (3)ア		4B (3)ア	○			17.7	26.1	14.5	12.7	-8.4	1.8
4 (1)	示された式の中の数が表す意味を書き、その数が表のどこに入るかを選ぶ				4B (4)ア	○			34.8	39.8	4.8	4.8	-5.0	0.0
4 (2)	学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ				3B (2)ア 5B (4)	○			25.1	29.3	3.5	4.6	-4.2	-1.1
5 (1)	「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ				3B (3)	○			65.6	65.0	4.4	5.5	0.6	-1.1
5 (2)	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書け			3B (1)ア	5B (3)		○		9.1	13.2	7.1	8.7	-4.1	-1.6

児童質問紙

質問事項		宮城県	全国	かい離
今回の算数の問題について、言葉や数式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。どのように解答しましたか	1 すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	67.4	69.9	-2.5
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった	29.6	27.1	2.5
	3 書く問題は全く解答しなかった	2.3	2.1	0.2
調査問題の解答時間は十分でしたか (算数A)	1 時間が余った	50.1	55.0	-4.9
	2 ちょうどよかった	36.2	32.1	4.1
	3 やや足りなかった	10.8	9.8	1.0
	4 全く足りなかった	2.7	2.6	0.1
調査問題の解答時間は十分でしたか (算数B)	1 時間が余った	22.2	27.7	-5.5
	2 ちょうどよかった	25.1	24.8	0.3
	3 やや足りなかった	38.1	33.0	5.1
	4 全く足りなかった	14.4	14.0	0.4

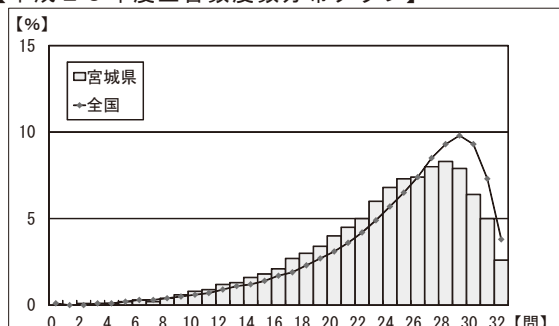
5 中学校国語A問題（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

（１）結果の概要

- 県平均正答率は74%である。
- 県平均正答率が全国平均正答率と同じ、もしくは上回った問題は32問中4問で、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で2問、「書くこと」領域で1問が上回り、「話すこと・聞くこと」領域で1問が同じだった。

（２）正答数分布状況

【平成29年度正答数度数分布グラフ】



- 全国と比較して、正答数が26問（80%程度）以上の生徒の割合が低く、16問～25問（50%～75%程度）の生徒の割合が高くなっている。特に、28問（88%以上）正解した児童の割合は、全国とのかい離が大きくなっている。
- 最頻値は28問で、全国と比較して1問下回っている。
- 中央値は25問で、全国と比較して1問下回っている。

（３）領域別の平均正答率

- 全ての領域において、県平均正答率は、全国平均正答率を下回っている。
- 全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」だった。
- 全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは、「書くこと」領域だった。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合計		
	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較
H29	73.0	75.4	-2.4	85.1	85.7	-0.6	72.3	73.8	-1.5	72.9	77.2	-4.3	74	77	-3

* 単位は%

（４）問題別調査結果

- 正答率のかい離が全国より大きい（±3ポイント以上）問題等
（◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス，[]内の記号は問題番号）

【話すこと・聞くこと】

- ◆ 先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す [7一]
- ◆ 結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する [7二]

【書くこと】

なし

【読むこと】

なし

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ◆ 文脈に即して、漢字を書く
 - ・組織のキボを大きくする [9一1]
 - ・雨で運動会がエンキになる [9一2]
- ◆ 適切な語句を選択する
 - ・えりを正して話を聞く [9三ア]
 - ・急がば回れ [9三イ]
- ◆ 楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する [9六1]
- ◆ 行書で書かれた「和」の特徴の組み合わせとして適切なものを選択する [9六2]
- ◆ 古典の作品の種類を選択する
 - ・徒然草（随筆） [9七2]

- 無解答率のかい離が全国より大きい（3ポイント以上）問題等
 - ・文脈に即して、漢字を書く（組織のキボを大きくする） [9一1]
 - （雨で運動会がエンキになる） [9一2]

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離 (①-②)	無解答率の かい離 (③-④)
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	①宮城県(公立)	②全国(公立)	③宮城県(公立)	④全国(公立)		
1	画面に示された字幕についての説明として適切なものを選択する				2(1) イ(7)	○			79.6	81.4	0.0	0.1	-1.8	-0.1
2一	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する	2ウ				○			86.7	87.8	0.1	0.1	-1.1	0.0
2二	スピーチの構成を説明したものとして適切なものを選択する	1イ				○			79.6	79.6	0.2	0.3	0.0	-0.1
3一	それまでががんばってきた様子が読み手により伝わるように書き直す		2エ				○		85.5	86.0	3.8	3.3	-0.5	0.5
3二	一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択する		2オ			○			83.6	84.3	0.2	0.2	-0.7	0.0
4一	見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する			1イ		○			79.4	81.0	0.2	0.2	-1.6	0.0
4二	文章について説明したものとして適切なものを選択する			1エ		○			71.7	72.9	0.3	0.3	-1.2	0.0
5一	〈立候補者から〉の欄の書き方を説明したものとして適切なものを選択する		2イ			○			78.3	79.8	0.1	0.2	-1.5	-0.1
5二	〈推薦者から〉の欄に書き加える具体例に使う情報として適切なものを選択する		1ア			○			93.0	92.7	0.1	0.2	0.3	-0.1
6一	登場する人物を整理したものに当てはまる人物の組合せとして適切なものを選択する			1ウ		○			72.4	74.8	0.5	0.5	-2.4	0.0
6二	「どれもこれも王を蔵しているのはなかった」の意味として適切なものを選択する			1ウ		○			59.1	60.1	0.5	0.5	-1.0	0.0
7一	先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す	1ウ					○		48.5	54.0	6.1	5.1	-5.5	1.0
7二	結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する	1ア				○			77.3	80.4	0.5	0.4	-3.1	0.1
8一	詩について説明したものとして適切なものを選択する			2ウ		○			80.6	81.9	0.6	0.6	-1.3	0.0
8二	二人の交流の様子について説明したものとして適切なものを選択する			1オ		○			70.5	72.3	0.8	0.8	-1.8	0.0
9一1	漢字を書く(絵画のキボを大きくする)				2(1) ウ(6)		○		47.0	62.8	24.0	15.8	-15.8	8.2
9一2	漢字を書く(雨で運動会が中止になる)				2(1) ウ(4)		○		52.2	62.3	17.4	13.5	-10.1	3.9
9一3	漢字を書く(店をイトナむ)				2(1) ウ(4)		○		85.1	85.4	9.7	8.3	-0.3	1.4
9二1	漢字を読む(覚悟を決める)				2(1) ウ(7)		○		98.9	98.7	0.8	0.9	0.2	-0.1
9二2	漢字を読む(鮮やかな色合い)				2(1) ウ(7)		○		92.8	94.5	0.7	0.8	-1.7	-0.1
9二3	漢字を読む(水が重れる)				2(1) ウ(7)		○		93.6	94.3	1.0	1.1	-0.7	-0.1
9三ア	適切な語句を選択する(えりを正して話を聞く)				1(1) イ(4)	○			67.4	76.9	0.9	0.7	-9.5	0.2
9三イ	適切な語句を選択する(よい結果を早く出したときは、急がず回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)				1(1) イ(4)	○			51.5	61.4	1.0	0.7	-9.9	0.3
9三ウ	適切な語句を選択する(先生もこの書店をよくご利用になるのですわ)				2(1) イ(7)	○			86.2	85.7	0.7	0.7	0.5	0.0
9三エ	適切な語句を選択する(私は映画が大好きです。ただし、映画なら何でも見るわけではありません)				1(1) イ(2)	○			95.1	95.5	0.6	0.6	-0.4	0.0
9三オ	適切な語句を選択する(チームの勝利を確信する)				2(1) イ(4)	○			94.0	94.2	0.7	0.6	-0.2	0.1
9四	言い直した意図として適切なものを選択する				2(1) イ(2)	○			91.3	91.6	0.8	0.7	-0.3	0.1
9五	話合いの記録として適切な言葉を考える				1(1) イ(4)		○		33.5	35.8	16.1	13.1	-2.3	3.0
9六1	格言と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する				1(2) イ	○			41.8	49.6	1.3	1.0	-7.8	0.3
9六2	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する				1(2) イ	○			58.8	63.7	1.5	1.1	-4.9	0.4
9七1	「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す「あやしろ」				2(1) ア(4)		○		76.3	77.2	4.4	3.9	-0.9	0.5
9七2	「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する				1(1) ア(4)	○			67.7	78.5	1.6	1.3	-10.8	0.3

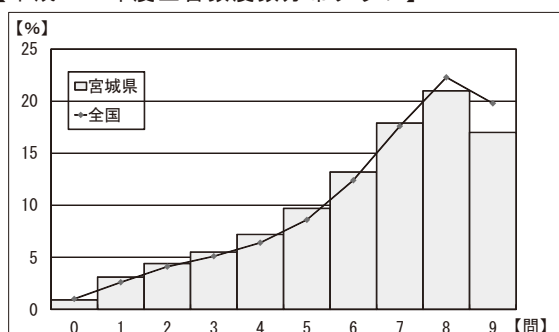
6 中学校国語B問題（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

（１）結果の概要

- 県平均正答率は70％である。
- 県平均正答率が全国平均正答率を上回った問題はなかった。

（２）正答数分布状況

【平成29年度正答数度数分布グラフ】



- 全国と比較して、正答数が8問～9問（89％以上）の生徒も割合が低く、正答数が4問～7問（44％程度～78％）の生徒の割合が高くなっている。特に、9問（100％）正解した児童の割合は、全国とのかい離が大きくなっている。
- 最頻値は8問で、全国と同じである。
- 中央値は7問で、全国と同じである。

（３）領域別の平均正答率

- 全ての領域において、県平均正答率は、全国平均正答率を下回っている。
- 全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」だった。
- 全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは、「話すこと・聞くこと」領域だった。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合 計		
	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較
H29	70.5	72.4	-1.9	57.9	60.8	-2.9	70.0	72.1	-2.1	37.4	41.4	-4	70	72	-2

* 単位は％

（４）問題別調査結果

- 正答率のかい離が全国より大きい（±3ポイント以上）問題等
（◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス，[]内の記号は問題番号）

【話すこと・聞くこと】

- ◆ スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す [23]（【書くこと】と関連）

【書くこと】

- ◆ 比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く [13]
（【読むこと】と関連）
（【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】と関連）

- 無解答率のかい離が全国より大きい（3ポイント以上）問題等
・なし

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離 (①―②)	無解答率のかい離 (③―④)
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	①宮城県(公立)	②全国(公立)	③宮城県(公立)	④全国(公立)		
1一	本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する			2イ		○			83.9	84.1	0.1	0.1	-0.2	0.0
1二	地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す			1ウ			○		81.3	84.1	6.2	5.3	-2.8	0.9
1三	比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く		1ウ	1エ	1(1)イ(オ)			○	37.4	41.1	14.5	14.3	-4.0	0.2
2一	スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する	2ウ				○			84.3	85.4	0.2	0.2	-1.1	0.0
2二	聞き手が話し手に伝えようとしていることとして適切なものを選択する	2エ				○			73.5	74.2	0.2	0.3	-0.7	-0.1
2三	スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す	1イ	2ウ					○	53.7	57.6	5.7	5.8	-3.9	-0.1
3一	下書きについての説明として適切なものを選択する		1イ			○			73.4	75.3	0.4	0.3	-1.9	0.1
3二	太宰治と他の作家との関係を書き直したのとして適切なものを選択する			1カ		○			77.2	78.7	0.4	0.5	-1.5	-0.1
3三	アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容載せることで興味をもってもらえると考えた理由を書く		1ア					○	67.1	68.8	7.2	7.4	-1.7	-0.2

生徒質問紙

質 問 事 項		宮城県	全国	かい離
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	70.6	72.3	+1.7
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた	25.6	23.6	2.0
	3 書く問題は解答しなかった	3.0	3.3	-0.3
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語A)	1 時間が余った	52.9	64.5	-11.6
	2 ちょうどよかった	39.4	29.5	9.9
	3 やや足りなかった	6.2	4.4	1.8
	4 全く足りなかった	1.2	1.2	0.0
調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)	1 時間が余った	40.9	50.6	-9.7
	2 ちょうどよかった	41.5	35.7	5.8
	3 やや足りなかった	15.0	11.2	3.8
	4 全く足りなかった	2.4	2.1	0.3

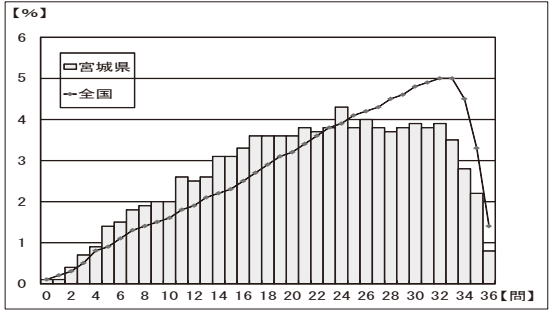
7 中学校数学A問題（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

（1）結果の概要

- 県平均正答率は59%である。
- 県平均正答率が全国平均正答率を上回った問題はなかった。

（2）正答数分布状況

【平成29年度正答数度数分布グラフ】



- 全国と比較して、正答数が25問（70%程度）以上の生徒の割合が低く、5問～21問（14%～58%程度）の生徒の割合が高くなっている。上位層、下位層ともに全国とのかい離が大きくなっている。
- 最頻値は24問であり、全国と比較すると8問下回っている。
- 中央値は22問であり、全国と比較すると3問下回っている。

（3）領域別の平均正答率

- 全ての領域において、県平均正答率は、全国平均正答率を下回っている。
- 全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは、「数と式」領域だった。
- 全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは、「資料の活用」領域だった。

年度	数と式			図形			関数			資料の活用			合計		
	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較
H29	62.9	70.4	-7.5	62.3	66.0	-3.7	51.6	57.4	-5.8	54.5	57.6	-3.1	59	65	-6

* 単位は %

（4）問題別の調査結果

- 正答率のかい離が全国より大きい(±3ポイント以上)問題等
(◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は問題番号)

【数と式】
◆ 分数の乗法の計算 [1 (1)]
◆ aとbが負の数のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ [1 (2)]
◆ 加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算する [1 (3)]
◆ 5mの重さがa gの針金の1mの重さを、aを用いた式で表す [2 (1)]
◆ $100-20a=b$ の式が表される場面を選ぶ [2 (2)]
◆ 整式の加法と減法の計算 [2 (3)]
◆ 等式 $x+4y=1$ をyについて解く [2 (4)]
◆ 一元一次方程式 $4x=7x+15$ を解く [3 (1)]
◆ 具体的な数量の関係を一元一次方程式で表す [3 (2)]
◆ $x+y=2$ の解の意味について選ぶ [3 (3)]
◆ 簡単な連立二元一次方程式を解く [3 (4)]
【図形】
◆ 角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ [4 (1)]
◆ 半径が5 cm, 中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める [4 (3)]
◆ 直方体において、与えられた辺に平行な面を書く [5 (1)]
◆ 円柱の体積を求める [5 (4)]
◆ 錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ [6 (1)]
◆ 証明で用いられている三角形の合同条件を書く [7 (1)]
◆ 与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ [7 (2)]
【関数】
◆ 長方形の縦の長さとの面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する [9]
◆ 比例 $y=4x$ について、xの値が3のときのyの値を求める [10 (1)]
◆ 与えられた比例のグラフから、xとyの関係を $y=ax$ の式で表す [10 (2)]
◆ 与えられた反比例の表から、比例定数を求める [10 (3)]
◆ 一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる [11 (1)]
◆ 与えられた一次関数の表から、変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ [11 (2)]
◆ 二元一次方程式を表すグラフを選ぶ [13]
【資料の活用】
◆ 赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める [15 (2)]

- 無解答率のかい離が全国より大きい(3ポイント以上)問題等
 - ・ 5mの重さがa gの針金の1mの重さを、aを用いた式で表す [2 (1)]
 - ・ 等式 $x+4y=1$ をyについて解く [2 (4)]
 - ・ 具体的な数量の関係を一元一次方程式で表す [3 (2)]
 - ・ 簡単な連立二元一次方程式を解く [3 (4)]
 - ・ 半径が5 cm, 中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める [4 (3)]
 - ・ 長方形の縦の長さとの面積の関係を、「…は…の関数である」という形で表現する [9]
 - ・ 与えられた比例のグラフから、xとyの関係を $y=ax$ の式で表す [10 (2)]
 - ・ 与えられた反比例の表から、比例定数を求める [10 (3)]
 - ・ 反復横とびの記録の範囲を求める [14 (1)]
 - ・ 6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める [14 (2)]
 - ・ 赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める [15 (2)]

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離 (①-②)	無解答率のかい離 (③-④)
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	①宮城県(公立)	②全国(公立)	③宮城県(公立)	④全国(公立)		
1 (1)	$\frac{5}{9} \times \frac{2}{3}$ を計算する	小B (1) イ					○		80.3	87.1	1.8	1.3	-6.8	0.5
1 (2)	a と b が負の数のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ	1 (1) イ				○			61.0	69.3	0.2	0.2	-8.3	0.0
1 (3)	$10 - 5 \div (-2)$ を計算する	1 (1) ウ				○			67.0	75.6	1.5	1.1	-8.6	0.4
1 (4)	3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す	1 (1) ア エ				○			86.7	89.4	4.0	2.8	-2.7	1.2
2 (1)	5mの重さが μ g の計金の1mの重さを、 μ を用いた式で表す	1 (2) エ				○			48.2	56.3	11.4	8.1	-8.1	3.3
2 (2)	$100 - 20a = b$ の式が表される場面を選ぶ	1 (2) エ				○			72.4	75.4	0.3	0.3	-3.0	0.0
2 (3)	$(2x + 5y) - (6x - 3y)$ を計算する	2 (1) ア				○			71.7	78.5	1.6	1.7	-6.8	-0.1
2 (4)	等式 $x + 4y = 1$ を y について解く	2 (1) ウ				○			47.0	56.1	12.9	8.8	-9.1	4.1
3 (1)	一元一次方程式 $4a = 7x + 15$ を解く	1 (3) ウ				○			77.4	82.7	9.1	6.4	-5.3	2.7
3 (2)	数量の関係を一元一次方程式で表す	1 (3) ウ				○			40.0	52.8	24.1	16.6	-12.8	7.5
3 (3)	$x + y = 2$ の解の意味について選ぶ	2 (2) ア				○			52.9	59.6	1.3	1.0	-6.7	0.3
3 (4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} x + y = 5 \\ \frac{x}{2} + \frac{y}{3} = 1 \end{cases}$ を解く	2 (2) ウ				○			50.4	62.2	22.4	14.9	-11.8	7.5
4 (1)	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	1 (1) ア				○			62.7	67.4	1.1	1.0	-4.7	0.1
4 (2)	$\triangle ABC$ を、点 A から点 P に移すように平行移動した図形をかく	1 (1) イ				○			89.6	90.6	2.4	2.5	-1.0	-0.1
4 (3)	半径が5cm、中心角が120°の扇形の弧の長さを求める	1 (2) ウ				○			23.6	30.7	24.5	19.7	-7.1	4.8
5 (1)	直方体において、与えられた辺に平行な面をかく	1 (2) ア				○			61.3	67.0	3.2	2.9	-5.7	0.3
5 (2)	1回転させると円盤ができる平面図形として正しいものを選ぶ	1 (2) イ				○			88.2	90.1	0.4	0.4	-1.9	0.0
5 (3)	立方体の見取り図を読み取り、2つの線分の長さの関係について、正しい記述を選ぶ	1 (2) イ				○			79.1	80.2	0.6	0.6	-1.1	0.0
5 (4)	円柱の体積を求める	1 (2) ウ				○			47.4	51.8	11.3	9.7	-4.4	1.6
6 (1)	鋭角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	2 (1) ア				○			39.5	43.1	0.6	0.6	-3.6	0.0
6 (2)	n 角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数を選ぶ	2 (1) イ				○			69.3	69.4	1.1	0.9	-0.1	0.2
7 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	2 (2) ア				○			74.5	78.6	5.6	4.9	-4.1	0.7
7 (2)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ	2 (2) ウ				○			41.0	49.1	1.0	0.9	-8.1	0.1
8	事柄「 $\angle ABD = \angle CBD$ 、 $\angle ADB = \angle CDB$ ならば、 $AB = CB$ である。」の仮定をすべて書く	2 (2) イ				○			71.6	74.3	11.9	10.1	-2.7	1.8
9	長方形の縦の長さ x と面積の関係を、「 $\cdots$ は $\cdots$ の関数である」という形で表現する	1 (1) ア				○			17.1	20.6	24.6	20.6	-3.5	4.0
10 (1)	比例 $y = 4x$ について、 x の値が3のときの y の値を求める	1 (1) エ				○			80.4	84.6	9.5	7.3	-4.2	2.2
10 (2)	比例のグラフから式を求める	1 (1) エ				○			48.0	57.1	13.0	9.6	-9.1	3.4
10 (3)	反比例の表から比例定数を求める	1 (1) イ				○			25.6	34.4	26.8	20.8	-8.8	6.0
11 (1)	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に、式で表すことができる	2 (1) イ				○			68.9	75.9	12.7	10.1	-7.0	2.6
11 (2)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	2 (1) イ				○			49.6	56.0	2.0	1.7	-6.4	0.3
12	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に、2cm燃えるときの時間を選ぶ	2 (1) ア				○			65.7	67.6	1.3	1.1	-1.9	0.2
13	二元一次方程式が表すグラフを選ぶ	2 (1) ウ				○			57.2	63.0	2.8	2.2	-5.8	0.6
14 (1)	反復標とびの記録の範囲を求める	1 (1) ア				○			25.9	28.6	12.9	9.6	-2.7	3.3
14 (2)	6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から、ある階級の相対度数を求める	1 (1) イ				○			43.4	45.5	18.1	15.0	-2.1	3.1
15 (1)	さいころを投げるときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ	2 (1) ア				○			76.8	78.0	2.5	1.8	-1.2	0.7
15 (2)	赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める	2 (1) ア				○			71.8	78.3	11.7	7.9	-6.5	3.8

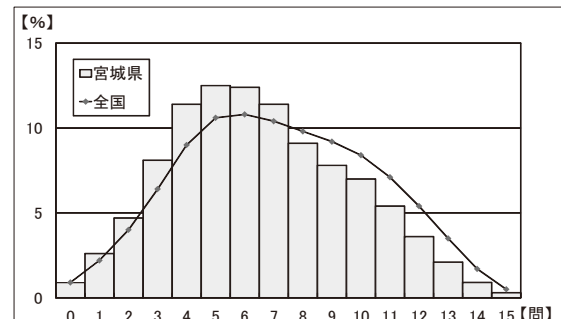
8 中学校数学B問題（県平均正答率は仙台市を除いた数値である）

(1) 結果の概要

- 県平均正答率は44％である。
- 県平均正答率が全国平均正答率を上回った問題はなかった。

(2) 正答数分布状況

【平成29年度正答数度数分布グラフ】



- 全国と比較して、正答率が8問（53％程度）以上の生徒の割合が低く、3問～7問（20％～47％程度）の生徒の割合が高くなっている。特に、4問～6問（27％～40％）正解した児童の割合は、全国とのかい離が大きくなっている。
- 最頻値は5問であり、全国と比較すると1問下回っている。
- 中央値は6問であり、全国と比較すると1問下回っている。

(3) 領域別の平均正答率

- 全ての領域において、県平均正答率は、全国平均正答率を下回っている。
- 全国平均正答率とのかい離が最も大きかったのは、「図形」領域だった。
- 全国平均正答率とのかい離が最も小さかったのは、「関数」領域だった。

年 度	数 と 式			図 形			関 数			資 料 の 活 用			合 計		
	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較	県平均正答率	全国平均正答率	全国との比較
H29	42.2	46.3	-4.1	42.1	47.1	-5.0	47.3	50.8	-3.5	45.2	49.1	-3.9	44	48	-4

* 単位は％

(4) 設問別調査結果

- 正答率のかい離が全国より大きい(±3ポイント以上)問題等
(◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス，[]内の記号は問題番号)

【数と式】

- ◆ 六角形を n 個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローを n を用いた式で表す [2 (2)]
- ◆ 六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する [2 (3)]

【図形】

- ◆ 隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚をある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ [1 (1)]
- ◆ 与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ [1 (3)]
- ◆ 2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する [4 (1)]
- ◆ $\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20° のとき、 $\angle BEA$ の大きさを求める [4 (2)]

【関数】

- ◆ 与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する [3 (2)]
- ◆ 与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求める [3 (3)]

【資料の活用】

- ◆ 全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ [5 (2)]
- ◆ 「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する [5 (3)]

- 無解答率のかい離が全国より大きい(3ポイント以上)問題等
 - ・六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する [2 (3)]
 - ・与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する [3 (2)]
 - ・与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求める [3 (3)]
 - ・ $\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20° のとき、 $\angle BEA$ の大きさを求める [4 (2)]
 - ・「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する [5 (3)]

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離 (①-②)	無解答率のかい離 (③-④)
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	①宮城県(公立)	②全国(公立)	③宮城県(公立)	④全国(公立)		
1 (1)	隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚をある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ		1 (1) イ			○			63.1	67.5	0.1	0.2	-4.4	-0.1
1 (2)	四角形A B C Dの模様が1回の回転移動によって四角形G B E Fの模様になるとき、どのような回転移動になるかを説明する		1 (1) イ					○	12.3	14.0	20.1	17.7	-1.7	2.4
1 (3)	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ		1 (1) イ			○			49.7	52.8	0.3	0.3	-3.1	0.0
2 (1)	六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める	1 (2) ア					○		78.6	80.4	1.3	1.3	-1.8	0.0
2 (2)	六角形をn個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えられているストローをnを用いた式で表す	1 (2) ア					○		37.7	44.1	10.1	8.3	-6.4	1.8
2 (3)	六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する	1 (2) ア						○	10.4	14.5	27.1	23.4	-4.1	3.7
3 (1)	与えられた表やグラフから、5月31日から4日経過したときに貯水量が2820万 m^3 であったことを表す点を求める		1 (1) ウ			○			90.7	90.8	3.8	3.5	-0.1	0.3
3 (2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する		2 (1) イ、エ					○	14.1	18.4	37.9	33.4	-4.3	4.5
3 (3)	与えられた式から、aの変域に対応するbの変域を求める		2 (1) イ				○		37.1	43.2	22.0	17.5	-6.1	4.5
4 (1)	2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する		2 (2) イ、ウ					○	35.8	44.1	22.5	20.3	-8.3	2.2
4 (2)	$\angle B A D$ と $\angle C B E$ が 20° のとき、 $\angle B E A$ の大きさを求める		2 (1) ア				○		50.2	60.0	15.4	10.9	-9.8	4.5
4 (3)	点Dと点EをBD=CEの関係を保持したまま動かしたとき、 $\angle B F D$ の大きさについて、正しい記述を選ぶ		2 (1) ア 2 (2) ウ			○			41.7	44.5	0.9	0.9	-2.8	0.0
5 (1)	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める			1 (1) ア			○		77.9	79.3	7.2	5.9	-1.4	1.3
5 (2)	全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ			1 (1) ア、イ		○			45.7	50.3	0.8	0.8	-4.6	0.0
5 (3)	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する			1 (1) イ			○		11.9	17.6	36.3	31.2	-5.7	5.1

問題別集計結果

質問事項	宮城県	全国	かい離
今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか			
1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	51.1	55.4	-4.3
2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた	42.6	37.9	4.7
3 書く問題は全く解答しなかった	5.0	5.3	-0.3
調査問題の解答時間は十分でしたか (数学A)			
1 時間が余った	45.6	58.8	-13.2
2 ちょうどよかった	38.6	30.7	7.9
3 やや足りなかった	12.9	8.1	4.8
4 全く足りなかった	2.6	1.9	0.7
調査問題の解答時間は十分でしたか (数学B)			
1 時間が余った	36.1	44.9	-8.8
2 ちょうどよかった	33.8	31.8	2.0
3 やや足りなかった	23.7	18.2	5.5
4 全く足りなかった	6.1	4.7	1.4

Ⅲ 類似問題の経年比較（H26小とH29中の類似問題の比較）

（１）中学校国語

A 3ニ ・書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直すことができるかどうかをみる。

平成26年度小学校調査では、「情景描写の効果を捉えること」（正答率は54.7％）に課題が見られた。これを踏まえて出題された「書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す」問題では、平均正答率が85.9％であった。平成26年度には、－4ポイントあった全国平均正答率とのかい離が、今年度は＋1.6ポイントであり、改善が見られる結果となった。

H 2 6 小 国 A 3	4 良太の行動 3 良太の周りの風景 2 良太の心の中の声 1 良太の顔の表情 3 次は、南田さんが想像したことをもとにして書いている「物語の一部」です。南田さんは、橋本さんから助言をもらっています。あとの「二人の会話の様子」の中に入る内容として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。 【物語の一部】 良太は、小学三年生の男の子。春休みに、大きな町から引っ越してきました。四月、引っ越した先の学校に通い始めましたが、はずかしがり屋の良太は同じ学級の人に声をかけることができませんでした。 おだやかな風がふく、ある日のことです。学校から家に帰った良太は、近くの公園に出かけました。その公園は、学級のみんながよく遊んでいる場所です。学級のだれかと会って話をしたくて、そこでじっと待つことにしました。しかし、公園にはだれも来ません。 良太は、「さびしい気持ちでいっぱいになりました。」 「こんなところなんてきらいだ。友達なんていないじゃない。」 と、小さな声でつぶやきました。 （物語が続く） 【二人の会話の様子】 南田 ー 師では、良太の気持ちを「さびしい」と表現したけど、「さびしい」という言葉を使わずに、うまく表現できないかな。 橋本 それならば、その気持ちを で表したらどうだろう。 南田 それはいいね。（しばらく考える） では、「いつの間にか灰色の雲が広がり、公園はだんだんと暗くなってきました。」としたらどうかな。 橋本 そうだね。そのように書きかえたら、「さびしい」という言葉を使わなくて、読み手に良太の気持ちや様子を想像させることができると思うよ。 （会話が続く）
（全国） 58.7％ （ 県 ） 54.7％	

③ 次は、高島さんが自分の体験を題材として書いた「物語の下書き」と、それを讀んだ友達からの「助言」です。これらを讀んで、あとの問いに答えなさい。

【物語の下書き】

明日に迫った合唱コンクールに向けて、健一たちは練習をがんばってきた。

そしていよいよ本番に向けて最後の練習。張りつめた空気の中、指揮者の動きとともに歌声とピアノの音が静かに止まる。

一瞬の静寂のあと、指揮者していた音楽生が一面の喜ぶで言った。

「今までで一番よかーだよ。」

皆の顔にも笑みが溢がんだ。

「この調子なら明日もよい歌が歌えそうだ。」

健一は思わずつぶやいた。

【助言】

① 皆ががんばって練習している様子が伝わるように、会話を増やすとよい。

② この出来事が学校のどこで起きているのかが分かるように、場所を示すとよい。

③ 緊張した雰囲気が伝わってきたことが分かるように、情景の描写を加えるとよい。

④ 練習の大変さが伝わるように、過去の練習の場面を入れるとよい。

二 高島さんは、【助言】を参考にして、【物語の下書き】の〈 〉のところに次の一文を書き加えることにしました。高島さんが参考にした【助言】はどれですか。【助言】の①から④までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

窓から吹き込んでくるさわやかな風が、「あと一日」と書いたカレンダーを揺らす。

(全国) 84.3%

(県) 85.9%, (除く) 83.6%

書いた文章を互いに読み合う際には、文章の構成や材料の活用の仕方など、観点を明確にして交流し、意見を述べたり助言をしたりすることが大切である。また、自分の書いた文章に対しての意見や助言によって気付かされたり、改めて認識したりしたことを明確にし、自分の表現に役立てようとすることも重要である。例えば、文章の構成や材料の活用の仕方などについて、読み手に与える効果を考えながら交流する活動が考えられる。その際、伝えたい事実や事柄、意見や心情が相手に伝わるような表現になっているか、読み手としてはどのように受け止めることができるかなど、書き手と読み手の両方の立場から検討することが効果的である。

A 6 一 ・ 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解しているかどうかをみる。

平成26年度小学校調査では、「物語の登場人物の相互関係をとらえること」（正答率63.9％）に課題が見られた。これを踏まえて出題された「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」問題では、平均正答率は74.5％であった。平成26年度には、－1.4ポイントあった全国平均正答率とのかい離が、今年度は－0.3ポイントとなり、改善が見られる結果となった。

H 2 6 小 国 A 5

5

次は、「かくれんぼう」という題名の物語の一部です。
 の中には、「よし子」「ジョール」「オデット」という人物の名前が入ります。それ五れに
 当てはまる名前を書きましよう。ただし、同じ名前は一回しか入りません。

ア

イ

ウ

■物語のこれまでのあらすじ

登場人物は、よし子、フランス人のジョールとその妹のオデットです。三人は、
 かくれんぼうを遊んでいます。おぼろのジョールは、よし子とオデットを同時に
 見つけました。そこで、二人はジョールを先に見つけたのがたずねています。

（志賀重昂「かくれんぼう」による。）

（志賀重昂「かくれんぼう」による。）

（志賀重昂「かくれんぼう」による。）

※1 「よし子」を「よし」に読みかえよう。

※2 「よし子」を「よし」に読みかえよう。

※3 「よし子」を「よし」に読みかえよう。

（全国） 6 5 . 3 %

（ 県 ） 6 3 . 9 %

6

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここまであらずし」 「自分」は、眠って夢を見ていゝ夢の中にゐる。自分一は、運慶の評判を聞き、運慶の仕事ぶりを見に行く。

運慶は見物人の評判には委細顧着なく、鑿と鑿を動かしている。いつ、こう振り向きもしない。涼い所に坐つて、仁王の顔の邊をしっかりと彫り抜いて行く。

運慶は頭に小さい烏帽子のようなものを着せて、素袍だか何だか別な大きな袖を背中で括つてゐる。その様子がいかにも古くさい。わいわい言つてゐる見物人とはまるで釣り合ひがとれないやうである。自分ははうして今時分まで運慶が生きているのかと思つた。どうも不思議なことがあるものだと思ふながら、やはり立つて見ていた。

しかし運慶のほうでは不思議とも奇作ともいふ感じ得ない様子で一生懸命に彫つてゐる。仰向いてこの態度を眺めていた一人の若い男が、自分のほうを振り向いて、

「さすがは運慶だな。眼中に殺々なしだ。天下の英雄はたゞしと我とあるのみという態度だ。あつぱれだ」と言つて首めだした。自分はこの言葉を面白く思つた。それでちよつと若い男のほうを見ると、若い男は、すかさず、

「あの鑿と鑿の使い方を見たまへ。大自在の妙境に達している」と言つた。

運慶は今太い鑿を一寸の高さに横へ彫り抜いて、鑿の面を勢に返すや否や斜に、上から鑿を打ち下ろした。堅い木を一刻みに削つて、厚い木層が鑿の底に應じて飛んだと思つたら、小界のおつ開いた怒り界の情面がなまむ浮き上がつてきた。その力の入れ方がいかにも無遠慮であつた。もうして少しも鑿金を挟んでおらんやうに見えた。

「よくああ無遠慮に鑿を使つて、思うやうな彫りや彫りが出来るものだな」と自分はあんまり感心したから独り言のやうに言つた。するとさつきの若い男が、

「なに、あれは削や鑿を絶で作るんじやない。あの削や鑿が本の中に埋まつてゐるのを、鑿と鑿の力で掘り出すまでだ。まるで上の中から石を掘り出すやうなものだから決して間違はずはない」と言つた。

自分はこの時始めて彫刻とはそんなものかと思ひだした。はたしてさうなら誰にでも出来ることだと思ひだした。それで急に自分も仁王が彫つてみたくなつたから見物をやめてさうさ家へ帰つた。

道具箱から鑿と金剛を持ち出して、奥へ出てみると、ぜんたつての暴風で倒れた鑿を、薪にするつもりで、木挽に挽がせた手頃なやつが、たくさん積んであつた。

自分は一番大きいのを選んで、勢いよく彫りはじめてみたが、不幸にして、仁王は見当らなかつた。その次のにも運悪く掘り当ることが出来なかつた。三番目のにも仁王はいなかつた。自分は積んである薪を片づき彫つてみたが、どれもこれも仁王を掘り出しているのはなかつた。



参考

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|-----|---|-----|
| 1 | ア | 運慶 | イ | 若い男 | ウ | 自分 |
| 2 | ア | 自分 | イ | 運慶 | ウ | 若い男 |
| 3 | ア | 運慶 | イ | 自分 | ウ | 若い男 |
| 4 | ア | 自分 | イ | 若い男 | ウ | 運慶 |

一 次は、この文章にの場する人物について整理したものです。アからウに当てはまる人物の組み合わせを正しく選ぶものを、あとの1から4までの中から一つ選びなさい。

- | | | | |
|---|--------|---|---------------------|
| ア | 見物している | イ | から「天下の英雄」となつた男だといふ |
| イ | 見物しながら | ア | の技術はめたてである |
| ウ | 見物しながら | イ | の話を聞き、驚いて、木を叩き回してゐる |

(全国) 74.8%

(県) 74.5%, (除く) 72.4%

文学的な文章を読む際には、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、視点を定めて読むことが必要であり、そのことによって深い理解や感動が得られる。その際、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読み進めることが大切である。例えば、登場人物の言動を表す描写に着目し、他の叙述や場面の展開を根拠としながら、言動の意味について検討する学習活動が考えられる。

A 8 二 ・ 文章に表れているものの見方や考え方について，交流を通して自分の考えを広くすることができるかどうかをみる。

平成26年度小学校調査では、「詩の解釈における着眼点の違いを捉えること」（正答率47.6％）に課題が見られた。これを踏まえて出題された「文章に表れているものの見方や考え方について、交流を通して自分の考えを広くする」問題では平均正答率は73.2％であった。平成26年度には、－0.9ポイントあった全国平均正答率とのかい離が、今年度は+0.9ポイントとなり、改善が見られる結果となった。

H 2 6 小 国 B 3 二



【グループでの交流の様子】

北川 まど・みちおさんの二つの詩を読んで「考えたことをみんなて交流しよう」
ます。【詩1】について話し合おう。

竹肉 この詩は、二つの違があつて、第二連にはいるるな動物が出てくるわけ
 中画 そうね、「タンホボ」のことを、イヌは「ワンフオフォ」、ウシは「デー

「ダンボ」という言葉のひびきに重ねてくるようだね。

「あうよね、体のどくちようや動きを差しているのかな。そのかゝらで、へびは「タン」のこゝろで、」

なつたら、「タンニヨロ」と呼ぶかもしれないわ、
（中略）

山田 次は、「話2」について考えてみよう。この詩は、三つの連があって、より近し使われている言葉があるね。

竹内　そつね「あーの　ひょーの　ほーの　しょー」
という言葉は、第一連では「ウ」呼んでいるね。第二連では「エ」呼びかけて

それにしても、この言葉はだれの声なのかしら。
題名にもあるように、ぼくは「たんぼさん」が呼んでいるのだと思ふ。

中国 物は「たんぼぼさん」の呼びかけに対する「みんな」の返事。置かれた

山田 そうかな。ほくは、「たんぼぼさん」と「みんな」が会話をしている声だ

會に注目して音読すると、「たんほほさん」が「あーら ひょーら ふ
乗って呼びかけている感じがするんだ。それに対して、「みんな」が声を

と通達をしているのではないかな

北川 それでは、二つの詩を比べることにしよう。どちらの詩も、たんぽぽと仲のよい様子が感じられるね。【詩1】は、『ポンポポ』のことが好きだね。

持ちが伝わってくるね。

山田【詩2】は、「すば かけていきましよう」という言葉から、同じよう

分かるね。
（中略）

「二つの世界にも一人は」を題材にした話はあつた

金（連）：許の中で、君を堂々と好むのいるまゝまゝりぬて

「グループでの交流の様子」の

を述べていますか。その内容として最もふさわしいものを、1から4までのなか
番号を書きましよう。

1 題名に使われている言葉

- 2 声に出したときの言葉の調子やひびき
- 3 それぞれの連での間いかけの表現

4 「みんな」が走っているときの様子

(全国) 48.5%

(県) 47.6%

8

次は、【詩】とその詩についての【感想の交流の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【詩】

祖母

三好達市

祖母は蛍をかきあつめて

桃の实のように合せた掌の中から

沢山な蛍をくれるのだ

祖母は月光をかきあつめて

桃の实のように合せた掌の中から

沢山な月光をくれるのだ

【感想の交流の一部】

木村

この詩に出てくる祖母は、優しい感じがするね。

石川

そうだね。「沢山な」「くれるのだ」という表現から、孫を思う優しさが伝わってくるね。木村さんは、どの表現から優しいと感じたのかな。

木村

「桃の实のように合せた掌」という比喻を用いた表現から、大事に包み込むようにしてそつと孫に渡す様子が伝わってきて、優しいと感じたよ。

二 木村さんと石川さんの交流の様子について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 二人は同じ表現に着目し、祖母の人物像についても同じ見方をしている。
- 2 二人は異なる表現に着目し、祖母の人物像についても異なる見方をしている。
- 3 二人は同じ表現に着目しているが、祖母の人物像については異なる見方をしている。
- 4 二人は異なる表現に着目しているが、祖母の人物像については同じ見方をしている。

(全国) 72.3%

(県) 73.2%, (除く) 70.5%

文学的な文章を読む際には、書き手のものの見方や考え方に共感したり、疑問をもったりすることなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになったりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を更に広げていくことが大切である。例えば、詩歌などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流する学習活動が考えられる。その際、同じ表現に着目しているが、その捉え方が異なる場合や、同じような感想をもっているが、その根拠として取り上げている表現が異なる場合があることを指導するなど、自分の考えを広げたり深めたりしていくための交流の視点を示すことが重要である。

(2) 中学校数学

A2 (2) 与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読み取ることができるかどうかをみる。

H26 小学校 算数A 8

答えが $100 - 20 \times 4$ の式で求められる問題を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 1個100円のガムを1個と、1個20円のあめを4個買いました。代金はいくらですか。
- 2 100円玉を1枚持って買い物に行きました。1個20円のあめを4個買いました。おつりはいくらですか。
- 3 1本100円のペンと1本20円のえんぴつを、4本ずつ買いました。代金はいくらですか。
- 4 1本100円のペンが20円引きで売られています。そのペンを4本買いました。代金はいくらですか。

(全国) 81.0%

(県) 79.7%

平成26年度の小学校調査では、「四則の混合した式の意味について理解しているかどうか」をみる問題の正答率は79.7%であり、相当数の児童ができていることが確認された。

これに関連し、平成29年度の中学校調査では、数量の関係が文字式で表された場合でも式の意味を読み取ることができるかどうか、3年間の学習の状況を把握するために「 $100 - 20a = b$ の式が表される場面を選ぶ」問題が出題され、正答率は75.7%であった。

誤答については、「イ 1個100円のガムを20円引きで a 個買ったときの代金は b 円」を選択した生徒が多く、15.1% (全国15.4%) の反応率であった。平成26年度の小学校調査においても、「4」を選択した割合が10.2% (全国9.5%) と高く、今回の調査と同様に、減法が用いられる場面であることは理解できているものの、計算のきまりを意識せずに、示された式と文章に出現する数値を対応させて判断したものと考えられる。

平成26年度の小学校調査では、正答率、誤答の反応率ともに、全国平均よりも下回る結果であったが、今回はいずれも全国平均より上回る結果が得られた。3年間の学習を通して、式の意味についての理解が深まっていると考えられる。

さらに中学校においては、本問題の左辺「 $100 - 20a$ 」の項を「100, $-20a$ 」と読み取ることができず、「 $(100 - 20)a$ 」と捉えている生徒がいることを念頭に置き、学習指導に当たっていく必要がある。

H29 中学校 数学A 2(2)

a と b の関係が $100 - 20a = b$ の式で表される場面を、下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

- ア 1個100円のガムを1個と、1個20円のあめを a 個買ったときの代金は b 円でした。
- イ 1個100円のガムを20円引きで a 個買ったときの代金は b 円でした。
- ウ 1個100円のガムと1個20円のあめを、それぞれ a 個ずつ買ったときの代金は b 円でした。
- エ 100円で1個20円のあめを a 個買ったときのおつりは b 円でした。
- オ 100円で1個20円のあめを1個と1個 a 円のガムを1個買ったときのおつりは b 円でした。

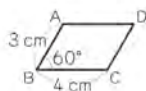
(全国) 75.4%

(県) 75.7%, (除く) 72.4%

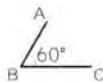
A7 (2) 作図の手順を読み、根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解しているかどうかをみる。

H26 小学校 算数A 6

下の平行四辺形ABCDをかきます。



まず、辺ABと辺BCをかきました。

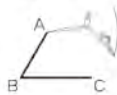


次に、下のかき方で平行四辺形をかきます。

コンパスを使ったかき方

① 点Aを中心として、

半径4 cm (辺BCの長さ) の
円の一部をかく。



② 点Cを中心として、

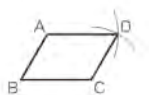
半径3 cm (辺ABの長さ) の
円の一部をかく。



③ 交わった点をDとする。



④ 点Aと点D、点Cと点Dを
直線で結ぶ。



左のコンパスを使ったかき方は、平行四辺形のどの特ちょうを使っていますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

平行四辺形は、

- 1 向かい合っている辺が平行である。
- 2 向かい合っている辺の長さが等しい。
- 3 向かい合っている角の大きさが等しい。
- 4 2本の対角線がそれぞれの真ん中の点で交わる。

(全国) 52.0%

(県) 47.0%

H29 中学校 数学A 7(2)

2) 次の図のように、点A、B、Cがあり、点Aと点B、点Bと点C
結びます。



下の1、2、3の手順で点Dを作り、平行四辺形ABCDをかきます。

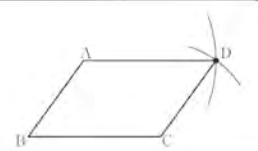
① 点Aを中心として、
BCを半径とする円を
かく。



② 点Cを中心として、
ABを半径とする円を
かく。



③ 交点をDとし、
点Aと点D、点Cと
点Dを結ぶ。



前ページの①、②、③の手順では、どのようなことがらを根拠にして平行四辺形ABCDをかいていますか。下のアからオまでの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ平行な四角形は、平行四辺形である。
- イ 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。
- ウ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。
- エ 1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しい四角形は、平行四辺形である。
- オ 対角線がそれぞれの真ん中で交わる四角形は、平行四辺形である。

(全国) 49.1%

(県) 45.7%, (除く) 41.0%

平成26年度の小学校調査では、「作図に用いられている図形の約束や性質を理解しているかどうか」をみる問題の正答率は47.0%であり課題が見られた。これに関連し、平成29年度の中学校調査では、その学習状況の変化を把握するために「与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ」問題が出題され、正答率は45.7%であった。

誤答については、「ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ平行な四角形は、平行四辺形である」を選択した生徒が最も多く、16.1% (全国15.7%) の反応率であった。平成26年度の小学校調査においても、「平行」という言葉のみを捉えて「1」を選択した割合が26.6% (全国24.2%) と高く、今年度調査と同様の結果であることから、コンパスは等しい長さを移すということや、平行四辺形になるための条件についての理解が十分ではないと考えられる。

指導に当たっては、作図された図形の性質や作図の根拠として用いられている条件について、作図の手順を振り返りながら話し合い、指摘し合うような活動を取り入れたりすることが大切である。

Ⅳ 過去の調査との同一問題の正答率の比較

- 今年度の調査では、過去の全国学力・学習状況調査との同一問題は6問出題されている。
- このうち、過去の正答率を上回った問題が1問で、残りの5問は下回った。
- ※ 今年度の正答率の結果は「仙台市を除く」もので、過去の調査における正答率データは「仙台市も含む」ものであり、単純に比較することはできないことに留意

【小学校国語】

なし

【小学校算数】

問題番号	問題の概要	今年度県正答率 (全国正答率)	過去の調査の問題番号と 県正答率 (全国正答率)
A ² (3)	「 $6 + 0.5 \times 2$ 」を計算する。	59.6% (66.6%)	平成19年度A ¹ (7) 64.1% (68.9%)

【中学校国語】

問題番号	問題の概要	今年度県正答率 (全国正答率)	過去の調査の問題番号と 県正答率 (全国正答率)
A ⁹ 三イ	適切な語句を選択する（よい結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ）	51.5% (61.4%)	平成26年度A ⁸ 三ア 58.8% (58.2%)

【中学校数学】

問題番号	問題の概要	今年度県正答率 (全国正答率)	過去の調査の問題番号と 県正答率 (全国正答率)
A ⁷ (2)	与えられた方法で作図された四角形がいつでも平行四辺形になることの根拠を選ぶ	41.0% (49.1%)	平成25年度A ⁷ (3) 41.7% (47.7%)
A ¹²	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表すグラフを基に、2cm燃えるときの時間を選ぶ	65.7% (67.6%)	平成20年度A ¹⁴ (1) 66.3% (63.2%)
A ¹⁵ (2)	赤玉3個、白玉2個の中から玉を1個取り出すとき、その玉が赤玉である確率を求める	71.8% (78.3%)	平成20年度A ¹⁵ (2) 72.8% (74.6%)

V 児童生徒質問紙調査結果の概要（抜粋）

1 基本的な生活習慣，家庭でのコミュニケーション等

※ 全国値と±3ポイント以上のかい離がみられる質問項目

（◇：肯定的な割合がプラス ◆：肯定的な割合がマイナス □：どちらとも言えない

[] 内：全国値とのかい離）

※表の見方について

朝食を毎日食べていますか	小1	95.2	-0.2
--------------	----	------	------

・小1：児童質問紙の質問番号1の質問

・95.2：「当てはまる」，「どちらかといえば，当てはまる」の割合の合計の割合（％）

・-0.2：県（仙台市を除く）の値と全国値のかい離

基本的な生活習慣に関する質問では，ほとんどの質問について小・中学校ともに全国値とほぼ同じである。しかし，テレビ等の視聴時間，携帯電話の使い方やテレビやゲームをする時間などの約束について，全国値を下回っている。

◇ 「毎日，同じくらいの時刻に寝ている」と回答した中学生の割合 [+3.9]

□ 「学校の部活動に参加している」と回答した中学生の割合 [+10.0]

□ 「普段，1日当たり1時間以上部活動をしている」と回答した中学生の割合 [+9.9]

◆ 「普段，1日当たり3時間以上，テレビやビデオ，DVDを見たり聞いたりしている」と回答した小学生の割合 [+4.5]

◆ 「携帯電話やスマートフォンの使い方について，家の人と約束したことを守っている」と回答した小学生の割合 [-5.4]

◆ 「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている」と回答した中学生の割合 [-4.5]

◆ 「家の人と将来のことについて話すことがある」と回答した小学生の割合 [-3.2]

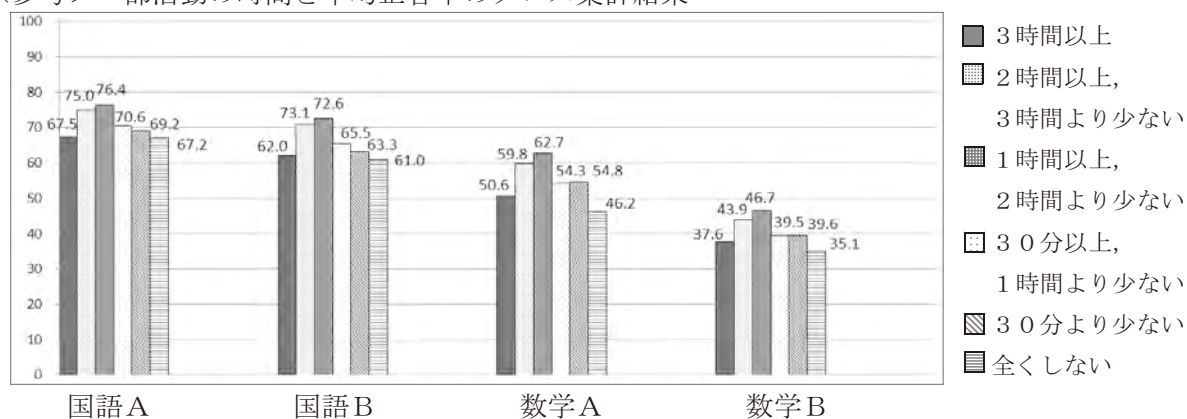
番号	質問事項		H29				H28		H27		H26		H25	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
1	朝食を毎日食べていますか	小1	95.2	-0.2	95.8	0.4	96.3	0.8	96.3	0.7	96.8	0.8	96.7	0.4
		中1	93.2	0.7	93.9	1.4	94.5	1.2	94.6	1.1	94.6	1.1	94.7	0.9
2	毎日，同じくらいの時刻に寝ていますか	小2	80.4	0.6	83.1	3.3	83.0	2.9	82.7	3.2	81.7	2.5	80.6	1.7
		中2	77.1	3.9	79.5	6.3	79.3	4.1	79.3	4.1	77.5	3.4	78.0	3.7
3	毎日，同じくらいの時刻に起きていますか	小3	90.5	-0.7	91.3	0.1	91.7	0.9	91.3	0.3	90.9	0.0	90.4	-0.5
		中3	92.3	0.6	93.0	1.3	92.8	0.5	92.7	0.6	92.9	0.8	92.6	0.3
4	普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビやビデオ・DVDを見たり，聞いたりしますか（勉強のための視聴，テレビゲームは除く）（3時間以上）	小12	37.2	4.5	34.3	1.6	34.3	1.5	35.6	-0.5	39.6	1.6	41.9	3.3
		中12	27.3	-1.7	23.6	-5.4	23.2	-0.9	27.0	-3.5	30.3	-1.2	29.7	0.0
5	普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，テレビゲーム（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム含む）をしますか（3時間以上）	小13	18.5	0.9	17.3	-0.3	15.1	-0.9	15.9	-1.1	17.4	0.4	16.1	1.2
		中13	22.3	-2.0	19.4	-4.9	17.2	-1.7	18.6	-1.9	19.8	-0.5	14.3	0.0
6	普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか（3時間以上）	小14	7.1	0.1	6.3	-0.7	5.0	-0.8	4.6	-1.1	4.8	-0.2		
		中14	18.5	-2.4	15.7	-5.2	14.1	-2.5	15.5	-2.7	18.8	-1.0		
7	家の人と学校での出来事について話をしていますか	小24	77.4	-0.7	79.1	1.0	80.5	1.3	80.0	0.5	81.5	1.1	77.8	1.3
		中25	75.3	2.8	77.1	4.6	75.9	1.8	76.3	2.6	74.2	1.6	67.6	1.0
8	携帯電話やスマートフォンの使い方について，家の人と約束したことを守っていますか	小25	43.3	-5.4	44.8	-3.9								
		中27	47.6	-0.3	50.3	2.4								
9	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか	小26	56.2	-2.1	61.2	2.9								
		中28	29.5	-4.5	35.4	1.4								

10	家の人(兄弟姉妹は含まない)と将来のことについて話すことがありますか	小27	47.2	-3.2	51.5	1.1								
		中29	58.2	-2.5	60.7	0.0								
11	学校の部活動に参加していますか。(参加している)	中20	97.6	10.0	95.4	7.8								
12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしめますか(1時間以上)	中21	93.9	9.9	90.9	6.9								

《改善へのヒント》

- テレビやビデオ等の視聴時間、テレビゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンの使用時間について、小学生の増加傾向が見られる。また、携帯電話やスマートフォンの使い方の約束を守ること、テレビの視聴時間やゲームをする時間のルールの決めることについて課題が見られる。調査の結果を家庭にも知らせ、課題を共有しながら、家庭とともに改善を図ることが望まれる。
- 部活動の参加については、宮城県では部活動への入部や活動の仕方について、以前と大きく変わっていないことから、全国値を大きく上回っているものと思われる。部活動の活動日数や1日の活動時間を適切に設定し、生徒の部活動とそれ以外の生活の両方を充実させることが望まれる。

〈参考〉 部活動の時間と平均正答率のクロス集計結果



2 家庭での学習状況等

家庭での学習状況等に関する質問では、予習、復習をしている割合は、小・中学生とも全国値と比較して大きく上回っているが、家庭学習の時間については、長時間になるほど全国値を下回る傾向が見られる。

◇「家で、学校の授業の予習をしている」と回答した小・中学生の割合 小 [+4.3] 中 [+11.7]

◇「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した小・中学生の割合 小 [+12.8] 中 [+12.7]

◆「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり2時間以上勉強をしている」と回答した小・中学生の割合 小 [-7.4] 中 [-3.2]

◆「学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強をしている」と回答した小・中学生の割合 小 [-4.4] 中 [-3.2]

番号	質問事項		H 2 9				H 2 8		H 2 7		H 2 6		H 2 5		
			仙台市を 除く	県-全	仙台市を 含む	宮-全	仙台市を 含む	宮-全	仙台市を 含む	宮-全	仙台市を 含む	宮-全	仙台市を 含む	宮-全	
13	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）	小15	30分以上	91.6	2.9	90.6	1.9	90.7	2.8	91.1	3.3	90.6	3.4	90.1	2.4
			1時間以上	66.2	1.8	65.4	1.0	64.4	1.9	64.8	2.1	64.1	2.1	64.8	1.6
			2時間以上	19.7	-7.4	21.8	-5.3	20.5	-5.0	20.1	-5.6	21.4	-4.4	22.0	-5.1
			3時間以上	5.8	-6.1	7.1	-4.8	6.1	-4.7	6.1	-5.0	6.8	-4.4	7.0	-4.5
		中15	30分以上	87.0	0.2	86.9	0.1	85.9	0.3	86.0	0.0	85.6	-0.4	85.4	0.2
			1時間以上	66.4	-3.2	67.9	-1.7	66.2	-1.7	67.0	-2.0	66.1	-1.8	66.4	-2.2
			2時間以上	27.8	-7.6	31.0	-4.4	28.9	-5.3	29.7	-6.0	29.6	-5.5	30.7	-5.3
			3時間以上	5.8	-4.3	7.2	-2.9	6.4	-3.0	6.8	-3.6	6.9	-3.5	7.1	-3.4

14	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む、小2時間以上、中3時間以上）	小16	20.2	-4.4	21.4	-3.2	21.1	-3.1	21.2	-3.3	22.0	-2.0	20.9	-4.3
		中16	14.6	-3.2	17.0	-0.8	15.4	-1.2	16.6	-1.1	15.6	-1.3	15.5	-1.7
15	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	小29	67.0	2.5	68.8	4.3	67.3	5.1	68.1	5.3	65.7	4.7	61.3	2.4
		中31	53.7	-0.8	56.3	1.8	52.2	3.8	53.7	4.9	50.4	3.8	48.5	4.0
16	家で、学校の授業の予習をしていますか	小31	45.3	4.3	47.9	6.9	50.3	7.0	50.5	7.1	50.2	7.0	47.6	6.3
		中33	43.4	11.7	44.6	12.9	44.7	10.5	50.0	14.7	46.7	12.5	48.3	14.8
17	家で、学校の授業の復習をしていますか	小32	65.8	12.0	66.1	12.3	68.0	12.8	67.0	12.5	66.1	12.1	61.9	10.5
		中34	63.2	12.7	63.7	13.2	63.4	12.4	65.4	13.4	63.0	12.6	60.8	12.2

《改善へのヒント》

- 学校の授業の予習、復習をしている割合が全国値を大きく上回っている高いことから、予習、復習をする習慣は全国と比較して、身に付いていると思われる。しかし、勉強時間は全国値と比べかなり少ないことから、予習、復習の方法を指導したり、家庭学習の課題の在り方について検討したりするなど、質の向上と十分な学習時間の確保が望まれる。

3 学習に対する関心・意欲・態度、主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の取組

（１）学習に対する関心・意欲・態度

学習に対する関心・意欲・態度に関する質問では、ほとんどの質問について、小・中学生ともに全国値とほぼ同じである。

- ◇ 「読書は好きだ」と回答した中学生の割合 [+3.2]
- ◇ 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した中学生の割合 [+3.7]
- ◇ 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」と回答した中学生の割合 [+5.2]

番号	質問事項		H 2 9				H 2 8		H 2 7		H 2 6		H 2 5	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
18	国語の勉強は好きですか	小69	61.3	0.8	59.8	-0.7	58.1	-0.2	60.9	-0.2	59.2	0.0	57.3	-0.6
		中71	62.2	1.7	61.6	1.1	61.0	1.2	63.2	2.7	60.9	2.7	60.6	2.9
19	国語の勉強は大切だと思いますか	小70	91.0	-0.2	91.2	0.0	91.5	0.2	91.6	-0.4	91.3	-0.5	90.1	-0.9
		中72	88.6	-0.2	88.6	-0.2	89.4	0.3	89.9	0.0	89.1	0.1	89.2	0.8
20	国語の授業の内容はよく分かりますか	小71	82.4	0.2	82.0	-0.2	80.3	-0.4	80.9	-1.1	78.8	-1.3	78.4	-1.5
		中73	75.0	0.1	75.2	0.3	75.4	1.3	75.8	1.5	74.5	2.5	74.3	2.4
21	読書は好きですか	小72	71.6	-2.7	73.2	-1.1	74.7	0.1	72.4	-0.4	72.8	-0.2	72.1	0.0
		中74	73.1	3.2	72.1	2.2	72.1	2.2	70.6	2.7	73.6	4.2	74.3	4.2
22	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小73	87.4	-0.5	87.8	-0.1	88.7	-0.5	87.7	-0.9	86.1	-1.3	85.8	-1.4
		中75	83.8	0.5	83.6	0.3	85.2	0.6	84.8	0.6	83.1	0.6	82.7	1.3
23	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	小74	68.4	0.4	69.2	1.2	68.6	1.6	66.0	0.8	60.8	-0.6	58.3	-1.1
		中76	66.4	3.7	67.9	5.2	67.4	5.2	65.2	6.0	61.6	5.5	59.0	6.8
24	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	小75	64.3	0.9	66.1	2.7	64.6	2.3	63.4	2.2	60.7	2.2	57.4	0.1
		中77	60.8	5.2	62.0	6.4	62.7	6.0	61.3	7.3	56.1	7.0	55.3	8.2
25	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	小76	74.2	-0.6	76.0	1.2	75.3	1.3	73.9	1.2	71.6	0.9	68.9	0.0
		中78	68.5	2.6	70.9	5.0	71.7	5.0	71.6	5.9	65.2	4.9	66.5	6.1
26	算数（数学）の勉強は好きですか	小78	66.6	0.7	65.6	-0.3	66.3	0.3	68.2	1.6	66.3	0.2	66.6	0.4
		中80	54.4	-1.0	55.0	-0.4	55.3	-0.7	57.1	1.1	57.9	1.3	55.8	0.3
27	算数（数学）の勉強は大切だと思いますか	小79	91.9	-0.1	91.9	-0.1	91.8	-0.1	92.5	-0.6	91.8	-0.5	91.3	-0.8
		中81	81.1	0.0	80.9	-0.2	79.7	-0.8	82.7	0.1	81.8	-0.3	80.4	-0.1

28	数学ができるようになりたいと思いますか	(小)					75.6	-0.2	77.6	0.1	76.6	-0.7	76.0	-1.2
		中83	91.3	0.1	91.2	0.0	90.8	-0.5	90.9	-0.6	91.2	-0.1	90.9	0.1
29	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	小81	74.7	-1.0	75.4	-0.3								
30	算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか	小80	81.1	0.5	80.1	-0.5	79.6	-0.6	80.9	-0.1	78.2	-1.4	78.6	-1.6
		中82	68.2	-1.2	67.8	-1.6	67.7	-1.7	71.2	-0.4	71.4	-0.1	70.5	0.0
31	算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	小82	80.1	-1.0	80.1	-1.0	80.8	-0.2	78.5	-1.1	77.0	-1.1	75.4	-2.0
		中84	72.5	-1.0	73.9	0.4	72.1	0.0	70.7	0.9	70.5	0.2	68.2	0.9
32	算数（数学）の授業で学習したことを普通の生活の中で活用できないか考えますか	小83	69.0	-0.1	69.8	0.7	68.9	1.5	68.3	0.6	66.9	0.6	65.8	-0.4
		中85	46.6	1.3	47.8	2.5	43.1	1.2	44.2	3.3	43.7	2.8	39.8	2.1
33	算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	小84	88.5	-0.6	88.9	-0.2	89.3	-0.6	90.0	-0.3	88.3	-0.7	87.2	-1.6
		中86	72.5	0.1	72.0	-0.4	70.1	-1.4	72.0	-0.5	70.8	-0.6	69.4	-0.2
34	算数（数学）の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	小85	80.2	-1.2	81.6	0.2	81.4	0.9	79.8	0.7	80.1	0.7	79.8	0.1
		中87	71.1	-0.1	73.3	2.1	70.9	1.9	69.2	1.7	69.1	1.7	68.3	1.4
35	算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	小86	81.1	-1.5	82.1	-0.5	81.6	0.8	79.9	-0.7	81.2	-0.1	79.9	-0.5
		中88	73.3	1.2	74.3	2.2	72.1	2.3	72.6	2.5	72.4	2.4	72.7	2.7
36	算数（数学）の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	小87	84.7	-1.3	85.9	-0.1	85.0	0.2	82.3	-1.5	82.0	-1.4	81.0	-1.5
		中89	81.4	0.1	81.6	0.3	81.1	0.0	81.0	0.4	80.2	0.2	80.6	0.8

《改善へのヒント》

- 教科に対する関心・意欲・態度の向上は、学力向上の基盤ともいえることから、各学校において校内研修の充実と「5つの提言」の実践等により、関心・意欲・態度の一層の向上を図ることが望まれる。

（２）主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導

対話的、主体的で深い学びに関する質問では、ほとんどの質問について、小・中学生ともに全国値とほぼ同じである。

- ◇ 「学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容をしっかり理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」と回答した中学生の割合 [+3.0]
- ◆ 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」と回答した小・中学生の割合 小 [-3.6] 中 [-3.3]
- ◆ 「最後に学習の内容を振り返る活動をよく行っていた」と回答した小学生の割合 [-3.5]
- ◆ 「数学の問題について、解答を言葉や式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力した」と解答した中学生の割合 [-4.3]

番号	質問事項		H29				H28		H27		H26		H25	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
37	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか	小7	48.6	-3.6	49.0	-3.2	48.0	-3.7	47.5	-3.7	46.6	-2.9	46.2	-3.4
		中7	47.2	-3.3	48.7	-1.8	47.2	-3.0	48.0	-1.6	46.0	-2.6	44.2	-4.1
38	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができていますか	小9	84.7	-0.8	85.5	0.0								
		中90	87.2	-1.2	88.9	0.5								
39	授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか	小11	82.9	0.1	83.9	1.1								
		中11	71.5	0.6	73.6	2.7								
40	授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	小58	75.6	0.5	78.1	3.0	78.4	2.7	75.5	1.3				
		中60	74.1	2.8	74.0	2.7	72.5	3.2	68.4	2.7				
41	授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容をしっかり理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか	小59	77.9	-0.2	78.8	0.7	77.7	0.6						
		中61	76.5	3.0	77.4	3.9	75.5	3.1						

42	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫し発表していたと思いますか。	小60	65.7	0.8	67.4	2.5	66.6	2.4						
		中62	60.3	2.4	61.8	3.9	62.7	5.0						
43	普段の授業の中で、授業の目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	小61	86.6	-1.6	87.8	-0.4	87.2	-0.4	84.1	-2.2	77.5	-4.5	78.1	-4.4
		中63	88.4	0.6	87.7	-0.1	84.9	0.0	78.3	-1.4	67.7	-3.8	65.0	-3.1
44	普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	小62	72.7	-3.5	74.7	-1.5	74.5	-1.6	73.6	-1.7	68.0	-3.9	73.3	-3.4
		中64	66.7	0.6	65.8	-0.3	63.8	0.7	60.2	0.9	53.0	-0.3	52.9	1.6
45	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか（全ての問題で努力した）	小77	74.6	-2.6	75.7	-1.5	74.0	-1.1	76.8	-0.9	74.2	-1.9	67.9	-1.9
		中79	70.6	-1.7	73.5	1.2	73.7	2.0	77.0	0.6	71.1	0.9	73.7	0.7
46	今回の算数（数学）の問題について、解答を言葉や式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか（全ての問題で努力した）	小88	67.4	-2.5	68.0	-1.9	70.7	-1.3	72.7	-0.6	77.7	-2.0	72.9	-1.5
		中90	51.1	-4.3	54.1	-1.3	48.0	-2.0	50.0	-1.3	56.7	0.6	42.9	-2.0

《改善へのヒント》

- 自分の意見を発表するのが得意や友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができるという児童生徒が全国値より低いことから、各学校において児童生徒の実態を意識調査や校内研究の取組等で、把握、検証し、主体的・対話的で深い学びを視点にした授業改善に努めることが望まれる。
- めあて・ねらいの提示、振り返る活動は、「5つの提言」の一つである。自信を持って「当てはまる」と回答できる児童生徒が一人でも増えるように、各学校で「5つの提言」を実践し続けるとともにその質の向上を図ることが望まれる。

4 規範意識、自己有用感等

規範意識、自己有用感に関する質問では、ほとんどの質問について、小・中学生ともに全国値とほぼ同様である。

- ◆ 「自分には、よいところがあると思う」と回答した中学生の割合 [-4.4]
- ◆ 「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた」と回答した小学生の割合 [-3.0]

番号	質問事項		H 2 9				H 2 8		H 2 7		H 2 6		H 2 5	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
47	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか	小4	94.5	-0.3	94.7	-0.1	93.4	-1.0	93.6	-0.9	93.8	-0.6	93.4	-0.9
		中4	94.3	-0.4	94.2	-0.5	94.1	-0.2	93.8	-0.4	94.2	0.3	93.7	0.0
48	自分には、よいところがあると思いますか	小6	76.2	-1.7	76.7	-1.2	73.9	-2.4	72.5	-3.9	74.0	-2.1	72.2	-3.5
		中6	66.3	-4.4	70.0	-0.7	68.2	-1.1	66.2	-1.9	65.3	-1.8	65.6	-0.8
49	将来の夢や目標を持っていますか	小10	87.5	1.6	86.0	0.1	85.6	0.3	87.5	1.0	86.6	-0.1	86.4	-1.3
		中10	70.6	0.1	71.8	1.3	71.2	0.1	72.4	0.7	72.5	1.1	73.7	0.2
50	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	小38	83.8	-2.2	83.5	-2.5	80.9	-1.7			77.3	-2.4		
		中40	78.9	-1.5	79.9	-0.5	78.7	0.7			73.3	-0.8		
51	学校のきまり（規則）を守っていますか	小49	92.5	-0.1	92.1	-0.5	91.7	0.2	90.0	-1.1	89.9	-0.6	89.6	-1.0
		中51	94.5	-0.7	95.0	-0.2	94.1	-0.6	93.9	-0.5	92.5	-0.5	92.2	-0.3
52	友達との約束を守っていますか	小50	97.0	-0.2	96.9	-0.3	97.0	-0.2			97.0	-0.3	96.2	-0.8
		中52	97.2	-0.2	97.4	0.0	97.0	-0.2			97.0	-0.1	97.1	0.1
53	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	小52	96.0	-0.1	96.2	0.1	96.8	0.2	95.6	-0.6	95.7	-0.7	95.0	-0.9
		中53	92.3	-0.5	92.6	-0.2	93.7	0.1	92.6	-1.1	92.5	-0.9	92.8	-0.7
54	道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。	小64	75.5	-3.0	77.6	-0.9	76.7	-0.9						
		中66	78.1	2.1	79.8	3.8	78.3	4.2						

《改善へのヒント》

- よいところを認めることは、「5つの提言」の一つである。児童生徒の気づきやつぶやきを拾い上げ、認め、他の考えと関連付けながらみんなで考える授業を充実させることが望まれる。また、自己肯定感を高めたり、自己有用感を味わったり、共感的な人間関係を構築したりする点においても継続して取り組むとともにその質の向上を図ることが望まれる。

5 地域や社会、外国に対する興味・関心

地域や社会に対する興味・関心に関する質問では、ほとんどの質問について、小・中学生ともに全国値とほぼ同じである。外国に対する興味・関心に関する質問では、小・中学生ともに全国値を下回っている。

- ◇ 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した小学生の割合 [+7.6]
- ◆ 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」と回答した小・中学生の割合 小 [-4.5] 中 [-4.1]
- ◆ 「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしたいと思う」と回答した小・中学生の割合 小 [-4.4] 中 [-4.9]

番号	質問事項		H 2 9				H 2 8		H 2 7		H 2 6		H 2 5	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
55	今住んでいる地域の行事に参加していますか	小40	70.2	7.6	72.3	9.7	76.0	8.1	75.8	8.9	76.0	8.0	73.1	9.2
		中42	43.0	0.9	44.6	2.5	44.8	-0.4	46.4	1.6	44.2	0.7	41.3	-0.3
56	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	小41	61.9	-2.0	67.0	3.1	72.6	2.0	66.2	2.3	65.0	2.1	58.2	0.8
		中43	59.8	0.6	62.6	3.4	67.9	2.1	60.8	4.9	59.1	3.5	55.3	3.5
57	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(H 2 7再掲)	小42	41.3	-1.0	45.2	2.9			45.6	0.8	43.6	1.1	38.7	0.1
		中44	35.9	2.5	36.9	3.5			37.5	4.6	34.8	3.6	30.7	3.9
58	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	小47	65.9	-4.5	69.9	-0.5								
		中49	60.2	-4.1	63.0	-1.3								
59	将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしたいと思いますか	小48	29.2	-4.4	33.2	-0.4								
		中50	28.0	-4.9	30.6	-2.3								
60	授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	小65	71.0	0.8	72.9	2.7								
		中67	55.2	1.5	54.6	0.9								

《改善へのヒント》

- 外国に対する興味・関心の全国値との差については、地域の実態や児童生徒の生活環境等の違いも要因の一つと思われる。各学校においては、それらの実態と新学習指導要領の趣旨を踏まえ取り組むことが望まれる。

Ⅵ 学校質問紙調査結果の概要（抜粋）

1 指導方法等

指導方法等に関する質問では、ほとんどの質問について、小・中学校ともに全国値とほぼ同じであるが、小学校では全国平均値を下回り、中学校では上回っている項目が多い。

- ◇ 「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」と回答した中学校の割合 [+5.4]
- ◇ 「生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした」と回答した中学校の割合 [+3.3]
- ◇ 「学級やグループで話し合う活動を授業で行った」と回答した中学校の割合 [+3.3]
- ◇ 「児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」と回答した小学校の割合 [+8.8]
- ◆ 「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した中学校の割合 [-3.1]

番号	質問事項		H 2 9				H 2 8		H 2 7		H 2 6		H 2 5	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
1	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	小32	89.1	-2.4	89.5	-2.0	89.2	-0.9						
		中32	95.0	5.4	92.6	3.0	88.9	0.3						
2	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れられましたか	小33	99.6	0.6	99.2	0.2	98.7	-0.1	98.7	0.6	95.2	-1.7	96.1	-0.4
		中33	99.2	0.9	98.0	-0.3	98.6	0.8	97.5	1.8	94.1	0.1	95.4	2.8
3	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れられましたか	小34	93.1	-2.3	94.2	-1.2	94.0	-0.9	91.8	-2.1	91.6	0.0	91.4	-0.6
		中34	96.4	2.1	95.5	1.2	92.7	-0.4	91.2	0.3	91.6	2.4	90.9	2.8
4	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか	小35	93.1	-0.2	93.1	-0.2	92.7	-0.1	90.5	-1.2	88.4	-2.0		
		中35	92.8	2.3	94.6	4.1	91.2	2.2	90.7	4.0	88.7	3.8		
5	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	小36	93.4	-2.1	94.2	-1.3	95.6	0.8	95.4	1.1	94.4	0.5	96.0	1.0
		中36	97.2	3.3	97.1	3.2	95.7	2.4	96.1	4.0	95.1	4.0	94.4	2.6
6	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	小37	96.5	-1.8	96.9	-1.4	97.9	0.2	97.0	-0.3	96.2	-0.7	96.6	-0.7
		中37	99.3	2.3	99.0	2.0	99.1	3.2	98.0	3.7	95.1	1.8	95.0	1.7
7	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	小39	96.9	-0.5	97.1	-0.3	96.1	-0.4	94.9	-0.6	95.2	-0.2	93.8	-1.5
		中39	97.9	3.3	98.0	3.4	96.2	3.4	94.6	5.4	92.5	4.3	91.9	4.3
8	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	小45	84.5	8.8	84.4	8.7	86.2	11.6	84.0	11.6	86.6	14.6	78.6	7.1
		中45	100.0	2.5	99.0	1.5	97.1	0.0	96.6	0.2	96.0	1.8	99.0	4.5
9	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	小49	83.0	-0.3	85.0	1.7								
		中49	72.1	-3.1	73.9	-1.3								

《改善へのヒント》

- 「授業の中で目標（めあて・ねらい）を計画的に示した」と回答した割合は、小・中学校ともに昨年度と比較して高く、全国値と同等である。「授業の最後に振り返る活動を取り入れた」と回答した割合は、中学校は昨年度より高いが、小学校は低くなっている。全ての教員が日々の授業で地道に継続して取り組むことが一層望まれる。
- 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」と回答した割合は、小学校は昨年度より低くなっているものの全国値を上回り、中学校は100%となっている。小・中学校で連携を図り、発達の段階を踏まえた指導を今後も継続することが望まれる。

2 学力向上に向けた取組

学力向上に向けた取組に関する質問では、小・中学校ともに全国値を上回る項目が多い。

◇ 「放課後を利用した補足的な学習サポートを実施した」と回答した小・中学校の割合
小 [+22.3] 中 [+5.6]

◇ 「長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施した」と回答した小学校の割合
[+10.7]

◇ 「地域や社会をよくするために、何をすべきか考えさせるような指導を行った」と回答した小・中学校の割合 小 [+3.6] 中 [+3.4]

◇ 「授業や課外活動で地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会の設定を行った」と回答した小・中学校の割合 小 [+4.1] 中 [+8.7]

◇ 「保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行った」と回答した中学校の割合
[+3.8]

◆ 「家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」と回答した中学校の割合
[-6.5]

番号	質問事項		H 2 9				H 2 8		H 2 7		H 2 6		H 2 5	
			仙台市を 除く	県-全	仙台市を 含む	宮-全	仙台市を 含む	宮-全	仙台市を 含む	宮-全	仙台市を 含む	宮-全	仙台市を 含む	宮-全
10	前年度に、放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか	小23	83.4	22.3	78.6	17.5	78.3	18.1	71.8	13.7	76.4	14.1	74.0	12.3
		中23	88.6	5.6	86.2	3.2	83.5	2.0	79.8	-0.9	88.5	1.7	88.9	2.9
11	前年度に、長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか	小25	74.9	10.7	71.2	7.0	70.2	6.1	67.9	5.1	62.1	-4.0	61.8	-3.2
		中25	78.5	-2.3	73.8	-7.0	67.0	-12.6	73.5	-6.3	74.3	-10.0	74.7	-9.4
12	学校では、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価をしましたか	小51	98.1	0.7	97.9	0.5	98.7	0.3	97.2	0.5	96.2	-0.7		
		中51	97.1	1.6	96.1	0.6	97.5	0.4	94.6	-1.2	97.5	1.0		
13	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか	小83	79.2	3.6	80.5	4.9								
		中82	71.4	3.4	73.4	5.4								
14	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか	小84	90.0	4.1	91.0	5.1								
		中83	87.1	8.7	85.2	6.8								
15	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけをしましたか（国・算共通）	小94	98.0	1.0	98.1	1.1	98.4	1.1	97.7	1.2	98.8	2.9		
		中92	91.4	3.8	91.6	4.0	88.4	0.9	81.8	-2.1	90.1	4.7		
16	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国・算共通）	小95	92.3	2.7	92.6	3.0	92.2	3.4	92.1	5.0	93.6	8.2		
		中93	75.7	-6.5	77.8	-4.4	76.7	-5.4	75.5	-3.0	76.2	-0.7		
17	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えましたか（国・算共通）	小96	85.4	2.3	85.3	2.2	85.1	3.0	82.2	2.7	82.2	4.4	74.6	-0.5
		中94	67.8	-2.0	68.5	-1.3	66.0	-2.8	73.1	7.0	68.8	4.6	58.6	-0.7
18	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか（国・算共通）	小97	94.6	2.4	94.2	2.0	97.9	6.0	93.9	4.1	95.4	7.2	93.1	2.2
		中95	89.3	1.0	91.1	2.8	92.7	4.8	90.2	4.5	91.1	6.3	91.9	4.8

《改善へのヒント》

- 「児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価した」と回答した小・中学校の割合は、全国値とほぼ同じであるが、昨年度と比較してわずかに低くなっている。学習指導、生徒指導の基盤であることをしっかり捉え、学校全体としての取組を今後も充実させていくことが望まれる。
- 学習内容の確実な定着を図る上で、家庭学習を充実させることも重要である。家庭学習の仕方を指導したり、家庭の協力を得たりするなど、家庭学習の質と量を充実させるための取組が今後も望まれる。

3 カリキュラム・マネジメント

- ◇ 「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答した小・中学校の割合 小 [+3.1] 中 [+5.1]
- ◆ 「教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連がわかるように作成している」と回答した中学校の割合 [-4.6]

番号	質問事項		H29				H28		H27		H26		H25	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
19	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	小28	87.6	0.9	88.4	1.7	87.8	2.0						
		中28	76.4	-1.9	79.3	1.0	79.6	1.6						
20	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	小29	88.0	2.2	87.9	2.1	90.3	4.7						
		中29	72.9	-4.6	74.9	-2.6	80.6	2.9						
21	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	小30	94.6	3.1	93.9	2.4	91.9	3.4						
		中30	92.9	5.1	92.6	4.8	87.4	0.9						
22	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	小31	93.4	0.8	94.7	2.1	93.7	2.3						
		中31	75.0	0.4	72.9	-1.7	71.3	0.0						

《改善へのヒント》

- 「教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答している小・中学校の割合は、全国値を上回り、昨年度と比較して高くなっている。確立したPDCAサイクルを活用し、教育活動の一層の充実を図ることが望まれる。

4 小学校教育と中学校教育の連携

小学校教育と中学校教育の連携に関する質問では、全ての質問について、小・中学校ともに全国値を大きく下回っている。

- ◆ 「近隣等の中学校（小学校）と教育目標を共有する取組を行った」と回答した小・中学校の割合 小 [-24.9] 中 [-22.0]
- ◆ 「近隣等の中学校（小学校）と授業研究を行うなど、合同して研修を行った」と回答した小・中学校の割合 小 [-23.2] 中 [-14.8]
- ◆ 「近隣等の中学校（小学校）と教育課程に関する共通の取組を行った」と回答した小・中学校の割合 小 [-25.1] 中 [-23.2]
- ◆ 「平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有した」と回答した小学校の割合 小 [-14.1] 中 [-17.5]

番号	質問事項		H29				H28		H27		H26		H25	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
23	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と教育目標を共有する取組を行いましたか	小76	33.2	-24.9	41.9	-16.2	38.4	-16.1						
		中75	41.4	-22.0	44.3	-19.1	41.3	-20.2						
24	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	小77	42.4	-23.2	45.4	-20.2	45.1	-17.4						
		中76	60.0	-14.8	59.1	-15.7	55.8	-16.8						
25	前年度までに、近隣等の中学校（小学校）と教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定など教育課程に関する共通の取組を行いましたか	小78	26.2	-25.1	31.4	-19.9	28.5	-18.6						
		中77	35.0	-23.2	36.4	-21.8	36.4	-18.5						
26	前年度までに、平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校（小学校）と成果や課題を共有しましたか	小79	38.9	-14.1	43.8	-9.2	37.6	-11.9						
		中78	39.3	-17.5	41.3	-15.5	48.1	-5.9						

《改善へのヒント》

- 授業において児童生徒一人一人の意欲的な取組を引き出し、「分かった」、「できた」を味わわせるためにも、小・中学校の連携を図り、指導目標、指導内容、指導方法等の共通理解を深める取組を充実させることが望まれる。

5 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善

主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する質問では、全国値を下回っている質問が多くなっている。

- ◇ 「道徳の時間において、自ら考え、話し合う指導をした」と回答した中学校の割合 [+5.2]
- ◆ 「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができています」と回答した小・中学校の割合 小 [-4.9] 中 [-5.2]
- ◆ 「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と回答した小学校の割合 [-7.7]
- ◆ 「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができています」と回答した小・中学校の割合 小 [-8.5] 中 [-3.3]

番号	質問事項		H 2 9				H 2 8		H 2 7		H 2 6		H 2 5	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
27	調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか	小15	72.6	-4.9	71.5	-6.0	68.1	-6.5	71.0	-0.9	66.4	-3.6	63.3	-4.5
		中15	70.7	-5.2	73.4	-2.5	73.3	0.0	69.7	0.4	65.3	-0.3	59.1	-4.5
28	調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができますか	小16	88.8	2.1	87.3	0.6	84.3	-1.5	86.0	2.0	81.0	-2.3	84.5	1.5
		中16	89.3	0.0	89.6	0.3	89.8	1.5	84.8	-0.4	85.7	2.3	84.4	1.8
29	調査対象学年の児童（生徒）は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか	小17	64.0	-7.7	64.4	-7.3	64.0	-5.2	66.7	0.6	61.5	-2.3		
		中17	73.5	0.6	74.4	1.5	66.1	-4.4	66.7	-0.6	68.3	4.5		
30	調査対象学年の児童（生徒）は授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていますか	小19	54.5	-8.5	56.4	-6.6	57.2	-4.0						
		中19	57.9	-3.3	60.6	-0.6	52.4	-7.2						
31	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか	小40	84.6	-0.7	85.8	0.5	82.5	-1.2	89.8	8.5	84.3	4.6	83.8	2.9
		中40	85.0	1.3	88.2	4.5	82.5	-0.4	78.9	-0.1	86.6	7.0	85.9	5.4
32	調査対象学年の児童（生徒）の授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	小41	84.2	1.9	83.7	1.4	76.5	-3.6	73.8	0.8				
		中41	75.0	-0.1	75.9	0.8	71.9	-0.7	66.1	2.8				
33	調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、道徳の時間において、児童（生徒）自らが考え、話し合う指導をしましたか	小47	90.8	0.2	91.1	0.5	89.3	-1.2						
		中47	95.0	5.2	94.6	4.8	86.9	-1.8						

《改善へのヒント》

- 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善のために、各学校において児童生徒の実態を踏まえた協働による授業づくりの一層の充実が望まれる。

6 教員研修

教員研修に関する質問では、全国値を大きく下回っている質問が多くなっている。

- ◆ 「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている」と回答した小・中学校の割合 小 [-17.5] 中 [-23.4]
- ◆ 「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」と回答した中学校の割合 [-23.4]
- ◆ 「校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加している」と回答した小・中学校の割合 小 [-10.2] 中 [-7.2]
- ◆ 「学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている」と回答した小・中学校の割合 小 [-14.3] 中 [-8.6]

番号	質問事項		H29				H28		H27		H26		H25	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
34	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	小99	76.1	-17.5	79.1	-14.5	79.4	-13.6	78.4	-14.9	77.5	-15.0	77.6	-15.1
		中97	65.0	-23.4	71.4	-17.0	67.0	-19.0	65.2	-20.6	71.8	-13.0	65.2	-19.2
35	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか	小100	95.0	-0.6	94.4	-1.2	92.4	-0.4	93.6	-1.9	92.4	-2.5	95.4	0.6
		中98	65.0	-23.4	71.4	-17.0	67.0	-19.0	65.2	-20.6	71.8	-13.0	65.2	-19.2
36	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか	小101	97.3	0.0	97.9	0.6	98.7	2.5	99.2	2.1	97.7	1.5	97.8	1.4
		中99	89.2	-0.8	91.1	1.1	84.0	-0.2	86.8	-0.7	86.1	-0.6	88.4	2.0
37	教員は（個々の教員が自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており）校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか	小102	75.3	-10.2	78.9	-6.6	76.8	-6.2						
		中100	74.3	-7.2	75.9	-5.6	73.7	-4.1						
38	児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	小103	61.7	-14.3	64.6	-11.4	63.2	-9.7						
		中101	60.0	-8.6	62.1	-6.5	63.2	-0.5						

《改善へのヒント》

- 児童生徒の実態、学校の実情等に応じた年間の研修計画を立案し、計画に沿って研修を深め、教員の資質・能力の向上を図ることが望まれる。
- 小・中学校で連携することで、研修機会を確保し、内容を充実させることも望まれる。

7 調査結果の活用

調査結果の活用に関する質問では、全国値を上回っている。

- ◇ 「平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った」と回答した小・中学校の割合 小 [+6.1] 中 [+3.9]
- ◇ 「平成28年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った」と回答した小学校の割合 [+5.5]

番号	質問事項		H29				H28		H27		H26		H25	
			仙台市を除く	県-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全	仙台市を含む	宮-全
40	平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）	小57	96.9	6.1	97.4	6.6	98.4	7.5	97.5	9.5	94.4	13.3		
		中57	90.7	3.9	93.6	7	93.7	6.8	93.2	9.3	93.6	18.0		
41	平成28年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか	小58	95.4	5.5	96.3	6.4	98.7	8.5	95.9	8.5	93.4	8.4		
		中58	85.0	1.6	88.7	5.3	91.3	7.5	91.2	10.7	90.1	12.9		

《改善へのヒント》

- 各学校において、自校の学力調査や意識調査の結果を生かし、学習指導の改善を図るとともに、家庭や地域と連携を図りながら家庭学習の充実も含め、児童生徒の一層の学力向上に向けた取組を充実させることが必要である。

Ⅶ 「学力向上に向けた5つの提言」に関わる児童生徒質問紙調査結果と正答率のクロス集計の結果

「学力向上に向けた5つの提言」は、宮城県の喫緊の課題である学力向上を図るために、精神科医、大学教授、市町村教育委員会教育長、PTA代表、小・中学校教員等を委員とした緊急会議を開催し、平成25年10月16日に提言として、全ての教員が実践化に努めていく内容をまとめたものです。

提言1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

提言2 子供をほめること、認めること。

提言3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

提言4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

提言5 家庭学習の時間を確保すること。

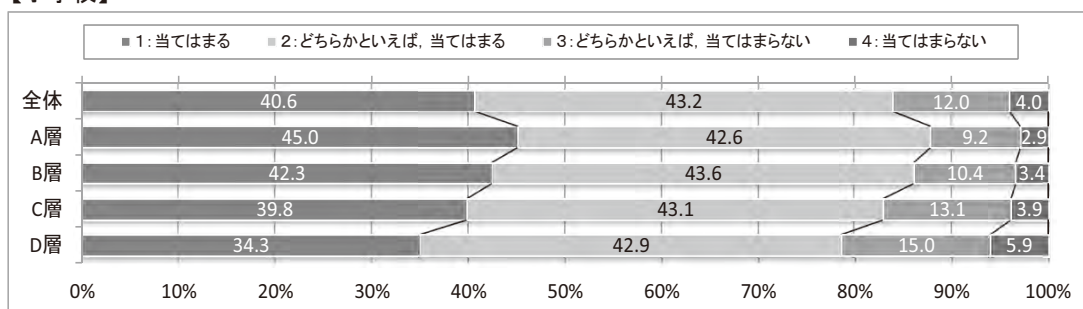
正答率の高い順に、上位から人数を25%刻みで4つの層に分け、上から順にA層、B層、C層、D層とした。

それぞれの層ごとに、「学力向上に向けた5つの提言」に関わる設問の回答状況(1:当てはまる 2:どちらかといえば、当てはまる 3:どちらかといえば、当てはまらない 4:当てはまらない)の割合を表した。

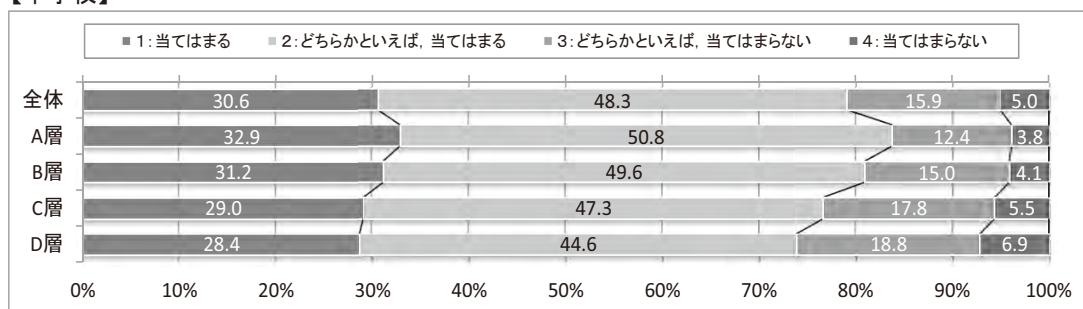
提言1, 2 「先生は、あなたのよいところを認めてくれているとおもいますか」

- 小学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。
- 中学生では、正答率が高い生徒の方が、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。

【小学校】



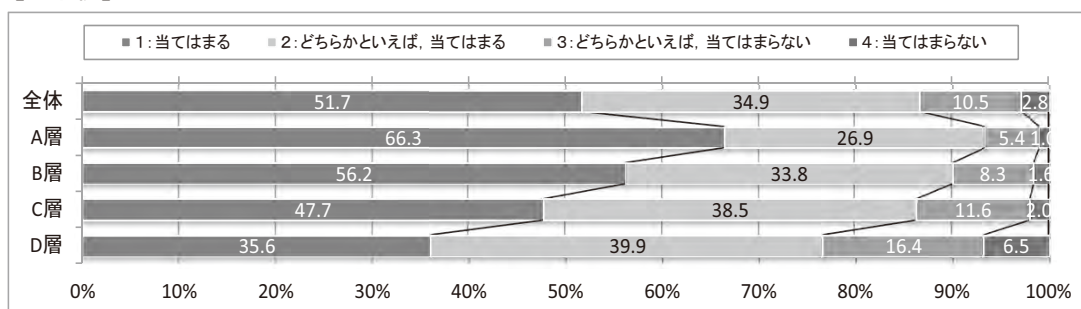
【中学校】



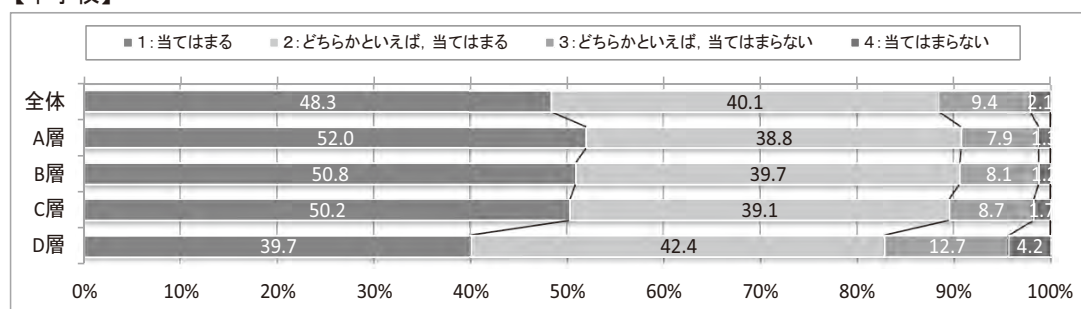
提言3 「小5までに(中1, 2のときに)受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか」

- 小学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が非常に見られる。
- 中学生では、正答率が高い生徒の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向がわずかに見られる。

【小学校】



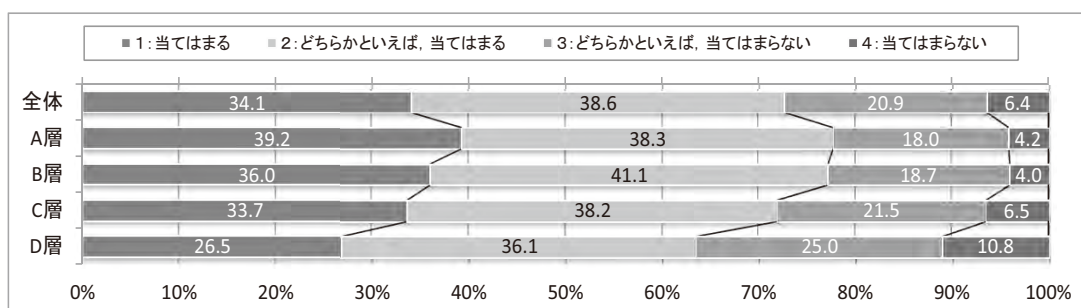
【中学校】



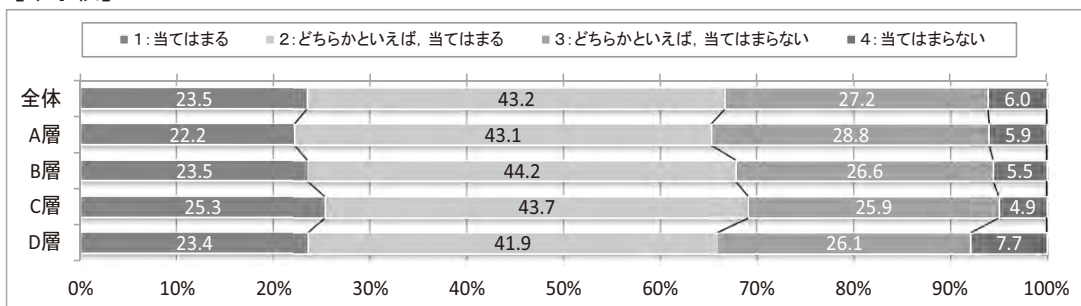
提言3 「小5までに(中1, 2のときに)受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」

- 小学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。
- 中学生では、特徴的な傾向は見られない。

【小学校】



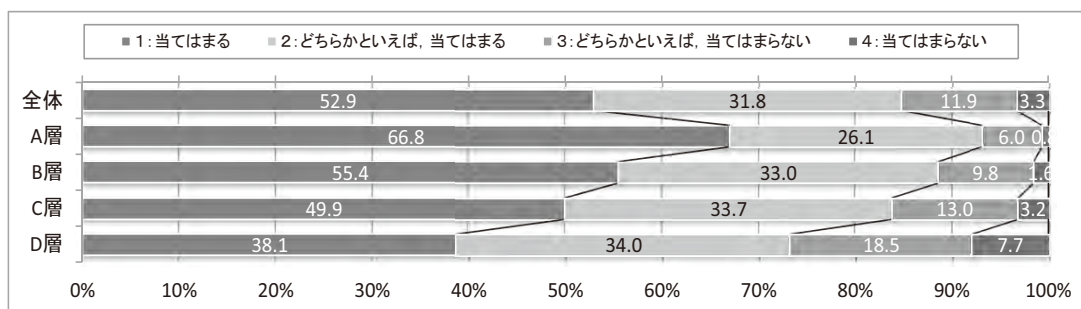
【中学校】



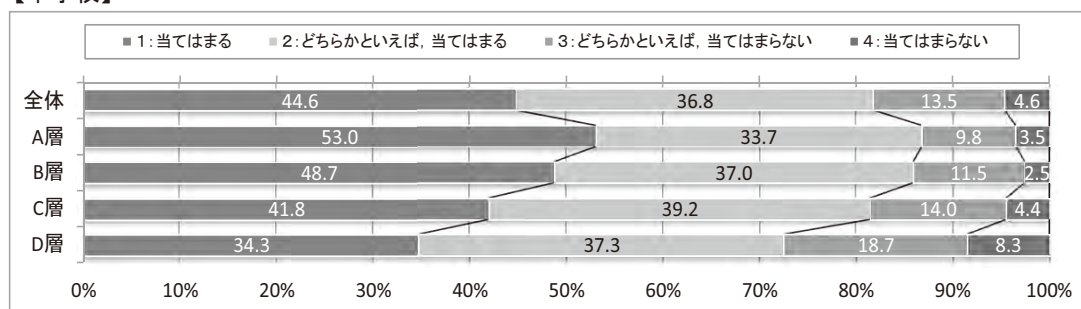
提言4 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書いていますか」

- 小学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が非常に見られる。
- 中学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。

【小学校】



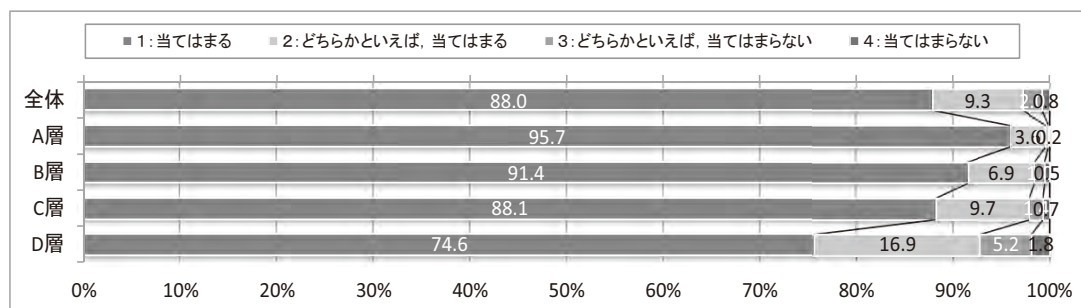
【中学校】



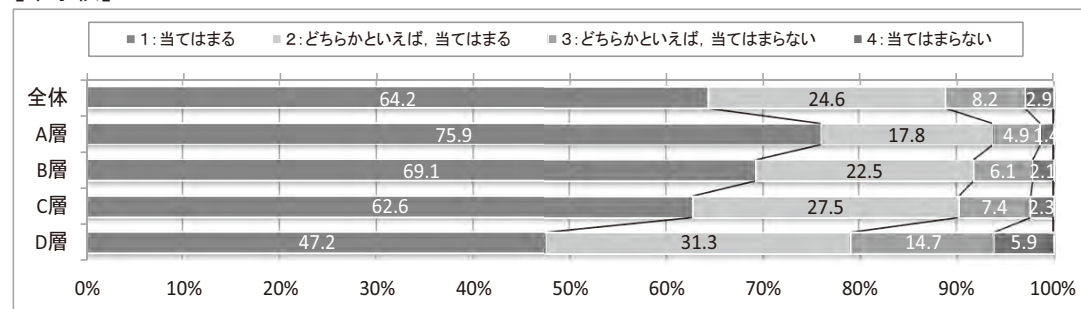
提言5 「家で、学校の宿題をやっていますか」

- 小学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。
- 中学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が非常に見られる。

【小学校】



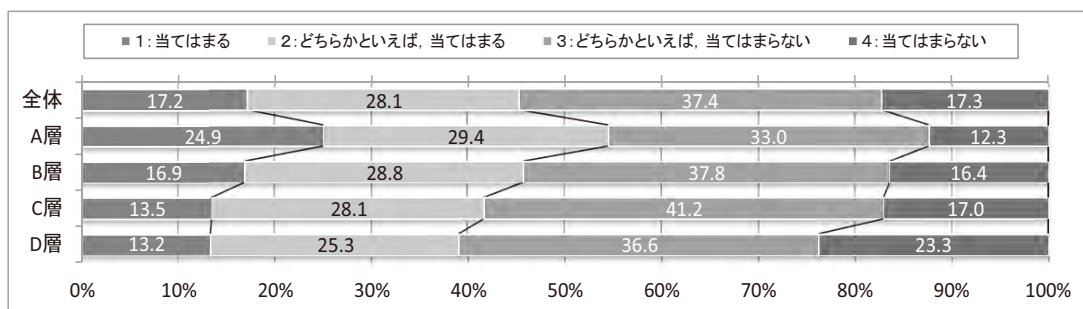
【中学校】



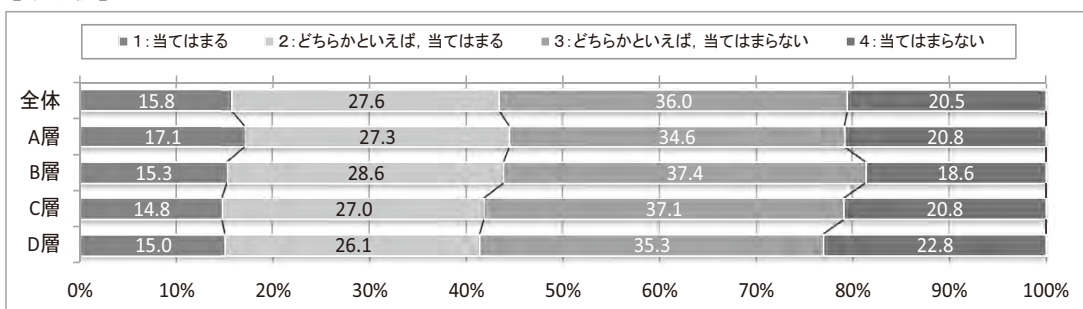
提言5 「家で、学校の授業の予習をしていますか」

- 小学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合が高い傾向がやや見られる。
- 中学生では、特徴的な傾向は見られない。

【小学校】



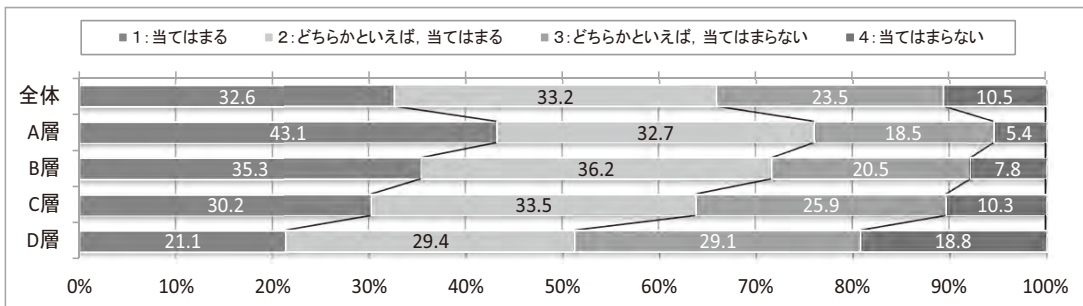
【中学校】



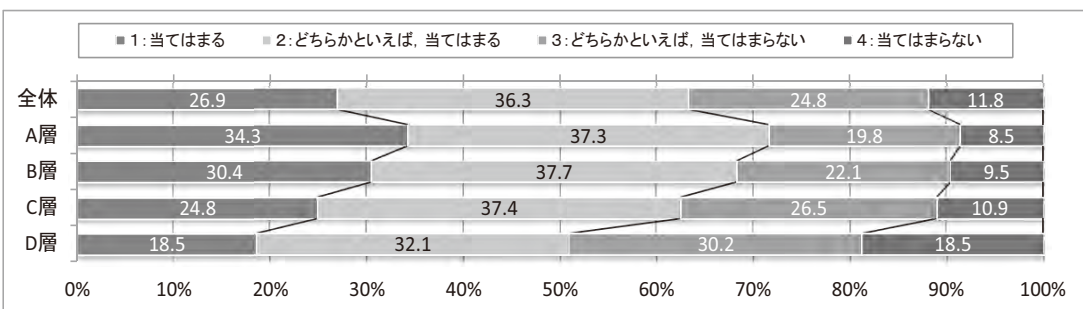
提言5 「家で、学校の授業の復習をしていますか」

- 小学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。また、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合との合計でも高い傾向がやや見られる。
- 中学生では、正答率が高い児童の方が、「当てはまる」と回答している割合が高い傾向が見られる。また、「どちらかといえば、当てはまる」と回答している割合との合計でも高い傾向がやや見られる。

【小学校】



【中学校】



Ⅷ 児童生徒質問紙調査, 学校質問紙調査 集計結果

1 児童生徒質問紙調査結果

・回答の割合は、特に指定のある質問を除き、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を合計した数値である。

児童質問紙調査（小学校）			宮城県 (仙台市を除く)		全県	生徒質問紙調査（中学校）			宮城県 (仙台市を除く)		全県
質問 番号	平成29年度 質問事項		県	県-全		質問 番号	平成29年度 質問事項		県	県-全	
(1)	朝食を毎日食べていますか		95.2	-0.2	95.8	(1)	朝食を毎日食べていますか		93.2	0.0	93.9
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		80.4	0.6	83.1	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		77.1	1.5	79.5
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか		90.5	-0.7	91.3	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか		92.3	-0.1	93.0
(4)	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか		94.5	-0.3	94.7	(4)	ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか		94.3	-0.4	94.2
(5)	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか		76.8	-0.6	77.5	(5)	難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか		70.0	-1.0	71.1
(6)	自分には、よいところがあると思いますか		76.2	-1.7	76.7	(6)	自分には、よいところがあると思いますか		66.3	-4.4	70.0
(7)	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか		48.6	-3.6	49.0	(7)	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか		47.2	-3.3	48.7
(8)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか		94.6	0.3	94.7	(8)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか		94.7	0.1	95.6
(9)	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか		84.7	-0.8	85.5	(9)	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか		87.2	-1.2	88.9
(10)	将来の夢や目標を持っていますか		87.5	1.6	86.0	(10)	将来の夢や目標を持っていますか		70.6	0.1	71.8
(11)	授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか		82.9	0.1	83.9	(11)	授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか		71.5	0.6	73.6
(12)	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のための視聴、テレビゲームは除く）（3時間以上）		37.2	4.5	34.3	(12)	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のための視聴、テレビゲームは除く）（3時間以上）		27.3	2.0	23.6
(13)	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む）をしますか（3時間以上）		18.5	0.9	17.3	(13)	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む）をしますか（3時間以上）		22.3	0.9	19.4
(14)	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（3時間以上）		7.1	0.1	6.3	(14)	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（3時間以上）		18.5	0.4	15.7
(15)	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む、30分以上）		91.6	2.9	90.6	(15)	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）(30分以上)		87.0	0.2	86.9
(16)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）（3時間以上）		20.2	-4.4	21.4	(16)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）（3時間以上）		14.6	-3.2	17.0
(17)	学習塾（家庭教師含む）で勉強をしていますか		35.3	-11.0	38.0	(17)	学習塾（家庭教師含む）で勉強をしていますか（塾に通っている）		51.3	-10.2	55.4
(18)	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）（30分以上）		34.3	-2.2	37.0	(18)	家や図書館で、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌除く、30分以上）		32.2	3.0	31.2
(19)	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きますか（週1回以上）		15.5	-0.1	16.5	(19)	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館へどれくらい行きますか（週1回以上）		7.3	-0.8	7.8
						(20)	学校の部活動に参加していますか。（参加している）		97.6	10.0	95.4
						(21)	普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか（1時間以上）		93.9	9.9	90.9
(20)	普段（月曜日から金曜日）、家を出発してから学校に着くまでに、どれくらいの時間がかかりますか（30分以上）		19.7	2.5	16.3	(22)	普段（月～金曜日）、家を出発してから学校に着くまでに、どれくらいの時間がかかりますか（30分以上）		15.6	1.6	15.3
(21)	放課後に何をして過ごすことが多いですか		国政研の公表資料を参照願います			(23)	放課後に何をして過ごすことが多いですか		国政研の公表資料を参照願います		
(22)	土曜日の午前は、何をして過ごすことが多いですか		国政研の公表資料を参照願います			(24)	土曜日の午前は、何をして過ごすことが多いですか		国政研の公表資料を参照願います		
(23)	土曜日の午後は、何をして過ごすことが多いですか		国政研の公表資料を参照願います			(25)	土曜日の午後は、何をして過ごすことが多いですか		国政研の公表資料を参照願います		
(24)	家の人と学校での出来事について話をしますか		77.4	-0.7	79.1	(26)	家の人と学校での出来事について話をしますか		75.3	1.0	77.1
(25)	携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか		43.3	-5.4	44.8	(27)	携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか		47.6	-3.0	50.3
(26)	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか		56.2	-2.1	61.2	(28)	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか		29.5	-4.5	35.4
(27)	家の人（兄弟姉妹は含まない）と将来のことについて話すことがありますか		47.2	-3.2	51.5	(29)	家の人（兄弟姉妹を含みません）と将来のことについて話すことがありますか		58.2	-2.5	60.7
(28)	家の人（兄弟姉妹は含まない）は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか		97.4	1.3	97.1	(30)	家の人（兄弟姉妹を含みません）は、授業参観や運動会などの学校行事に来ますか（H27再）		86.4	2.3	83.1
(29)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか		67.0	2.5	68.8	(31)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか		53.7	-0.8	56.3

児童質問紙調査（小学校）		宮城県 (仙台市を除く)		全県	生徒質問紙調査（中学校）		宮城県 (仙台市を除く)		全県
質問 番号	平成29年度 質問事項	県	県-全		質問 番号	平成29年度 質問事項	県	県-全	
(30)	家で、学校の宿題をしていますか	97.3	0.4	97.4	(32)	家で、学校の宿題をしていますか	88.8	-0.7	89.7
(31)	家で、学校の授業の予習をしていますか	45.3	4.3	47.9	(33)	家で、学校の授業の予習をしていますか	43.4	11.7	44.6
(32)	家で、学校の授業の復習をしていますか	65.8	12.0	66.1	(34)	家で、学校の授業の復習をしていますか	63.2	12.7	63.7
(33)	学校に行くのは楽しいと思いますか	86.0	-0.3	86.9	(35)	学校に行くのは楽しいと思いますか	77.7	-3.2	79.3
(34)	学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか（H25再掲）	96.6	0.2	96.0	(36)	学校で友達に会うのは楽しいと思いますか。	94.1	-0.5	94.1
(35)	学校で、好きな授業がありますか	92.2	-0.8	92.3	(37)	学校で、好きな授業がありますか。	78.0	-1.2	79.5
(36)	学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか	50.2	-0.1	52.5	(38)	学級会などの話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか	45.6	5.1	46.8
(37)	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	87.5	-0.3	87.6	(39)	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	86.4	0.4	86.4
(38)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	83.8	-2.2	83.5	(40)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	78.9	-1.5	79.9
(39)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか	85.0	-0.1	83.5	(41)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか	73.7	-1.8	73.8
(40)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	70.2	7.6	72.3	(42)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	43.0	0.9	44.6
(41)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	61.9	-2.0	67.0	(43)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	59.8	0.6	62.6
(42)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(H27再掲)	41.3	-1.0	45.2	(44)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか(H27再掲)	35.9	2.5	36.9
(43)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	29.0	-6.4	35.4	(45)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか（参加したことがある）	41.9	-7.8	49.0
(44)	地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	39.2	-1.9	37.1	(46)	地域の大人(学校や塾・習い事の先生は除きます)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	25.8	2.2	23.6
(45)	新聞を読んでいますか（週1～3回以上）	17.5	-3.5	18.9	(47)	新聞を読んでいますか（週1～3回以上）	14.5	-0.4	15.6
(46)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	83.5	-1.1	84.4	(48)	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）	87.2	0.5	87.5
(47)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたがりしてみたいと思いますか	65.9	-4.5	69.9	(49)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたがりしてみたいと思いますか	60.2	-4.1	63.0
(48)	将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか	29.2	-4.4	33.2	(50)	将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか	28.0	-4.9	30.6
(49)	学校のきまりを守っていますか	92.5	-0.1	92.1	(51)	学校の規則を守っていますか	94.5	-0.7	95.0
(50)	友達との約束を守っていますか	97.0	-0.2	96.9	(52)	友達との約束を守っていますか	97.2	-0.2	97.4
(51)	人が困っているときは、進んで助けていますか	84.0	-1.3	83.9	(53)	人が困っているときは、進んで助けていますか	83.5	-0.9	84.4
(52)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.0	-0.1	96.2	(54)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	92.3	-0.5	92.6
(53)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	91.4	-1.1	91.1	(55)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	91.8	-0.1	91.3
(54)	「総合的な学習の時間」では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	73.4	3.6	75.1	(56)	総合的な学習の時間では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	69.5	5.2	70.1
(55)	授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で自分たちが立てた課題に対して、自分から考え、自分から取り組んでいたと思いますか	77.7	-0.2	78.8	(57)	普段の授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で自分たちが立てた課題に対して、自分から考え、自分から取り組んでいたと思いますか	76.7	1.8	77.2
(56)	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	82.1	-2.6	84.8	(58)	普段の授業で自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	84.2	-0.2	86.2
(57)	授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	83.9	-0.6	85.0	(59)	普段の授業では、生徒の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか	82.9	1.1	83.2
(58)	授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	75.6	0.5	78.1	(60)	普段の授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	74.1	2.8	74.0
(59)	授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容をしっかり理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか	77.9	-0.2	78.8	(61)	普段の授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容をしっかり理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか	76.5	3.0	77.4
(60)	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫し発表していたと思いますか	65.7	0.8	67.4	(62)	普段の授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫し発表していたと思いますか	60.3	2.4	61.8
(61)	普段の授業の中で、授業の目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	86.6	-1.6	87.8	(63)	普段の授業の中で、授業の目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	88.4	0.6	87.7
(62)	普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	72.7	-3.5	74.7	(64)	普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	66.7	0.6	65.8

児童質問紙調査（小学校）				生徒質問紙調査（中学校）			
質問番号		平成29年度 質問事項		質問番号		平成29年度 質問事項	
		県	県-全			県	県-全
(63)	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	84.9	-3.8	86.5	(65)	授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	80.7 0.4 78.9
(64)	道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか	75.5	-3.0	77.6	(66)	道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。	78.1 2.1 79.8
(65)	授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	71.0	0.8	72.9	(67)	1. 2年生のときに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	55.2 1.5 54.6
(66)	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか	56.7	-2.8	57.1	(68)	400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか	60.7 -1.8 59.7
(67)	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか	53.5	-0.2	53.7	(69)	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか	61.3 -1.5 60.6
(68)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	66.5	-1.7	69.0	(70)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	65.7 0.9 67.3
(69)	国語の勉強は好きですか	61.3	0.8	59.8	(71)	国語の勉強は好きですか	62.2 1.7 61.6
(70)	国語の勉強は大切だと思いますか	91.0	-0.2	91.2	(72)	国語の勉強は大切だと思いますか	88.6 -0.2 88.6
(71)	国語の授業の内容はよく分かりますか	82.4	0.2	82.0	(73)	国語の授業の内容はよく分かりますか	75.0 0.1 75.2
(72)	読書は好きですか	71.6	-2.7	73.2	(74)	読書は好きですか	73.1 3.2 72.1
(73)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	87.4	-0.5	87.8	(75)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	83.8 0.5 83.6
(74)	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	68.4	0.4	69.2	(76)	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	66.4 3.7 67.9
(75)	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	64.3	0.9	66.1	(77)	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	60.8 5.2 62.0
(76)	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	74.2	-0.6	76.0	(78)	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか	68.5 2.6 70.9
(77)	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか（全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した）	74.6	-2.6	75.7	(79)	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか（全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した）	70.6 -1.7 73.5
(78)	算数の勉強は好きですか	66.6	0.7	65.6	(80)	数学の勉強は好きですか	54.4 -1.0 55.0
(79)	算数の勉強は大切だと思いますか	91.9	-0.1	91.9	(81)	数学の勉強は大切だと思いますか	81.1 0.0 80.9
(80)	算数の授業の内容はよく分かりますか	81.1	0.5	80.1	(82)	数学の授業の内容はよく分かりますか	68.2 -1.2 67.8
	算数ができるようになりたいと思いますか				(83)	数学ができるようになりたいと思いますか	91.3 0.1 91.2
(81)	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	74.7	-1.0	75.4			
(82)	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	80.1	-1.0	80.1	(84)	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	72.5 -1.0 73.9
(83)	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	69.0	-0.1	69.8	(85)	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	46.6 1.3 47.8
(84)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	88.5	-0.6	88.9	(86)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	72.5 0.1 72.0
(85)	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	80.2	-1.2	81.6	(87)	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	71.1 -0.1 73.3
(86)	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	81.1	-1.5	82.1	(88)	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	73.3 1.2 74.3
(87)	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	84.7	-1.3	85.9	(89)	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	81.4 0.1 81.6
(88)	今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題がありましたが、どのように解答しましたか（全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した）	67.4	-2.5	68.0	(90)	今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使ってわけや求め方を書く問題がありましたが、どのように解答しましたか（全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した）	51.1 -4.3 54.1
(89)	解答時間は十分でしたか（国語A）	86.4	-0.2	87.3	(91)	解答時間は十分でしたか（国語A）	92.3 -1.7 92.9
(90)	解答時間は十分でしたか（国語B）	62.8	-3.3	66.3	(92)	解答時間は十分でしたか（国語B）	82.4 -3.9 83.0
(91)	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）	86.3	-0.8	86.5	(93)	調査問題の解答時間は十分でしたか（数学A）	84.2 -5.3 85.5
(92)	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）	47.3	-5.2	50.9	(94)	調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）	69.9 -6.8 70.9

2 学校質問紙調査結果

・回答の割合は、特に指定のある質問を除き、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を合計した数値である。

小 学 校				中 学 校			
質問 番号	平成29年度 質問事項	宮城県 (仙台市を除く)		質問 番号	平成29年度 質問事項	宮城県 (仙台市を除く)	
		県	県-全			県	県-全
(12)	第6学年の児童は、熱意をもって勉強していますか	93.4	-0.8	93.9	(12)	第3学年の生徒は、熱意をもって勉強していますか	90.0 -1.7 87.7
(13)	第6学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか	89.5	-1.2	90.0	(13)	第3学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか	93.6 -1.0 94.1
(14)	第6学年の児童は、礼儀正しいですか	89.6	0.1	88.7	(14)	第3学年の生徒は、礼儀正しいですか	93.6 -0.1 92.2
(15)	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか	72.6	-4.9	71.5	(15)	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていますか	70.7 -5.2 73.4
(16)	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていますか	88.8	2.1	87.3	(16)	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていますか	89.3 0.0 89.6
(17)	児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか	64.0	-7.7	64.4	(17)	生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができていますか	73.5 0.6 74.4
(18)	自らが設定する課題や教員から設定された課題を理解して授業に取り組むことができますか	93.4	1.6	91.8	(18)	生徒は、自らが設定する課題や教員から設定された課題を理解して授業に取り組むことができますか	89.2 1.1 88.6
(19)	児童は授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていますか	54.5	-8.5	56.4	(19)	生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていますか	57.9 -3.3 60.6
(20)	第6学年の児童のうち、就学援助を受けている児童は何人ですか(選択肢1～2)	25.5	-1.3	24.6	(20)	第3学年の生徒のうち、就学援助を受けている生徒は何人ですか(選択肢1～2)	14.3 -2.0 13.8
(21)	第6学年の児童のうち、日本語指導が必要な児童は何人ですか(選択肢2～7)	3.5	-7.3	4.3	(21)	第3学年の生徒のうち、日本語指導が必要な生徒は何人ですか(選択肢2～7)	8.5 -6.7 6.9
(22)	第6学年の児童に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか(選択肢1～3)	85.8	1.9	86.3	(22)	第3学年の児童に対して、前年度に、学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか(選択肢1～3)	40.0 -9.6 36.9
(23)	第6学年の児童に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(選択肢1～5)	83.4	22.3	78.6	(23)	第3学年の生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(選択肢1～5)	88.6 5.6 86.2
(24)	第6学年の児童に対して、前年度に、土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(選択肢1～4)	3.5	-6.5	2.7	(24)	第3学年の生徒に対して、前年度に、土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(選択肢1～4)	8.5 -8.2 7.4
(25)	第6学年の児童に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(選択肢1～4)	74.9	10.7	71.2	(25)	第3学年の生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(選択肢1～4)	78.5 -2.3 73.8
(26)	知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成していますか	95.0	3.7	93.6	(26)	知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成していますか	92.2 0.2 94.1
(27)	言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか	95.0	1.1	95.3	(27)	言語活動に重点を置いた指導計画を作成していますか	92.2 1.2 93.1
(28)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	87.6	0.9	88.4	(28)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	76.4 -1.9 79.3
(29)	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるよう作成していますか	88.0	2.2	87.9	(29)	教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるよう作成していますか	72.9 -4.6 74.9
(30)	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	94.6	3.1	93.9	(30)	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	92.9 5.1 92.6
(31)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	93.4	0.8	94.7	(31)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	75.0 0.4 72.9
(32)	第6学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	89.1	-2.4	89.5	(32)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	95.0 5.4 92.6
(33)	第6学年の児童に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童に示す活動を計画的に取り入れましたか	99.6	0.6	99.2	(33)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか	99.2 0.9 98.0
(34)	第6学年の児童に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	93.1	-2.3	94.2	(34)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	96.4 2.1 95.5
(35)	第6学年の児童に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか	93.1	-0.2	93.1	(35)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか	92.8 2.3 94.6
(36)	第6学年の児童に対して、前年度までに、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	93.4	-2.1	94.2	(36)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするよう発問や指導をしましたか	97.2 3.3 97.1
(37)	第6学年の児童に対して、前年度までに、児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	96.5	-1.8	96.9	(37)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか	99.3 2.3 99.0
(38)	第6学年の児童に対して、前年度までに、授業で扱うノートに、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書くよう指導をしましたか	98.4	1.0	97.1	(38)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、授業で扱うノートに、学習の目標とまとめを書くよう指導をしましたか	92.1 0.9 88.7
(39)	第6学年の児童に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	96.9	-0.5	97.1	(39)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか	97.9 3.3 98.0
(40)	第6学年の児童に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか	84.6	-0.7	85.8	(40)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか	85.0 1.3 88.2
(41)	第6学年の授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	84.2	1.9	83.7	(41)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	75.0 -0.1 75.9
(42)	第6学年の児童に対して、前年度までに、児童に対して、本やインターネットなどの資料の調べ方を身に付けるよう指導をしましたか	93.8	1.2	95.0	(42)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、本やインターネットなどの資料の調べ方を身に付けるよう指導をしましたか	77.9 -5.6 81.8
(43)	第6学年の児童に対して、前年度までに、児童に対して、資料を使って発表ができるよう指導をしましたか	91.5	0.3	92.9	(43)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導をしましたか	82.2 -3.3 84.3
(44)	第6学年の児童に対して、前年度までに、児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	95.0	0.3	95.3	(44)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	94.3 2.2 94.1
(45)	第6学年の児童に対して、前年度までに、児童に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	84.5	8.8	84.4	(45)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	100.0 2.5 99.0
(46)	第6学年の児童に対して、前年度までに、児童に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	88.8	-2.8	89.7	(46)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	83.6 -3.4 83.3
(47)	第6学年の児童に対して、前年度までに、道徳の時間において、児童自らが考え、話し合う指導をしましたか	90.8	0.2	91.1	(47)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、道徳の時間において、生徒自らが考え、話し合う指導をしましたか	95.0 5.2 94.6
(48)	第6学年の児童に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底しましたか	95.0	-1.7	95.2	(48)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、学習規律(私語をしない、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底しましたか	97.9 -0.1 98.0

小 学 校				宮城県 (仙台市を除く)		全県	中 学 校				宮城県 (仙台市を除く)		全県
質問 番号	平成29年度 質問事項	県	県-全				質問 番号	平成29年度 質問事項	県	県-全			
(49)	第6学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	83.0	-0.3	85.0			(49)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	72.1	-3.1	73.9		
(50)	第6学年の児童に対して、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	74.5	-4.0	76.0			(50)	第3学年の生徒に対して、前年度に、教科や総合的な学習の時間、あるいは朝や帰りの会などにおいて、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	65.8	-6.2	68.0		
(51)	学校では、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価をしましたか	98.1	0.7	97.9			(51)	前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価をしましたか	97.1	1.6	96.1		
(52)	第6学年の児童に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子ども同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか	67.9	-3.7	71.3			(52)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術を活用して、子供同士が教え合い学び合う学習(協働学習)や課題発見解決型の学習指導を行いましたか	57.9	-5.9	59.1		
(53)	第6学年の児童に対する指導方法として、前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか(学期に1回以上)(選択肢1～3)	82.2	-3.3	85.4			(53)	第3学年の生徒に対する指導方法として、前年度に、国語の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか(学期に1回以上)(選択肢1～3)	57.9	6.7	53.3		
(54)	第6学年の児童に対する指導方法として、前年度に、算数の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか(学期に1回以上)(選択肢1～3)	86.9	2.6	89.5			(54)	第3学年の生徒に対する指導方法として、前年度に、数学の授業において、コンピュータ等の情報通信技術を活用した授業を行いましたか(学期に1回以上)(選択肢1～3)	75.0	3.5	66.4		
(55)	平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか	97.7	-0.6	98.1			(55)	平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか	97.1	-0.2	98.0		
(56)	平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	96.2	-0.4	96.6			(56)	平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	93.5	-0.9	94.0		
(57)	平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	96.9	6.1	97.4			(57)	平成28年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか(学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	90.7	3.9	93.6		
(58)	平成28年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか	95.4	5.5	96.3			(58)	平成28年度全国学力・学習状況調査や学校評価の自校の結果等を踏まえた学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか	85.0	1.6	88.7		
(59)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	92.6	-0.9	94.5			(59)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	90.0	-0.1	92.7		
(60)	第6学年の児童に対して、前年度に、算数の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	29.3	-5.9	31.4			(60)	第3学年の生徒に対して、前年度に、数学の授業において、習熟の遅いグループに少人数指導を行い、習得できるようにしましたか	22.9	-4.4	26.6		
(61)	第6学年の児童に対して、前年度に、算数の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	18.1	-7.7	21.1			(61)	第3学年の生徒に対して、前年度に、数学の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか	15.0	-6.9	18.2		
(62)	算数の授業において、前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか	31.3	-3.1	28.4			(62)	数学の授業において、前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか	47.8	13.1	47.3		
(63)	第6学年の算数の授業において、前年度に年間を通じておおよそ何人の集団で指導をしましたか	12.3	-2.2	9.8			(63)	第3学年の生徒に対する指導方法として、数学の授業において、前年度の第2学年で、年間を通じておおよそ何人の集団で指導をしましたか	30.7	-6.1	28.1		
(64)	第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	77.6	-1.5	77.0			(64)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	83.5	1.2	81.2		
(65)	第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	48.6	-4.1	47.2			(65)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	65.0	-2.4	65.1		
(66)	第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	90.8	-1.4	92.6			(66)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか	88.6	1.1	90.6		
(67)	第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	92.2	-1.2	91.3			(67)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	98.6	2.9	99.0		
(68)	第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	88.1	-0.8	87.4			(68)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	83.6	-7.0	87.7		
(69)	第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	98.0	-0.1	98.1			(69)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか	97.1	-1.3	98.0		
(70)	第6学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	96.2	2.9	95.8			(70)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか	92.9	1.0	91.7		
(71)	第6学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	62.2	-4.7	60.5			(71)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	61.5	-9.7	64.5		
(72)	第6学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	73.3	-1.9	72.3			(72)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	73.6	2.7	70.5		
(73)	第6学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	96.9	-0.6	97.1			(73)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	95.0	-1.5	93.6		
(74)	調査対象である第6学年の児童に対する算数の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたが(選択肢1のみ)	7.7	-1.3	9.8				第3学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行いましたか					
(75)	教員は特別支援教育を理解し、前年度までに第6学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫を行いましたか	87.3	-4.0	88.7			(74)	学校の教員は特別支援教育を理解し、前年度までに、第3学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫を行いましたか(選択肢1のみ)	86.4	-4.5	89.2		
(76)	前年度までに、近隣等の中学校と教育目標を共有する取組を行いましたか	33.2	-24.9	41.9			(75)	前年度までに、近隣等の小学校と教育目標を共有する取組を行いましたか	41.4	-22.0	44.3		
(77)	前年度までに、近隣等の中学校と授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	42.4	-23.2	45.4			(76)	前年度までに、近隣等の小学校と授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	60.0	-14.8	59.1		
(78)	前年度までに、近隣等の中学校と教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定など教育課程に関する共通の取組を行いましたか	26.2	-25.1	31.4			(77)	前年度までに、近隣等の小学校と教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定など教育課程に関する共通の取組を行いましたか	35.0	-23.2	36.4		
(79)	前年度までに、平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	38.9	-14.1	43.8			(78)	前年度までに、平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	39.3	-17.5	41.3		
(80)	第6学年の児童に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	87.3	3.1	88.4			(79)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか	74.3	5.4	68.0		
(81)	第6学年の児童に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	49.8	-0.1	54.3			(80)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか	35.0	3.6	31.5		

小 学 校			宮城県 (仙台市を除く)		全県	中 学 校			宮城県 (仙台市を除く)		全県
質問 番号	平成29年度 質問事項		県	県-全		質問 番号	平成29年度 質問事項		県	県-全	
(82)	第6学年の児童に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか		37.1	-11.1	42.7	(81)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか		12.1	-11.0	32.5
(83)	第6学年の児童に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか		79.2	3.6	80.5	(82)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導をしましたか		71.4	3.4	73.4
(84)	第6学年の児童に対して、前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか		90.0	4.1	91.0	(83)	授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を設定しましたか		87.1	8.7	85.2
(85)	第6学年の児童に対して、第5学年のまでの間に自然の中での集団宿泊的活動を行いましたか（1泊2日以上）（選択肢1～4）		98.5	4.3	98.7						
(86)	あなたの学校では、職場見学や職場体験活動を行っていますか（選択肢1のみ）		28.6	-16.8	39.3	(84)	あなたの学校では、職場見学や職場体験活動を行いましたか（選択肢1のみ）		100.0	1.1	100.0
(87)	あなたの学校では、PTAや地域の人が学校の諸活動（学校の美化、登下校の見守り、学校行事の支援など）にボランティアとして参加してくれますか		98.0	-0.6	97.9	(85)	あなたの学校では、PTAや地域の人が学校の諸活動（学校の美化、登下校の見守り、学校行事の支援など）にボランティアとして参加してくれますか（選択肢1～4）		97.9	0.4	98.5
(88)	学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか		86.9	-1.8	89.2	(86)	学校支援地域本部などの学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれますか		68.5	-8.9	75.8
(89)	保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか		98.1	0.8	98.4	(87)	保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか		95.0	1.3	95.6
(90)	第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか		100.0	0.4	100.0	(88)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか		91.5	-1.5	90.1
(91)	第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（長期休業の課題除く）について、評価・指導しましたか		99.6	1.2	99.5	(89)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（長期休業の課題除く）について、評価・指導しましたか		95.0	0.1	95.5
(92)	第6学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか		100.0	0.4	100.0	(90)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか		95.0	0.3	95.1
(93)	第6学年の児童に対する算数の指導をして、前年度までに、家庭学習の課題（長期休業の課題除く）について、評価・指導をしましたか		99.6	1.0	99.8	(91)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（長期休業の課題除く）について、評価・指導しましたか		95.0	-0.1	95.0
(94)	第6学年の保護者に対して、前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけをしましたか（国・算共通）		98.0	1.0	98.1	(92)	第3学年の生徒の保護者に対して、前年度までに、生徒の家庭学習を促すような働きかけをしましたか（国・数共通）		91.4	3.8	91.6
(95)	第6学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国・算共通）		92.3	2.7	92.6	(93)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国・数共通）		75.7	-6.5	77.8
(96)	第6学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えましたか（国・算共通）		85.4	2.3	85.3	(94)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出しましたか（国・数共通）		67.8	-2.0	68.5
(97)	第6学年の児童に対して、前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか（国・算共通）		94.6	2.4	94.2	(95)	第3学年の生徒に対して、前年度までに、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか（国・数共通）		89.3	1.0	91.1
(98)	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか		98.5	-0.7	98.7	(96)	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか		98.5	0.5	98.0
(99)	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか		76.1	-17.5	79.1	(97)	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか		65.0	-23.4	71.4
(100)	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか		95.0	-0.6	94.4	(98)	模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか		89.2	-0.8	91.1
(101)	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか		97.3	0.0	97.9	(99)	教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか		97.9	2.9	97.0
(102)	個々の教員が自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか		75.3	-10.2	78.9	(100)	教員は、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか		74.3	-7.2	75.9
(103)	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか		61.7	-14.3	64.6	(101)	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか		60.0	-8.6	62.1
(104)	授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか（年間13回以上）		25.9	-6.9	31.6	(102)	授業研究を伴う校内研修を昨年度、何回実施しましたか（年間13回以上）		19.3	1.8	22.1
(105)	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか		98.5	2.1	97.6	(103)	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか		96.4	3.8	95.0
(106)	学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか		94.6	-1.2	95.3	(104)	学習指導と学習評価の計画の作成にあたっては、教職員同士が協力し合っていますか		91.4	-2.4	93.6
(107)	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか		89.9	-1.2	89.2	(105)	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか		75.7	-6.8	79.8
(108)	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか		92.6	0.3	92.6	(106)	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか		85.7	-3.1	87.2
(109)	学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか		98.9	0.1	99.2	(107)	学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有していますか		98.6	0.2	99.0
(110)	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか		97.3	-0.7	97.9	(108)	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか		97.1	0.5	97.1
(111)	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか		91.5	-3.0	93.1	(109)	校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか		89.2	5.7	86.2

『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアを行いつつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

学力向上に向けた5つの提言

1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

2 子供をほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。

3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

5 家庭学習の時間を確保すること。

学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。また、保護者には、子供に声を掛けたり子供を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになることを伝えましょう。

5 学力向上に向けた 5つの提言

理解 継続 自校化

宮城県教育委員会

平成29年10月

「学力向上に向けた5つの提言」は、宮城県の喫緊の課題である学力向上を図るために、精神科医、大学教授、市町村教育委員会教育長、PTA代表、小・中学校教員等を委員とした緊急会議を開催し、平成25年10月16日に提言として、全ての教員が実践化に努めていく内容をまとめたものです。

これまでの取組、そして今後の取組について、一人一人立ち止まって考えてみましょう。

「学力向上に向けた5つの提言」を 子供たちはどのように受け止めているのでしょうか？



宮城県児童生徒学習意識等調査の結果を活用して、皆さんの学校の様子と自分自身の取組を振り返ってみましょう。そこから子供たちの「5つの提言」の受け止め方を確認してみましょう。

平成29年度の児童生徒学習意識等調査の「A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の合計の割合（％）と、同調査の学校質問紙調査の「A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる」と回答した学校の合計の割合（％）を確認してみましょう。

また、自分の取組についても振り返り、「A：当てはまる、B：どちらかといえば当てはまる、C：どちらかといえば当てはまらない、D：当てはまらない」の範囲で評価してみましょう。

○提言1 声を掛けてもらっている？ 話を聞いてもらっている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか。			
2 先生はあなたの話を聞いてくれますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか。			
2 児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聴きましたか。			

○提言2 ほめてもらっている？ 認めてもらっている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価しましたか。			

**○提言3 授業のねらいが明確だと感じている？
授業のまとめができていていると感じている？**

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 授業のはじめに先生から目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。			
2 授業のおわりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 児童生徒に対して、授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。			
2 児童生徒に対して、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。			

○提言4 ノートに考えを書いている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 児童生徒に対して、ノートのとり方（ワークシートやプリント類を除く）を指導しましたか。			
2 児童生徒に対して、自分の調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか。			

○提言5 家庭学習をしている？

児童生徒質問紙	宮城県	あなたの学校	あなたの学級
1 家で、学校の宿題をしていますか。			
2 家で、学校の授業の復習をしていますか。			
3 家で、学校の授業の予習をしていますか。			

学校質問紙	宮城県	あなたの学校	あなた自身
1 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。			
2 児童生徒に対して、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか。			
3 児童生徒の保護者に対して、児童生徒の家庭学習を促す働き掛けをしましたか。			

5つの提言 宮城

検索

「5つの提言」の内容の確認と
様式のダウンロードはこちら！

子供たちと先生方の意識はそろっているでしょうか？



平成26年度から平成28年度まで実施した宮城県学力・学習状況調査の3年間の結果から、「5つの提言」それぞれについて、子供たちと先生方の意識のかい離について考えてみましょう。

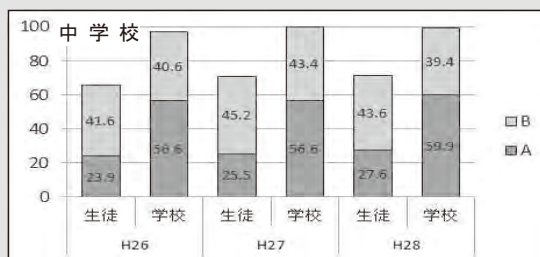
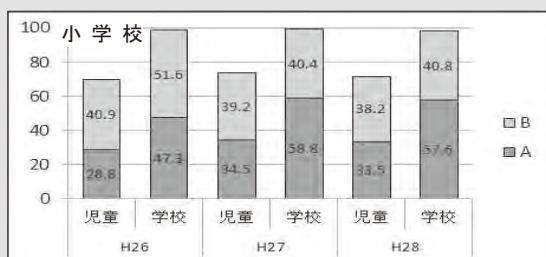
提言 1

○先生から声を掛けられたり、励まされたりしますか
○児童生徒一人一人に積極的に声を掛け、励ましましたか

※ 上段：児童生徒質問紙
※ 下段：学校質問紙

	H26			H27			H28		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
A+B	69.7	98.9	-29.2	73.7	99.2	-25.5	71.7	98.4	-26.7
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
A+B	65.5	97.2	-31.7	70.7	100	-29.3	71.2	99.3	-28.1

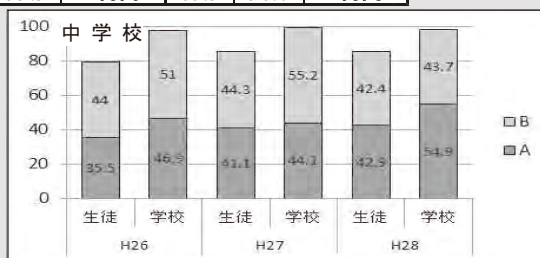
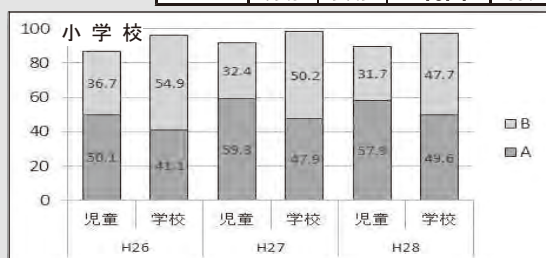
■：A当てはまる □：Bどちらかと言えば当てはまる



提言 1

○先生はあなたの話を聞いてくれますか
○児童生徒一人一人の声に耳を傾け、話をよく聴きましたか

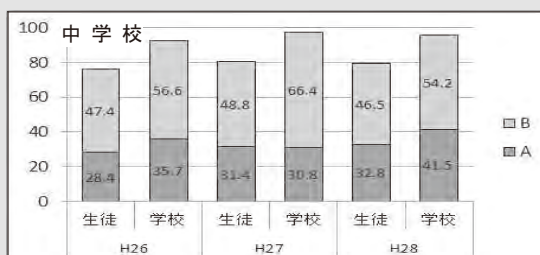
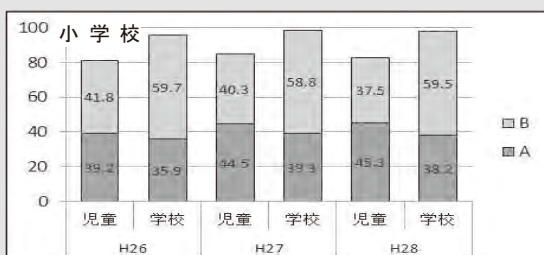
	H26			H27			H28		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
A+B	86.8	96.0	-9.2	91.7	98.1	-6.4	89.6	97.3	-7.7
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
A+B	79.5	97.9	-18.4	85.4	99.3	-13.9	85.3	98.6	-13.3



提言 2

○先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか
○学校生活の中で、児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ、伝えるなど積極的に評価しましたか

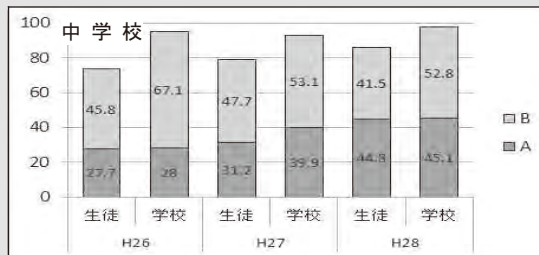
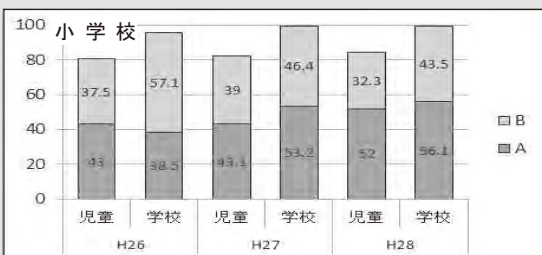
	H26			H27			H28		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離
A+B	81.0	95.6	-14.6	84.8	98.1	-13.3	82.8	97.7	-14.9
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離
A+B	75.8	92.3	-16.5	80.2	97.2	-17.0	79.3	95.7	-16.4



提言 3

- 授業のはじめに先生から目標(めあて・ねらい)が示されていると思いますか
○授業の冒頭で(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか

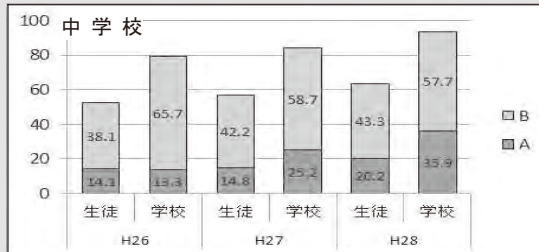
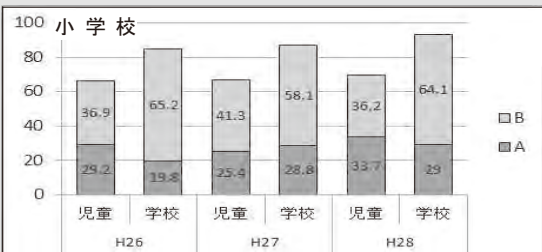
	H 2 6				H 2 7				H 2 8		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校
A+B	80.5	95.6	-15.1	82.1	99.6	-17.5	84.3	99.6	-15.3		
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校
A+B	73.5	95.1	-21.6	78.9	93.0	-14.1	86.3	97.9	-11.6		



提言 3

- 授業の終わりにその時間の学習内容を振り返る活動が行われていると思いますか
○授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れしましたか

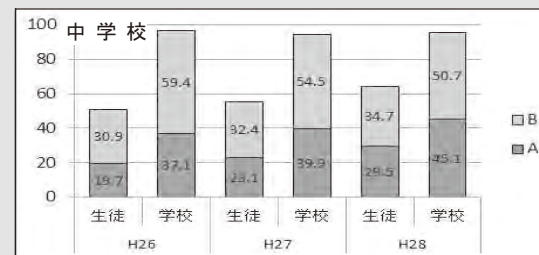
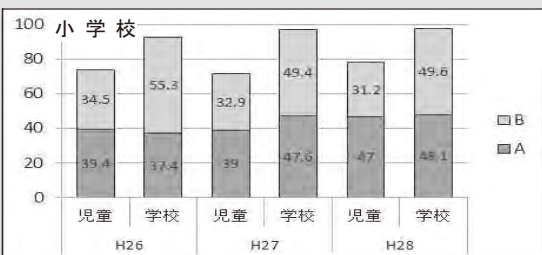
	H 2 6				H 2 7				H 2 8		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校
A+B	66.1	85.0	-18.9	66.7	86.9	-20.2	69.9	93.1	-23.2		
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校
A+B	52.2	79.0	-26.8	57.0	83.9	-26.9	63.5	93.6	-30.1		



提言 4

- 授業で、自分の考えをノートに書くようにしていますか
○ノートの取り方(ワークシートやプリント類を除く)を指導しましたか

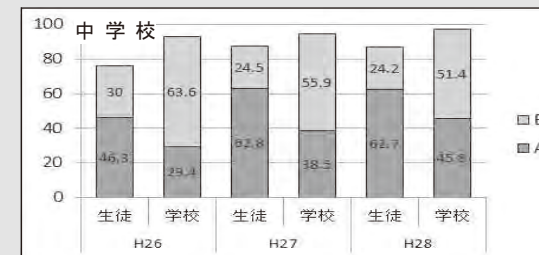
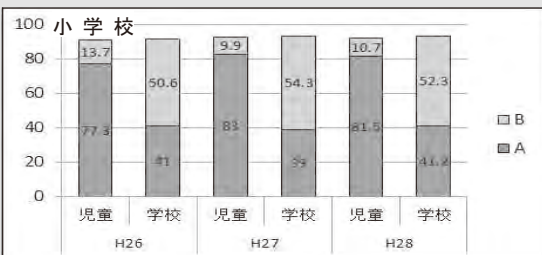
	H 2 6				H 2 7				H 2 8		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校
A+B	73.9	92.7	-18.8	71.9	97.0	-25.1	78.2	97.7	-19.5		
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校
A+B	50.6	96.5	-45.9	55.5	94.4	-38.9	64.2	95.8	-31.6		



提言 5

- 家で、学校の宿題をしていますか
○家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか

	H 2 6				H 2 7				H 2 8		
小学校	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校	かい離	児童	学校
A+B	91.0	91.6	-0.6	92.9	93.3	-0.4	92.2	93.5	-1.3		
中学校	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校	かい離	生徒	学校
A+B	76.3	93.0	-16.7	87.3	94.4	-7.1	86.9	97.2	-10.3		



5 学力向上に向けた 5つの提言 の 充実のための「3つの柱」

理 解

継 続

自校化

理 解

なぜ、「5つの提言」が設定されたのか。その一つ一つの意味をもう一度確認し、先生方で共通理解をした上で、実践することが大切です。

提言の意味を理解した取組は、先生方の考えや思いを児童生徒にしっかり伝えることになり、一層充実した実践へとつながります。

それぞれの提言の 意味を確認しましょう

- 提言 1 子供たちの心のケアや人間関係づくりのために
- 提言 2 子供たちの自己肯定感と自己有用感を育み、学習への集中力を高めるために
- 提言 3 1単位時間で育てる力を明確にするために。子供の学びを的確に把握し、後の指導に生かすために
- 提言 4 思考力、判断力、表現力等を育てるために
- 提言 5 知識や技能の定着や授業での理解を早めるために。保護者が子供に声を掛けたり、子供の努力を認めたりすることができるようにするために

次のような 意味も含んでいます

- ◆ 提言 1, 2 先生と子供たち、子供たち同士の信頼関係が学力向上及び生徒指導の基盤であること
- ◆ 提言 3, 4 授業の基礎・基本の一つであり、どの授業でも必ず行われているべきものであること
- ◆ 提言 5 家庭学習の充実は、授業において提言 3, 4 が実践されていることが前提であること

取 組 事 例

〈小・中学校の取組〉

- 年度初めの校内研究全体会で、提言の一つ一つについて確認する場を設け、具体的な実践内容とその意味について、共通理解を図っています。
- 子供たちが1年間の振り返りを記入する「自己評価表」に、「5つの提言」に関する項目を設定し、記入させています。その結果を踏まえて、次年度の指導に生かしています。
- 「5つの提言」を学校だよりに掲載したり、学年懇談会で説明したりして、保護者にも内容を理解してもらい、協力して取り組んでいけるように努めています。

継 続

授業づくり、学級づくりの基盤とも言える「5つの提言」は、当たり前のことだからこそ、地道に、そして着実に継続することが大切です。

学校生活のあらゆる場面で継続しましょう

子供と関わる全ての先生方の目と、耳と、言葉と、全身で「子供に声を掛ける」、「子供の声に耳を傾ける」、「子供をほめる、認める」を学校生活のあらゆる場面を使って継続して実践することが大切です。その際、次の点に留意することが必要です。

- 発達の段階を踏まえ、その子供に適した声の掛け方、ほめ方をしましょう。
- 先生方で情報交換しながら、その子供のよさを見逃さずにほめ、認めましょう。
- 自分の気持ちや考えを声や行動に表すのが苦手な子供がいることを理解しましょう。全ての子供たちに声を掛け、言葉に耳を傾けましょう。

取組事例

- 「九九暗唱チャレンジ」、「週末算数オリンピック」、「マラソンカード」、「縄跳び検定」など、様々な場面で児童の努力や挑戦しようとする意欲を認め、主体的に取り組む態度を育てています。
- 休み時間にも全ての教職員が意識して生徒に声を掛けることに取り組んだことで、生徒にとっても気軽に話せる環境になり、授業でも主体的に取り組む姿が見られるようになってきました。

終始まで確実に続ける授業を継続しましょう

1 単位時間を計画どおりに終わらせることは、授業の基本です。

- 「ねらい」の提示と「振り返り」を毎時間継続して行うことで、子供たちが1 単位時間の「ねらい」と「まとめ」を一体として理解できるようにしましょう。
- 指導内容のまとまりによって、2 単位時間でねらいを達成する授業もあります。指導計画をきちんと立て、1 時間目、2 時間目それぞれのねらいとまとめを明確にし、子供たちが2 時間で最終的なねらいを達成できたと実感できるようにしましょう。
- 子供たちが自分で考えたり、まとめたりすることができるように、時間と手間を掛けてノートの使い方を指導する必要があります。全教科で繰り返し指導しましょう。
- 「1 時間目の授業が延びてしまったため2 時間扱いになってしまった・・・」とならないように教科部会で指導計画を検討し、作成しましょう。

取組事例

〈小学校の取組〉

- 単元計画を工夫し、授業の「振り返り」には毎時間必ず適用問題を入れることで定着率がアップしてきました。
- ノートの使い方を統一して指導したことで、「振り返り」に役立つ見やすいノートを作る児童が増えてきました。

〈中学校の取組〉

- 教科部会で授業の流れ、自己評価の方法などを検討し、学期ごとにその見直しを行うことで、教科の先生方全員の力が高まってきました。

〈小・中学校の取組〉

- 校内研究会で全国学力調査の問題を全員で解き、学習指導要領の内容と照らし合わせることで、重点を置いて指導する内容が明確になりました。
- 学習指導要領の内容を教科部会で確認したことで、授業のねらい、留意点、指導内容の系統性を明確にすることができた。

9年間の継続を図りましょう

小学校6年間、中学校3年間の9年間において継続し実践することが大切です。

- 小学校1年生から6年生まで、中学校は1年生から3年生まで同じ約束事で実践すること、発達の段階に応じ学年によって変えていくことを学校として明確にしておきましょう。
- 発達の段階に応じた「5つの提言」の実践により、子供たちにとって切れ目のないものになるようにしましょう。
- 小・中の連携を図り、9年間の継続した実践となるようにしましょう。

取組事例

〈小・中学校の取組〉

- 小・中学校9年間を見通して、中学校区で共通に実践する学習ルールを決め、各教室に掲示するなどした結果、小学校から中学校への学習の移行がスムーズになってきました。
- 小・中学校の授業を互いに見合う機会を設けた結果、指導内容や指導方法など、系統性を意識した指導を大事にするようになってきました。
- 小・中学校9年間の系統を分析し、身に付けさせたい力を示した「単元構想表」を各教科で作成し、実践したことで、既習事項の確認や、活用を図る授業を展開しやすくなりました。

自校化

児童生徒の実態、学校の実情は、それぞれの学校で異なります。全ての学校で同じように取り組めることもあります。自分たちの学校ならではの取組を検討し、自校化を図ることが大切です。

自校のよさと課題を踏まえた自校化を図りましょう。

自分たちの学校のよさと課題を先生方で話し合い、共通理解を図り、共通に実践することが大切です。

- 「信頼関係がまだ十分とはいえない」、「児童生徒が授業に集中できていない」、「家庭学習の習慣が身に付いていない」等のそれぞれの学校の課題に対して、特に重点を置く提言を決めることも大切です。
- 「信頼関係がまだ十分とはいえない・・・」と同じ課題を抱えた学校でも、学校の持ち味や強み等の状況により、**提言1**に重点を置く学校、**提言3**に重点を置く学校等、違いが出ることもあります。
- 重点を置く提言について、保護者に説明し、理解と協力を得ることも大切です。特に**提言5**「家庭学習の時間を確保すること」の実践には必要となります。
- 各学校の課題を踏まえて実践したことに対する評価が大事です。PDCAサイクルを確立していくことが提言の充実につながります。

取組事例

〈小学校の取組〉

- 今年度の努力事項として、「脱ワークシート」を掲げ、全教員で実践に努めることで、ノートの活用が一層図られてきました。

〈小・中学校の取組〉

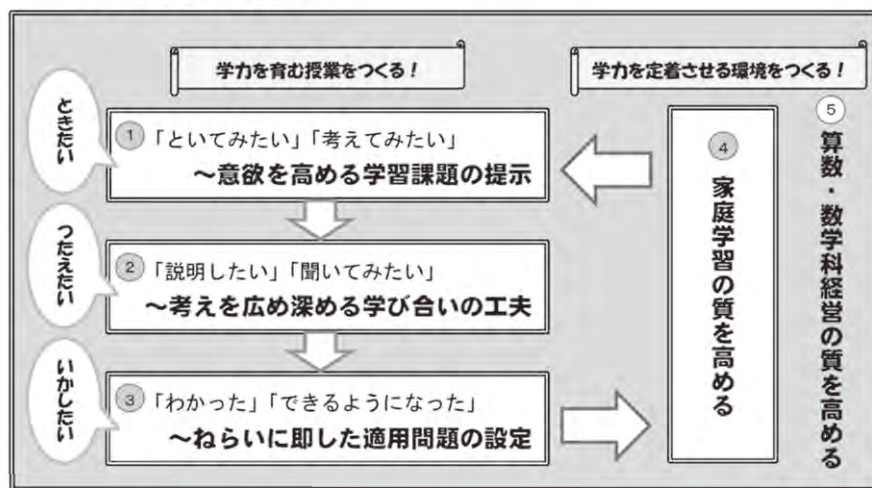
- 家庭学習や宿題について校内で共通理解を図り、保護者と連携して授業と家庭学習のサイクルの確立に努めたことで、自主的な学習態度が育ってきました。

すぐに役立つ 全ての教室で取り組む学力定着 算数・数学 ステップ・アップ 5 ファイブ 事例集

算数・数学の確かな学力を定着させるためには、児童生徒の実態を踏まえ、教員間で共有した具体的な手立てを、全ての教室で着実に実践することが大切です。宮城県学力向上対策協議会では、「学力向上に向けた5つの提言」の趣旨を踏まえ、特に算数・数学に焦点化した学力向上対策「算数・数学ステップ・アップ5」を策定し、実践化・自校化を働き掛けています。この資料は、各学校の実践の参考となるよう、先導的に取り組んでいる学校の事例を取りまとめたものです。

ぜひ、校種や教科にかかわらず、全ての先生方の授業改善に御活用願います。

<学力向上対策>



web フラスα

この事例集は「授業改善の入口」です。
ホームページには他の実践例や関連資料
もありますので参考にしてください。

詳しくは

宮城県 義務教育課

検索



平成28年7月
宮城県教育委員会

教員の授業力向上，児童生徒の学力向上に結び付く参考文献等へのアクセス方法

【宮城県総合教育センターウェブページへのアクセス方法】

宮城県総合教育センターの学力向上や専門研究・長期研修等に係るウェブページにアクセスするには，宮城県総合教育センタートップページのメニューバーより，「学校支援」や「専門研究・長期研修」を選択してください。

学校支援

先生方の授業づくりや学級づくり，生徒指導をサポートします！

カリキュラム開発支援室 指導主事が授業づくりをお手伝いします。 来所による相談にも対応しております。 ※【文献データ】【学習指導案データ】はここから入ります。	特別支援教育 教師のためのサポートブックや，研究事例など，特別支援教育に関する情報を提供しています。	情報教育 情報教育に関する情報を提供しています。	理科教育 理科の授業づくりを提案しています。また，当センターで実施している科学巡回指導訪問の様子もお知らせしています。
学力向上サポートプロジェクト事業 学力向上サポートプログラム事業の報告書をダウンロードすることができます。	検証改善委員会 宮城県検証改善委員会の報告書をダウンロードすることができます。	指導の手引き ◆漢字指導の手引き ◆計算指導の手引き ◆「記述する力」を高める授業支援プラン（算数・数学）	単元問題ライブラリー 国語，算数・数学の単元問題ライブラリーがダウンロードできます。

専門研究・長期研修

専門研究や長期研修の成果を提供しています。

専門研究	本県の今日的課題について，所員と共同で研究しています。 研究ダイジェスト版，研究報告書，補助資料等を掲載しています。
長期研修	授業づくりにかかわる課題を解決したり教材開発を行ったりしています。 長期研修員A（6か月間の研修）と長期研修員B（年25回の来所研修）の各教科等の研修での報告書，補助資料を掲載しています。

※宮城県総合教育センターのアドレスは「<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/>」です。

宮城県検証改善委員会について

宮城県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査の結果等を分析し、教育委員会・学校における課題や効果的な取組を明らかにしながら、授業改善につなげるための協議を重ねてきました。その結果、学力向上のための学校改善に活用できる資料として作成したものが本報告書です。今年度は、『やるぞ！』を引き出し、『できた！』を実感させる授業を目指して」をテーマに、3つの提言と小学校国語・算数、中学校国語・数学の指導改善のポイントを作成しました。

各学校においては、児童生徒一人一人が主体的・対話的に学習に取り組むよう、本報告書を学校や地域の実態に合ったものに自校化していただき、積極的に活用されることを願っています。

学校における活用例～こんな活用はどうでしょうか～

※必要なページをコピーして活用できます。

（宮城県総合教育センターHPからもダウンロードができます。）

【主に、校長先生、教頭先生へ】

○職員会議や打合せ等での活用

・自身の豊富な教育経験を例に挙げ、本報告書の内容について教職員へ具体的なアドバイスをするなど

○学校だより等への引用、PTA研修会等での活用

・本報告書の内容を引用しながら、学校の特色ある取組を保護者や地域へ発信するなど

【主に、教務主任の先生、研修を担当する先生へ】

○各種会議等での参考資料として活用

・研修会、授業研究会、指導計画作成会議等において、本報告書の内容を参考に協議の観点を設定するなど

○研修だより等への活用

・本報告書の内容にかかわって校内外の優れた実践例などを掲載し、校内の教職員で共有するなど

【学級担任の先生、教科担任の先生、指導にかかわる全ての方へ】

○授業づくり、学級づくりなどへの活用

・学級経営案や教科指導方針の作成や、授業づくりのポイントをつかむ参考資料として活用するなど

・児童生徒の実態を踏まえて、学習習慣の形成に向けて共通理解したい事項を確かめるなど

《平成29年度宮城県検証改善委員会》

回	月 日	主 な 活 動 内 容
1	7 月 25 日	・本委員会の方針、計画等の決定
2	9 月 8 日	・平成29年度全国学力・学習状況調査結果の分析、課題等の整理
3	9 月 29 日	・報告書の構成内容の協議 ・課題を踏まえた指導改善のポイントの吟味、提言内容等の協議
4	10 月 12 日	・課題を踏まえた指導改善のポイントの吟味、提言内容等の協議
5	11 月 10 日	・報告書内容、表現の吟味、校正

《平成29年度宮城県検証改善委員》

吉村 敏之	(宮城教育大学教職大学院 教授)
平 真木夫	(宮城教育大学教職大学院 教授)
林 恵美子	(加美町立旭小学校 校長)
渡 邊 真由美	(栗原市立瀬峰中学校 教頭)
小笠原久美子	(宮城県立角田支援学校白石校 教諭)
樋 川 研 吾	(仙台教育事務所 次長)
福 田 美 穂	(北部教育事務所 主幹)
本 田 正 晴	(東部教育事務所登米地域事務所 主幹)
新 井 雅 行	(義務教育課 課長補佐)
中 鉢 裕	(総合教育センター 副所長)
川 田 尚	(総合教育センター 副参事)
小 野 久 行	(総合教育センター 次長)
一 條 美 奈	(総合教育センター 次長)
阿 部 朋 樹	(総合教育センター 主幹)
佐 藤 靖 泰	(総合教育センター 主幹)
本 間 睦 美	(総合教育センター 主幹)



宮城県検証改善委員会報告書

「やるぞ！」を引き出し、「できた！」を実感させる授業を目指して

発行年月 平成30年1月

編集発行 宮城県総合教育センター

住 所 名取市美田園2丁目1番4号

電 話 022-784-3541



この冊子の本文は古紙パルプ
配合率70%の再生紙を使用

